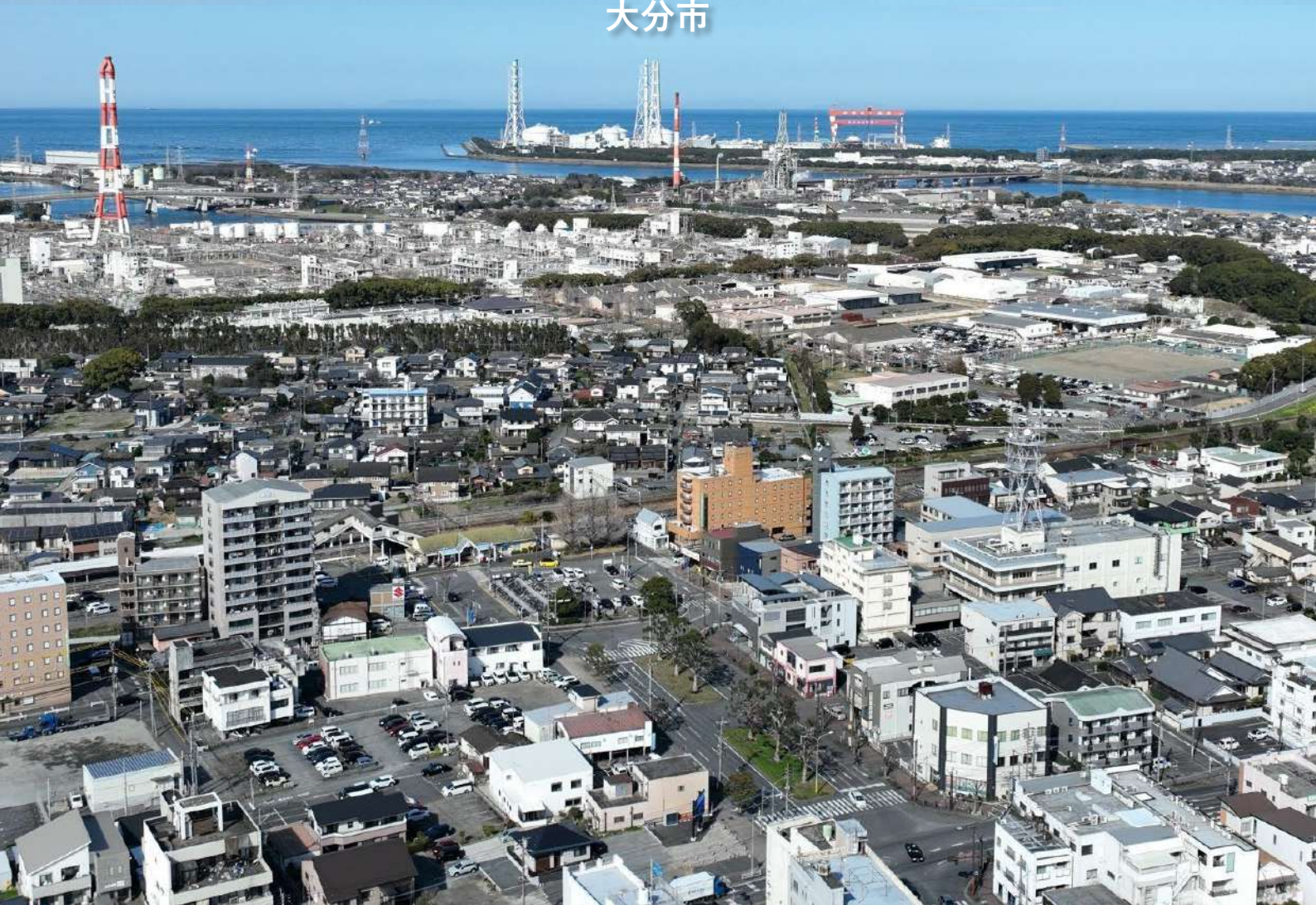

鶴崎駅前広場 整備基本計画

令和7年4月
大分市



目 次

序 章

1. 計画策定の背景と目的	2
2. 計画の対象	3
3. 計画の策定体制	4

第1章 鶴崎駅周辺の概況

1. 鶴崎駅周辺を取り巻く状況	6
1-1. 人口動向	6
1-2. 交通環境	7
1-3. 土地利用の状況	9
1-4. 建物用途の状況	10
1-5. 都市機能の立地状況	11
1-6. 歴史的資源の状況	12
1-7. 法規制の状況	15
1-8. ハザードエリアの状況	16
2. 駅前広場周辺の現状	18
3. 駅前広場の利用状況に関する実態調査	20
3-1. 歩行者	21
3-2. 自転車	22
3-3. 自動車	23
3-4. 自動車整理場	24
4. 市民意向の把握	25
4-1. ワークショップ	25
4-2. 鶴崎駅周辺整備推進協議会	30

第2章 鶴崎駅周辺の課題

1. 問題点とニーズへの対応に向けた視点	34
2. 鶴崎駅周辺における解決すべき課題	35
2-1. 駅前広場に関する課題	35
2-2. 県道鶴崎停車場線に関する課題	36
2-3. 鶴崎駅周辺に関する課題	37
2-4. 鶴崎駅周辺における解決すべき課題	38

第3章 駅前広場の整備方針

1. 整備方針	40
---------------	----

第4章 駅前広場の整備計画

1. 整備の方向性	44
1-1. 駅前広場の交通空間に関する施設計画	44
1-2. 駅前広場の環境空間に関する施設計画	46
1-3. 配置計画	48
2. 基本計画図	52
2-1. 平面計画	52
2-2. 断面計画	53

第5章 計画実現に向けて

1. 空間の確保について	56
1-1. 駅前広場の植樹帯	56
1-2. 県道鶴崎停車場線の中央帯	57
2. 自由通路の検討について	58
3. 鶴崎駅周辺の各取組の実施時期のイメージ	59

資 料 編

1. 上位・関連計画の整理	62
2. ワークショップ	80
3. 交通量調査結果	93
4. 鶴崎駅前広場の将来利用者数（目標値）	95
5. 鶴崎駅前広場整備基本計画の策定経過	98
6. 策定委員会名簿	99
7. 用語解説	100

序 章

1. 計画策定の背景と目的
2. 計画の対象
3. 計画の策定体制

1. 計画策定の背景と目的

本市の北東部に位置する鶴崎地区は、別府湾に注ぐ大野川と乙津川による広い沖積平野であり、古くから水運を利用し、瀬戸内海航路の拠点として発展してきました。豊かな歴史と自然に恵まれた鶴崎地区では、鶴崎踊に代表される伝統行事も数多く受け継がれています。

1914（大正 3）年に JR 日豊本線鶴崎駅が開業したことにより、鶴崎地区は大分市と大分郡・北海部郡を結ぶ重要な結節点として大きく変貌を遂げました。昭和に入ると、大企業が次々と立地し、1963（昭和 38）年には鶴崎市と大分市が合併、1964（昭和 39）年には新産業都市に指定されたことにより企業誘致が進み、現在では都市の中核を形成しています。

鶴崎駅周辺（JR 鶴崎駅及び県道鶴崎停車場線を核とし、鶴崎市民行政センターや大分鶴崎高等学校付近までを含む。）は、地域に根付いた歴史や文化を生かした地区拠点の形成を図るため、今後の持続的な発展が期待されています。

一方で、鶴崎駅周辺では人口減少や少子高齢化に伴い、商店街などに空き地や空き家、空き店舗が増加し、まちの活力や賑わいが失われるなどの問題も生じています。

現在、鶴崎駅周辺の東西を結ぶ国道 197 号において、大分市東部地区の交通問題の解消を目指し、志村～乙津間の 4 車線化に向けた拡幅工事が進められています。これらの取組は、鶴崎駅周辺のまちづくりにも大きな変化をもたらすものと考えられます。このような環境の変化を好機と捉え、鶴崎地区の地区拠点にふさわしい魅力ある都市空間の再構築（リニューアル）が求められています。

このような背景を踏まえ、「鶴崎駅周辺整備基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定し、豊かな歴史と自然環境、そして既存の都市基盤を最大限に生かしながら、課題に対応した適切なリニューアルを進めることで、次世代を担う子どもたちやその親世代を含む多世代が豊かに暮らしていくためのまちを目指し、実現に向けた具体的な施策を順次展開していくこととしています。

「鶴崎駅前広場整備基本計画」は、この基本構想に基づき、市民、行政、まちづくりの専門家等が協働して、鶴崎駅前広場と県道鶴崎停車場線の整備方針や整備計画を策定することを目的としています。

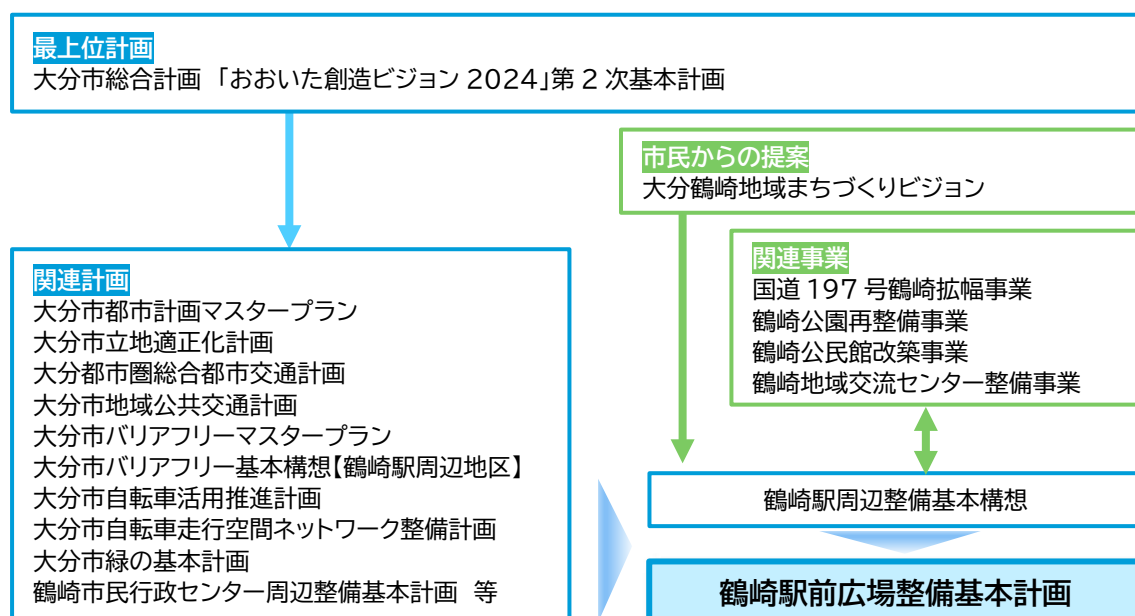


図 1 計画の位置づけ

2. 計画の対象

本計画の対象は、鶴崎駅前広場および県道鶴崎停車場線とします。

なお、鶴崎駅前広場は、1955（昭和 30）年 12 月 24 日に都市計画決定※¹された交通広場であり、計画面積は 3,500m²となっています。

また、基本構想で展開される他の取組が密接に関連することから、本計画は鶴崎駅周辺も含む広域的な視点から市民ニーズに対応するものとします。

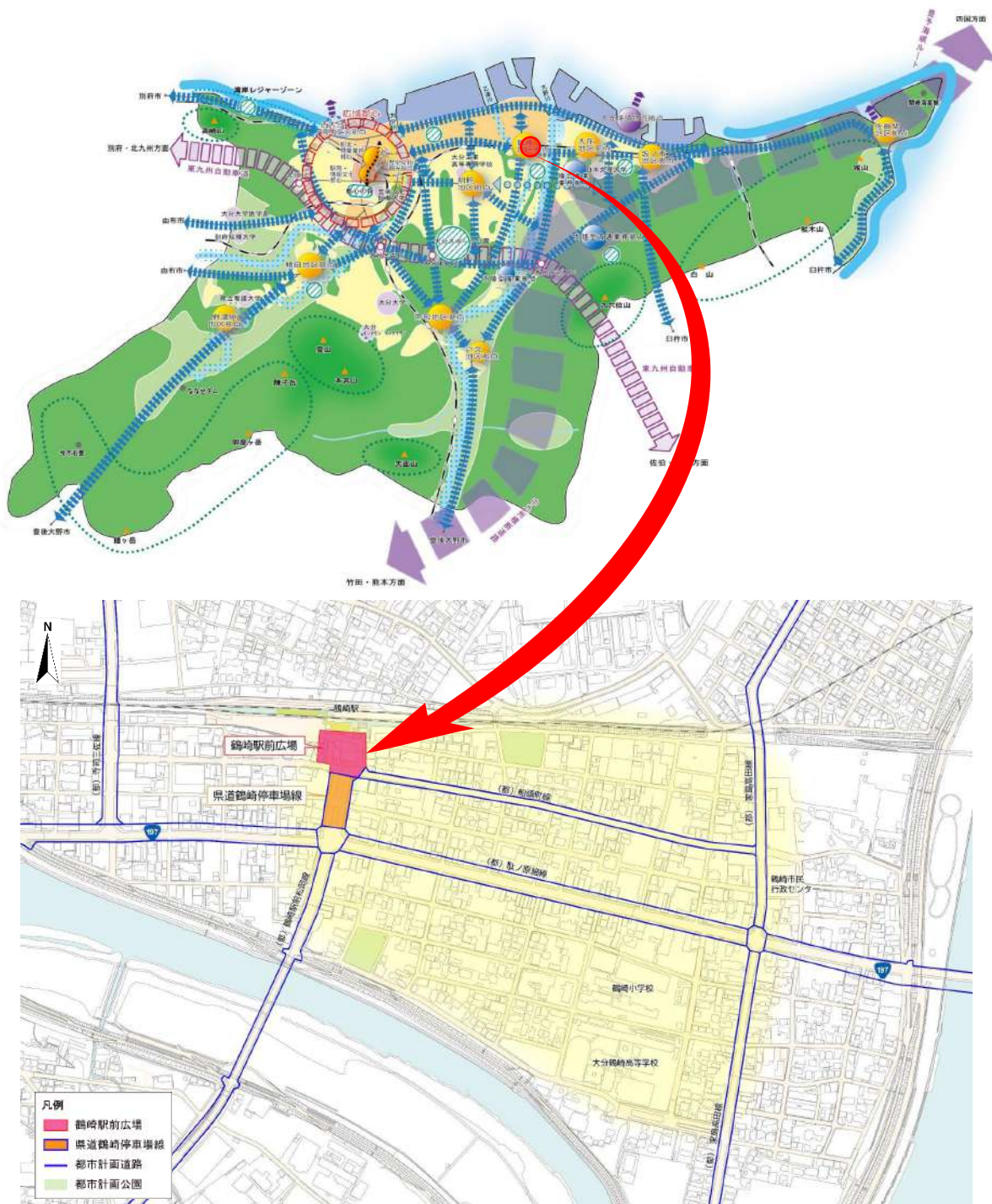


図 2 計画の対象

※1 都市計画決定

都市計画法に基づき、土地利用（土地の用途など）、都市施設（道路、公園、上下水道など）、計画的な市街地形成などについて計画を定めること。

3. 計画の策定体制

本計画の策定にあたって、有識者などで構成された「鶴崎駅前広場整備基本計画策定委員会」を設置し、庁内の関係各課及び関係機関との議論を通じて計画策定しています。

また、地元住民から幅広い意見を聴取するため、鶴崎駅周辺整備推進協議会〔鶴崎駅前広場分科会〕（以下「推進協議会」という。）やワークショップを開催し、鶴崎駅周辺の課題やまちづくりの方向性、駅前広場の整備方針について意見をいただき、計画に反映しています。

さらに、鶴崎駅前広場の交通量や利用状況などの実態調査を実施し、計画に反映しています。

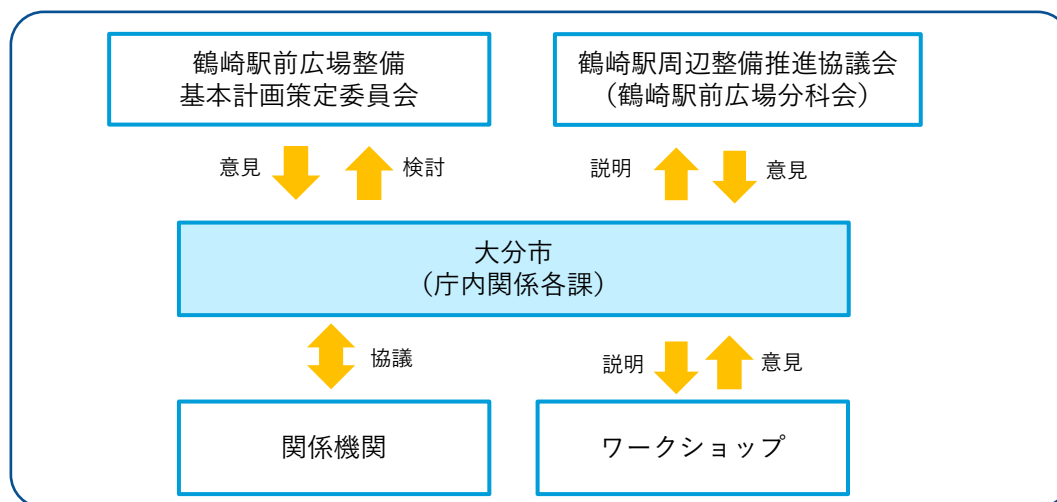


図3 計画の策定体制

第 1 章 鶴崎駅周辺の概況

1. 鶴崎駅周辺を取り巻く状況
2. 駅前広場周辺の現状
3. 駅前広場の利用状況に関する実態調査
4. 市民意向の把握

1. 鶴崎駅周辺を取り巻く状況

1-1. 人口動向

(1) 鶴崎地区の人口推移

2015（平成 27）年の鶴崎地区の総人口は 7.6 万人であり、本市全体の人口の約 15.8%を占めています。2045（令和 27）年には、鶴崎地区の人口が 7.9 万人に増加する見込みであり、増加率は約 5.1%となる見通しです。

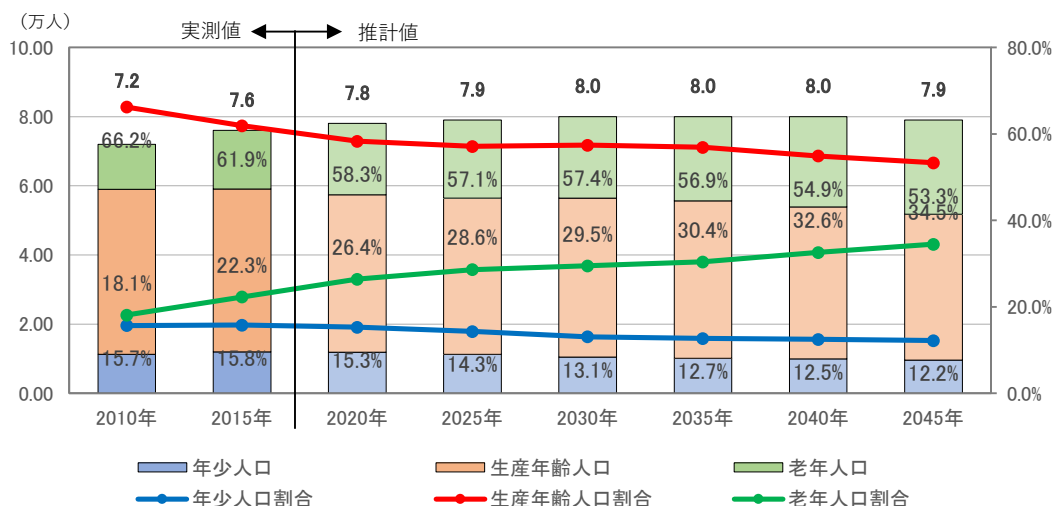


図 1.1.1 鶴崎地区の人口推移

(2) 鶴崎校区の人口推移

鶴崎校区における 2024（令和 6）年の人口は 7,418 人であり、近年は減少傾向にあります。年少人口割合は 9.4%、老年人口割合は 32.5%であり、少子高齢化が進行していることが伺えます。

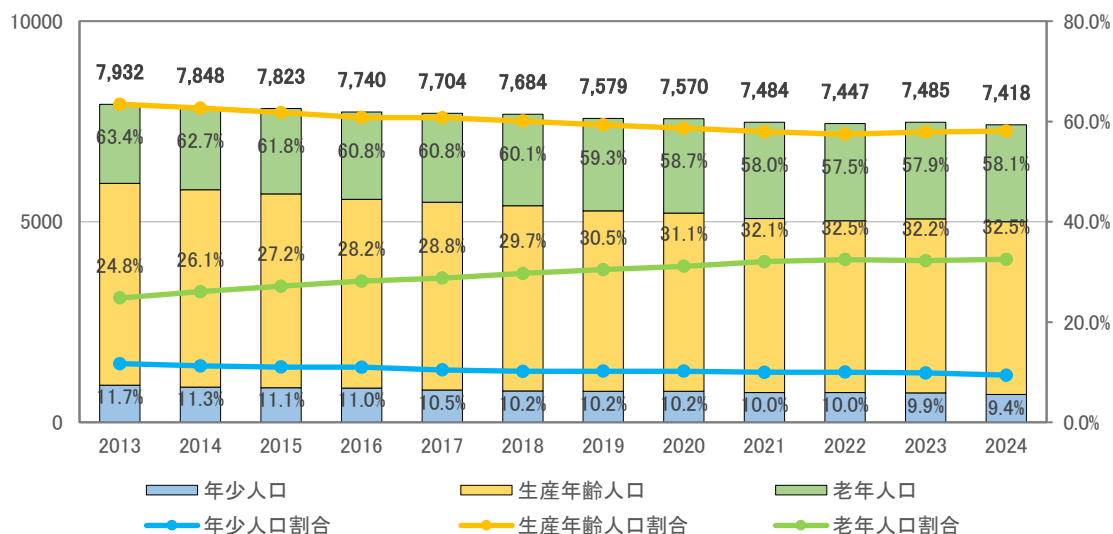


図 1.1.2 鶴崎校区の人口推移

1-2. 交通環境

(1) 道路環境

鶴崎駅周辺の道路ネットワークは、本市の東西を結ぶ国道 197 号が幹線となっており、南へ延びる県道鶴崎大南線、市道東鶴崎下徳丸線（都市計画道路 家島高田線）や、臨海工業地帯へのアクセス※2 道路である県道鶴崎港線、市道鶴崎・三佐線（都市計画道路 寺司三佐線）で構成されています。令和 3 年度全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）※3 によれば、交通量が多い国道 197 号（約 17,000～29,000 台/24 時間）では、「中鶴崎二丁目交差点」と「鶴崎駅入口交差点」が主要渋滞箇所となっています。

また、県道鶴崎大南線の交通量は約 16,000 台/24 時間で、混雑度※4 が 1.32 と比較的高くなっています。



資料：令和 3 年度全国道路・街路交通情勢調査

図 1.1.3 道路ネットワークと交通量の状況

混雑度	道路混雑の状況
1.00 以下	道路が混雑することなく、円滑に走行できる。
1.00～1.25	道路が混雑する可能性のある時間帯が 1～2 時間あるものの、何時間も混雑が連続する可能性は小さい。
1.25～1.75	ピーク時間帯はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高い状態。
1.75～2.00	慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 50%に達する。
2.00 以上	慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 70%に達する。

※2 アクセス 接近、近づくための交通手段。

※3 全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）

全国の道路と道路利用の実態を捉え、将来の道路整備の方向を明らかにするため、全国の道路状況、交通量、旅行速度、自動車運行の出発地・目的地、運行目的等を調査するもの。（最新実施年度：令和 3 年度）

※4 混雑度

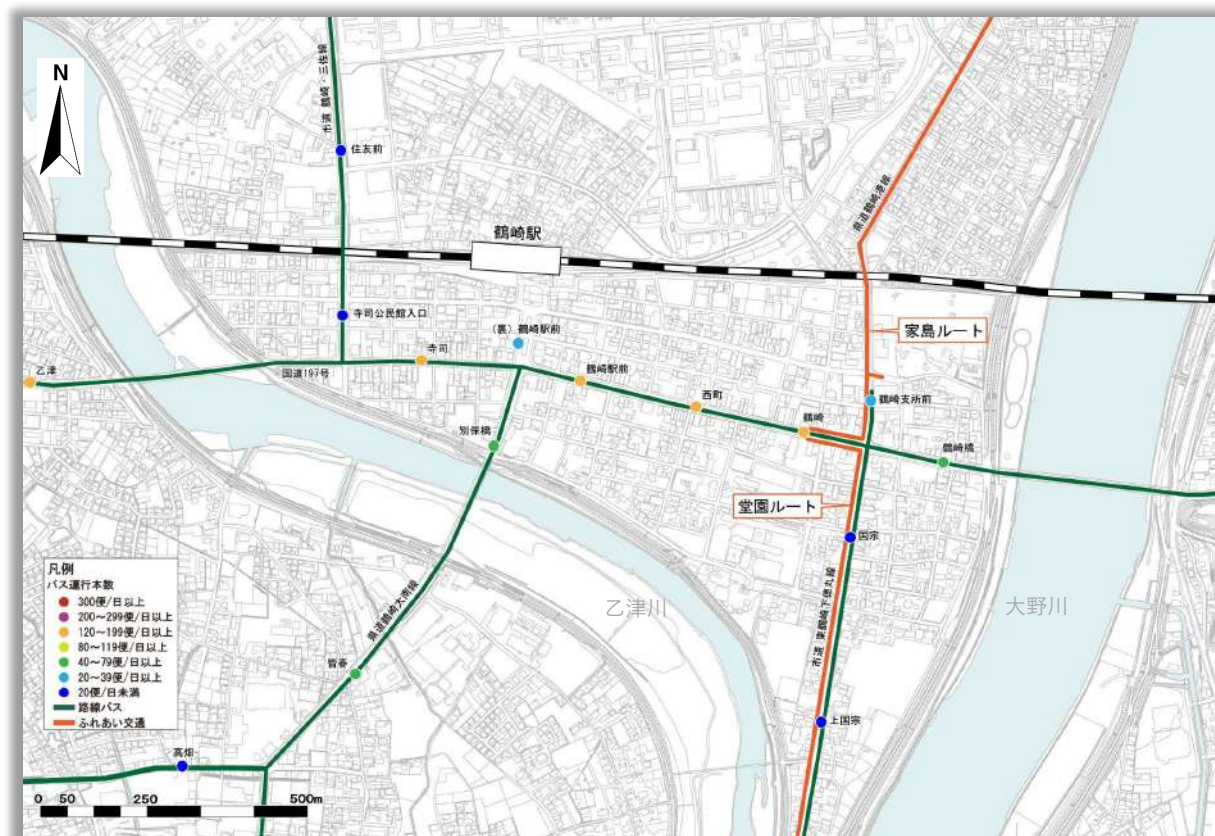
交通容量に対する交通量の比。主に該当路線の混雑状況を示す指標として使用される。

(2) 公共交通ネットワーク

公共交通ネットワークにおいては、JR 日豊本線が JR 鶴崎駅を經由して、上りで福岡県方面、下りで宮崎県・鹿児島県方面を結んでいます。

路線バスは、大分バスが国道 197 号沿線をはじめ、県道鶴崎大南線や市道東鶴崎下徳丸線（都市計画道路 家島高田線）沿線、市道鶴崎・三佐線（都市計画道路 寺司三佐線）沿線で運行しています。特に、国道 197 号沿線のバス停では、運行本数が多くなっています。

また、鶴崎バス停から家島方面及び堂園方面に向けて、ふれあい交通※5 が運行されています。



資料：大分市 HP、大分バス時刻表

図 1.1.4 公共交通ネットワークの状況

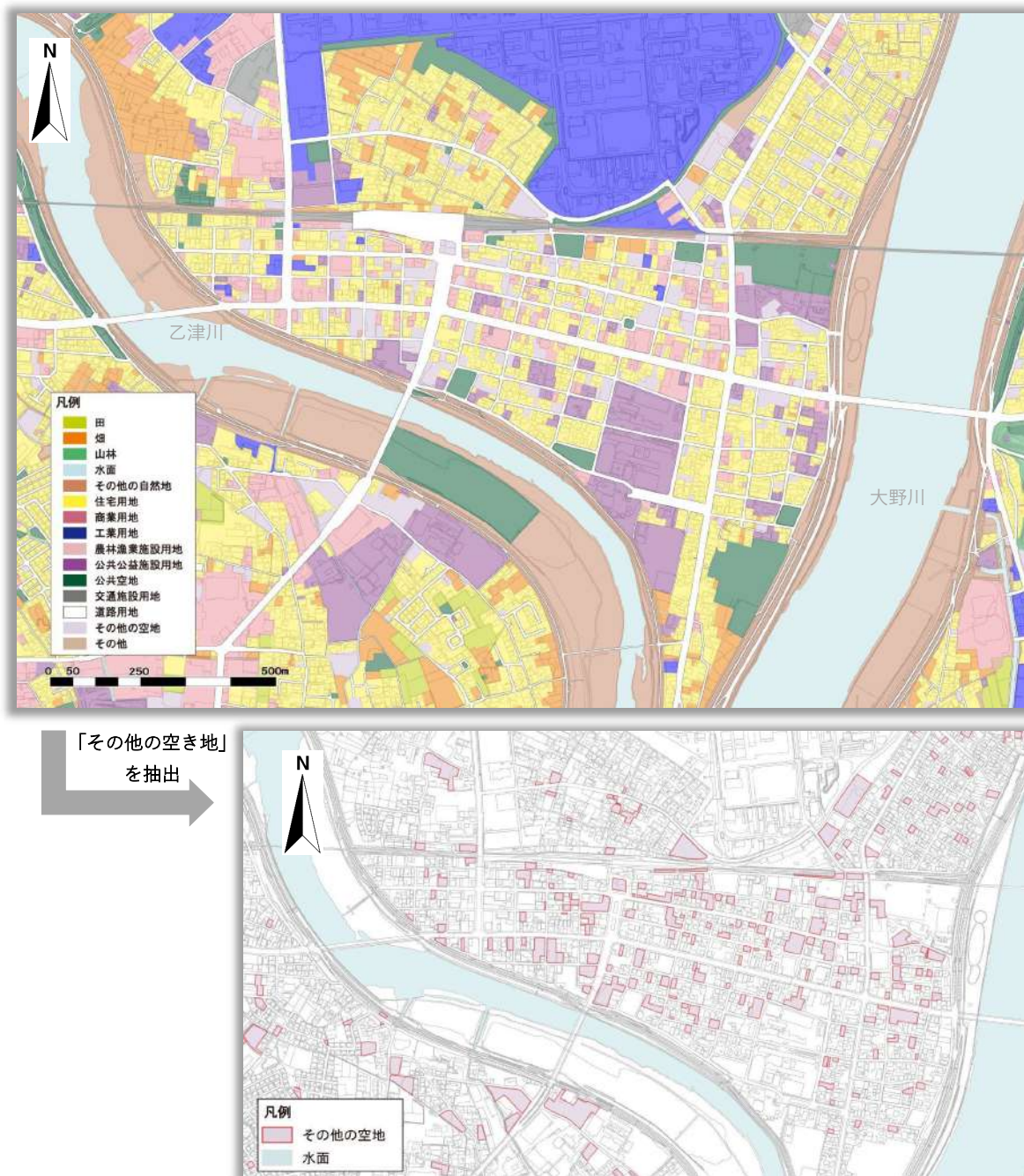
※5 ふれあい交通

時刻表に従い、公共交通の利用が不便な地域から、最寄りの路線バスの停留所までを結ぶ登録制・予約制の乗合タクシーのこと。2024（令和 6）年では、大分市内を 33 ルートで運行している。

1-3. 土地利用の状況

JR 鶴崎駅の南側に位置する国道 197 号沿道には商業用地が多く、その周辺や後背地には住宅用地が広がっています。また、鶴崎小学校や大分鶴崎高等学校、鶴崎市民行政センター、鶴崎公民館などの公共施設用地としても利用されています。

JR 鶴崎駅の北側は住宅用地や畑が多く、さらに北側には工業用地が広がっています。鶴崎駅周辺には、空き地や駐車場などの低・未利用地※6が多く存在しています。



資料：都市計画基礎調査（R4）

図 1.1.5 土地利用状況

※6 低・未利用地

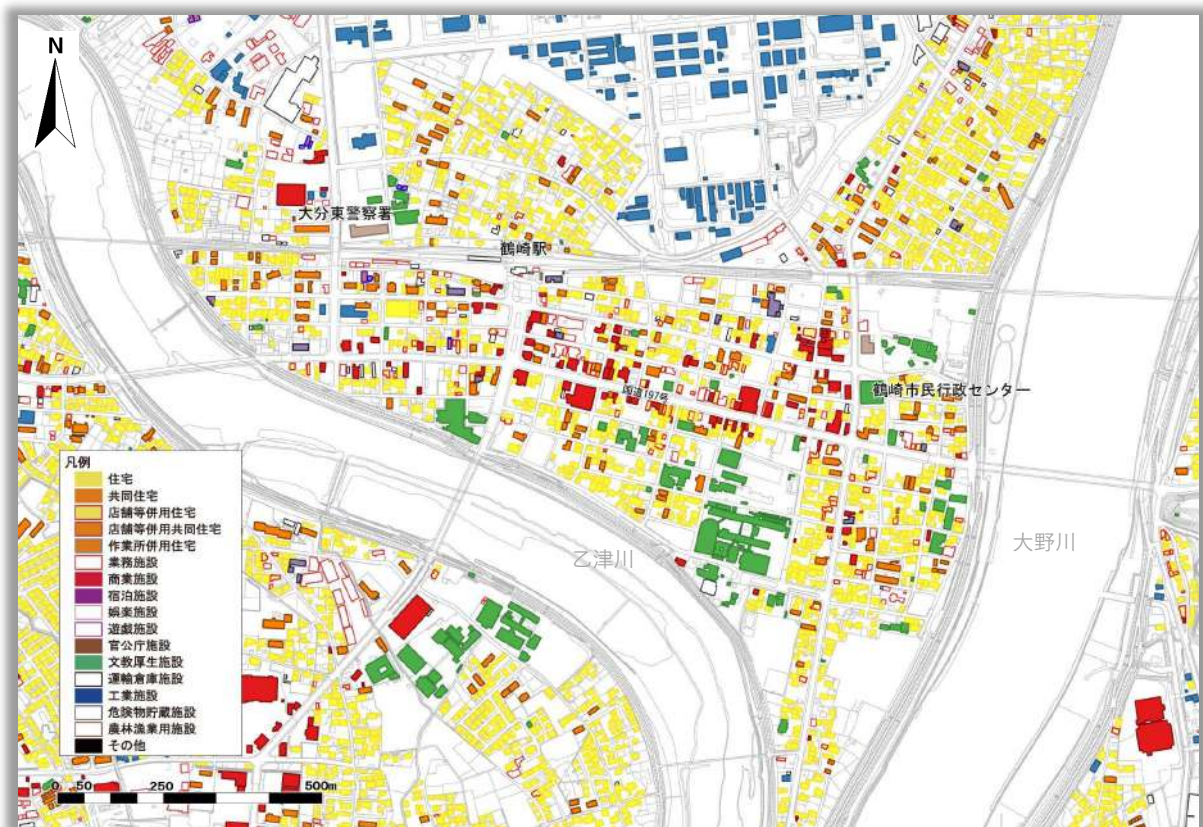
利用されていない土地や、利用が低い土地を指す。

1-4. 建物用途の状況

国道 197 号沿道には商店街が形成されており、商業施設や店舗併用住宅などが建ち並んでいます。また、鶴崎市民行政センター周辺の沿道においても、商業施設が比較的多く立地しています。

これらの大通りに面していない後背地では、住宅や共同住宅が主体であるものの、商業施設や業務施設等が点在している状況にあります。

さらに、鶴崎駅周辺には、鶴崎市民行政センターをはじめ、公民館や学校、病院などの文教厚生施設も多く立地しています。



資料：都市計画基礎調査（令和 4 年度）

図 1.1.6 建物用途状況

1-5. 都市機能の立地状況

JR 鶴崎駅から 1km 圏の南東部を中心に、商業施設、医療施設、教育施設、子育て支援施設、金融施設など多様な都市機能が立地しています。

また、鶴崎市民行政センターや鶴崎公民館、消防署、警察署などの公共施設も充実しています。

乙津川・大野川沿いには、都市公園や緑地も多く配置されており、特に鶴崎公園は広場や遊具、東屋などが整備されており、住民から親しまれています。

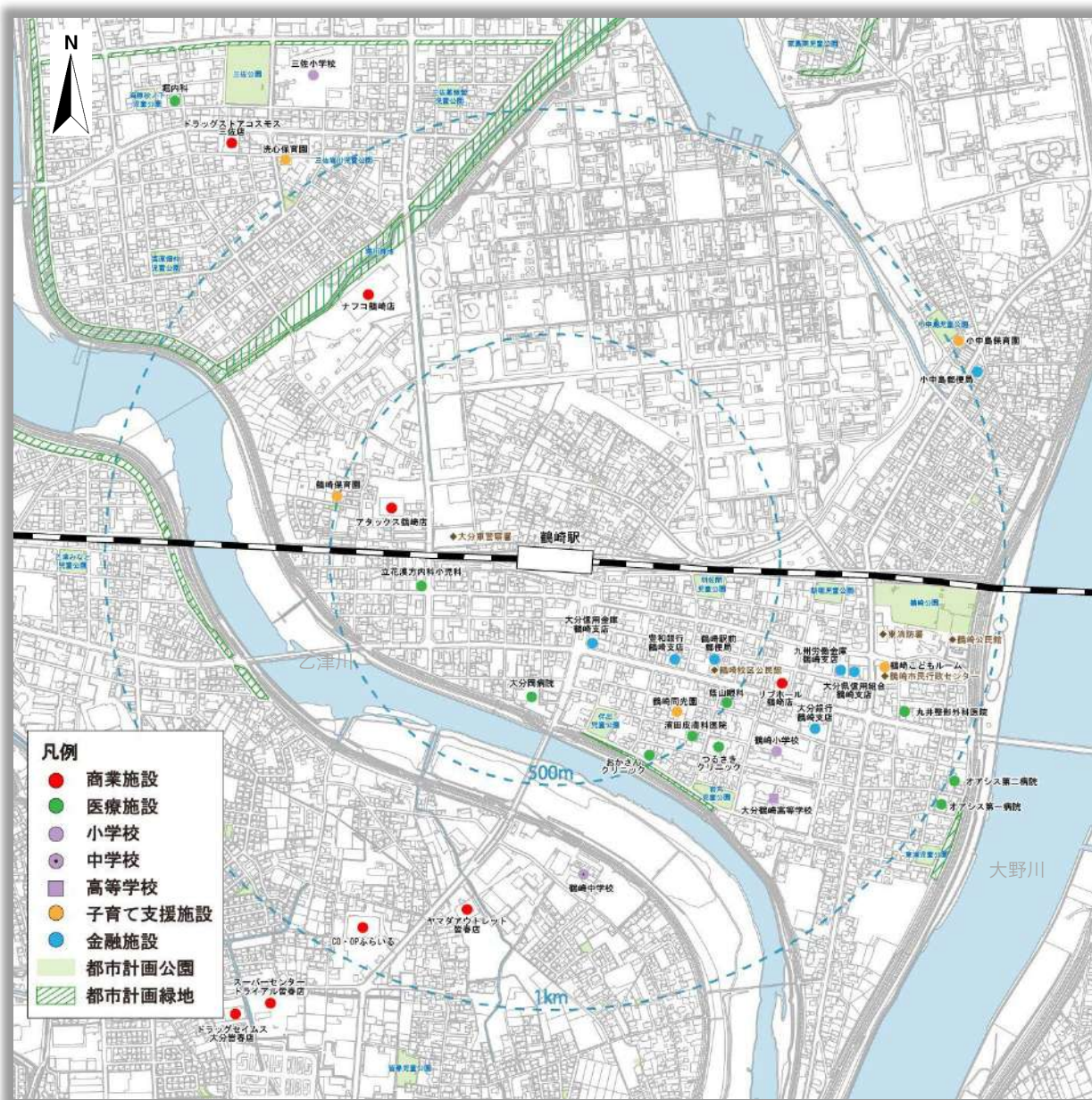


図 1.1.7 都市機能立地状況

鶴崎駅周辺は、鎌倉時代以降、大友家、加藤家、細川家の領地を経て、明治維新以降は町村制施行により、鶴崎町としての歴史を刻んできました。

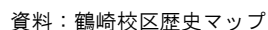


圖 1.1.8 歷史的資源



図 1.1.9 歴史的資源の例

(左：鶴崎踊ブロンズ像 中：鶴崎大神宮 右：毛利空桑塾跡 知来館)

大友家領地時代

13世紀初頭、大友家初代能直^{よしなお}は、鎌倉幕府から「鎮西奉行・豊後守護職」などの職に任じられました。文永8(1271)年、鎌倉幕府は西国に所領を持つ守護に対し、モンゴルの襲来(元寇)に備えるよう命じ、第3代頼泰^{よりやす}も九州に下り、大友氏は豊後に住むようになりました。

第21代の宗麟の時代である天正14(1586)年、薩摩島津軍が豊後に攻め込んできて、「鶴崎城攻防の戦い」や「乙津川(寺司浜)の戦い」がありました。天正15(1587)年に宗麟が亡くなり、文禄2(1593)年、第22代義統^{よしむね}は豊臣秀吉から領地を没収され、約400年続いた大友家の支配は終わりました。

加藤家領地時代

慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いの功績により、加藤清正は、徳川家康から、豊後のうち「鶴崎・佐賀関・野津原・久住」に約2万5千石の領地を与えられ、鶴崎は加藤氏の領地となりました。清正は、鶴崎に「鶴崎御茶屋^{おちやや}」を作り、「法心寺(日蓮宗)」を建立し、港や町並みを整備しました。

清正の死後、その子忠広^{ただひろ}が後を継ぎますが、寛永9(1632)年に加藤氏は改易されました。

細川家領地時代

加藤家改易の後、豊前小倉城主であった細川家第3代忠利^{ただとし}が肥後を与えられ、豊後の内の元加藤家の領地もそのまま引き継ぎました。細川家は、鶴崎の町並みや港を整備するとともに、行政組織も整備しました。参勤交代の際は、阿蘇を越え、鶴崎の港から大坂周辺まで、たびたび船で往復していました。「けんか祭り」で有名な「劔八幡宮^{けんはちまんぐう}」は、細川家により正保2(1645)年に建てられました。

文化7(1810)年には、伊能忠敬が鶴崎方面を測量し、また文久4(1864)年には、勝海舟が坂本龍馬らを伴って佐賀関に上陸し、長崎まで往復した時、ここ鶴崎に宿泊しています。

明治維新以降

明治維新後、鶴崎は鶴崎町として設立され、その後、市町村合併により鶴崎市となりました。昭和38(1963)年3月10日には大分市となりました。

昭和60(1985)年には毛利空桑^{もうりくうそう}※7の遺品を集めた「毛利空桑遺品館」が建てられ、毛利空桑の旧宅「天勝堂」や塾跡「知来館^{ちらいかん}」を含め「毛利空桑記念館」として公開されています。

鶴崎駅周辺には、これらの時代背景を象徴するような歴史文化資源が多数残されており、往時の面影を感じることができます。

資料：大分市歴史的風致維持向上計画（令和元年6月）をもとに作成

※7 毛利空桑(1797～1884)

儒学者。勤皇家。熊本藩医毛利太玄の二男。空桑は号である。日出の脇蘭室^{わきらんしつ}や帆足万里^{ほあしばんり}に学び、文政2(1819)年に熊本へ行き大城霞坪^{おおきかへい}に師事、さらに福岡へ出て亀井昭陽^{かめいしょうよう}の門に入る。2年後に鶴崎に帰り、私塾「知来館^{ちらいかん}」を開き子弟の教育にあたった。その後、熊本藩御茶屋内にあった郷校「成美館^{せいびかん}」、兵学教授所「有終館^{ゆうしゅうかん}」などの設立に尽くした。明治4(1871)年に長州の脱走兵をかくまったため入獄した。明治14(1881)年には「天壤社^{てんじょうしゃ}」を結成して反自由民権を唱え、大分の「明倫社^{めいりんしゃ}」の会長も勤めた。

剣八幡神社

剣八幡神社は、正保2(1645)年に熊本藩主の細川光尚によって創建されました。拝殿は入母屋造銅板葺で、千鳥破風が付き、唐破風のある向拝を設けています。

『大日本帝國大分県社寺名勝圖録』によれば明治32(1899)年以前に建築されたことが分かります。平成3(1991)年に倒木により外壁が破損したため修理が行われました。

本殿は三間社流造で建築年代は不明となっています。



剣八幡神社拝殿

法心寺

法心寺は、慶長6(1601)年に熊本藩主加藤清正によって建立されました。山門(仁王門)は入母屋造本瓦葺で、軒唐破風がつき、屋根を三手先の組物で支える伝統的建造物です。

明治23(1890)年の『豊後国大分郡寺院明細帳』に記載があり、それ以前の建築となっています。本堂は入母屋造本瓦葺で、『鶴崎地方歴史年表』(昭和51(1976)年)によれば明治44(1910)年の建築となっています。



法心寺本堂

毛利空桑旧宅「天勝堂」・塾跡「知来館」(県指定史跡)

旧宅「天勝堂」は、『毛利空桑全集』(昭和7(1932)年)によれば安政4(1857)年に建築された切妻造二階建棧瓦葺の住宅です。



毛利空桑旧宅「天勝堂」

塾跡「知来館」は、旧宅と同年の建築で、切妻造二



毛利空桑塾跡「知来館」

階建棧瓦葺で、1階部分で塾生が生活し、2階が塾としての勉学場となっていました。

姫之宮春日社

姫之宮春日社は、石碑碑文によれば昭和18(1943)年に改築されています。剣八幡神社の祭礼では神輿が立ち寄る場所で、拝殿は近年の建築ですが、本殿は一間社流造銅板葺です。

また拝殿前の石鳥居は延享5(1748)年に建築されたものとなっています。

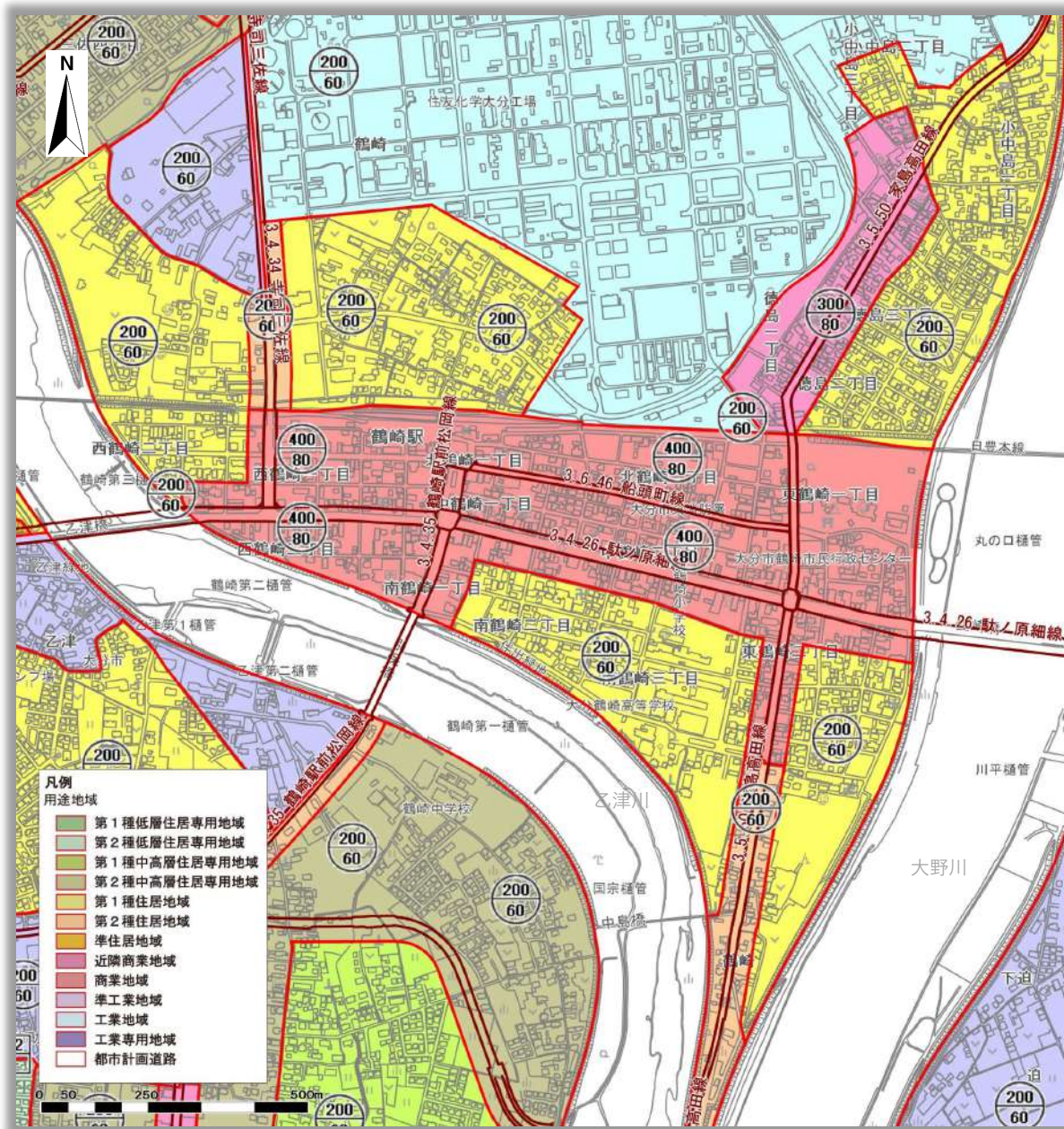


姫之宮春日社

資料：大分市歴史的風致維持向上計画（令和元年6月）をもとに作成

1-7. 法規制の状況

JR 鶴崎駅の南側を中心に商業地域が指定されており、その他は主に第1種住居地域※⁸が指定されています。また、都市計画道路 寺司三佐線の沿道には一部、第2種住居地域※⁹が指定されています。



資料：おおいたマップ

図 1.1.10 用途地域の指定状況

※⁸ 第1種住居地域

住居の環境を守るための地域。3,000㎡までの店舗、事務所、ホテルなどが建てられる。

※⁹ 第2種住居地域

主に住居の環境を守るための地域。店舗、事務所、ホテル、カラオケボックスなどが建てられる。

1-8. ハザードエリアの状況

(1) 洪水浸水想定区域

鶴崎駅周辺のほぼ全域が洪水浸水想定区域（想定最大規模※10）となっており、洪水時には3～5mの浸水（2階の屋根まで浸水）が想定されています。

特に、乙津川沿いや鶴崎公民館周辺部では、家屋の倒壊や流失をもたらす堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される「家屋倒壊等氾濫想定区域」が指定されている区域があります。



資料：大分市洪水ハザードマップ

図 1.1.11 洪水浸水想定区域

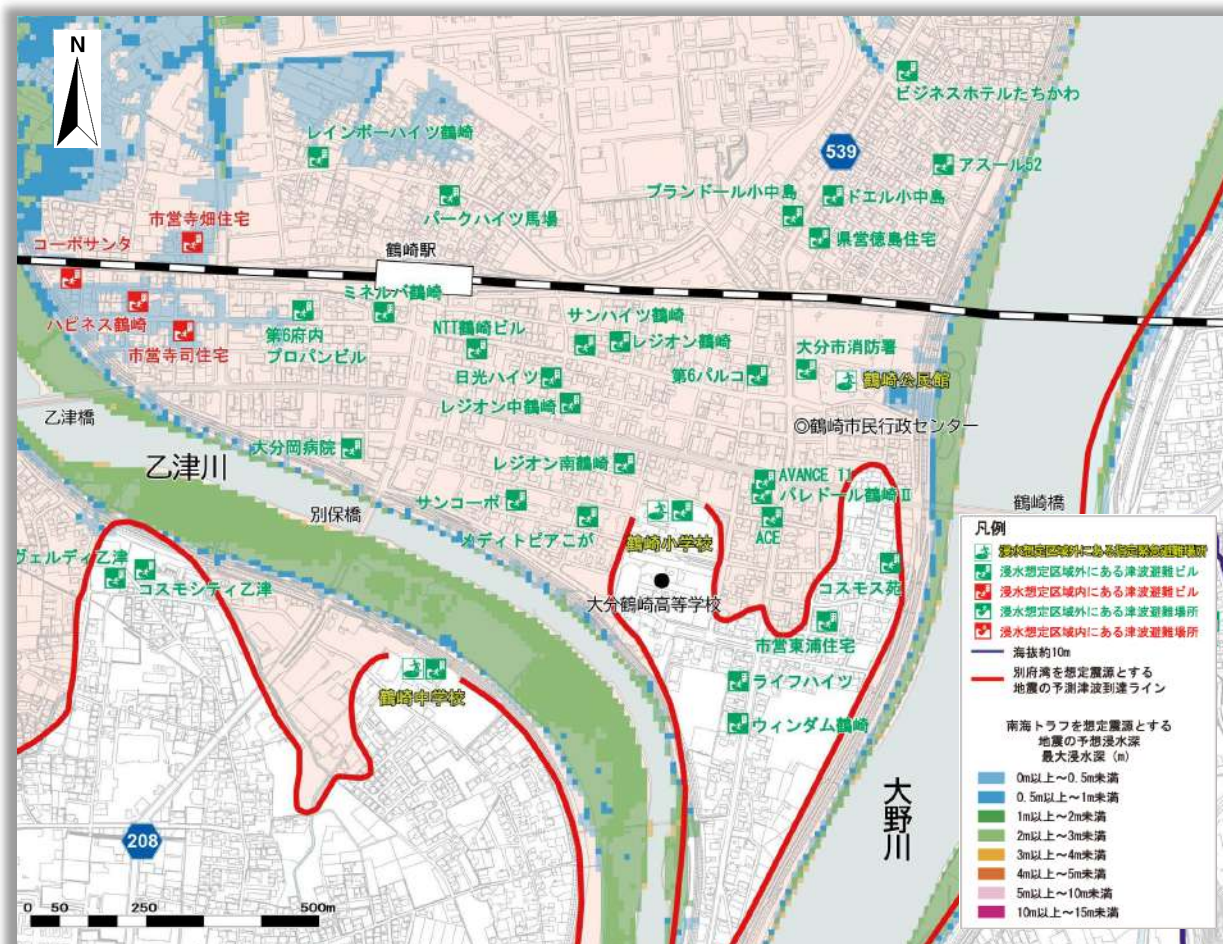
※10 想定最大規模

1000年に1回程度の発生が想定されている降雨規模（想定し得る最大規模の降雨）。
 1000年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1年の間に発生する確率が1/1000（0.1%）以下の降雨のこと。

(2) 津波浸水想定区域

南海トラフを想定震源とする地震による予想浸水深は、鶴崎駅周辺の西側や鶴崎公園の一部で0.5m未満となっています。

鶴崎小学校や市営東浦住宅周辺の一部を除き、鶴崎駅周辺のほとんどが別府湾を想定震源とする地震による津波の予想到達ラインに含まれています。



資料：大分市津波・地震ハザードマップ

図 1.1.12 津波浸水想定区域

2. 駅前広場周辺の現状

駅前広場周辺の現地の状況を整理します。



図 1.2.1 駅前広場周辺の現地状況

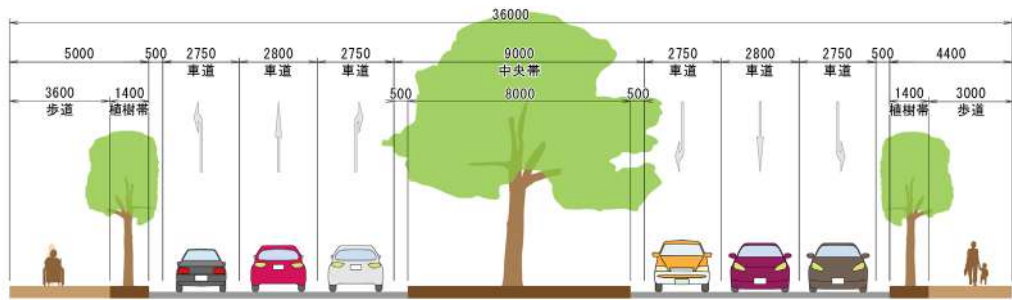


図 1.2.2 断面図



①駅舎
駅舎内に「駅かふえ」というカフェがあります。



②月極駐車場出入口
JR 貨物が所有する駐車場出入口は、駅前広場に接続されています。



③タクシー乗降場
タクシー乗降場は4台分あります。



④鶴崎駅駐輪場(駅前)
利用率の高い駐輪場です。
(駐輪台数 246 台)



⑤鶴崎駅前交差点
交差点の面積が大きく、走行経路が複雑です。



⑥彫刻(作品名: 鶴崎踊り)
設置年月 昭和 52 年 11 月。本町土地区画整理事業の竣工記念として建立。



⑦彫刻(作品名: 鶴崎踊り記念碑)
設置年月 昭和 55 年 8 月



⑧市道西鶴崎 10 号線
西側方面への一方通行の道路です。



⑨バス降車場
乗車場はなく、降車のみの利用となります。



⑩県道 208 号(鶴崎大南線)
西側の一部が自転車道の構造となっています。



⑪ベンチ
外観は古いですが、頑丈な作りのベンチです。



⑫植栽枳
植物の生長に伴い、根元の石が崩れています。



⑬市道中鶴崎1号線
歩道がない2車線の対面通行の道路です。



⑭市道北鶴崎 3 号線
一部狭い歩道部分がある2車線の対面通行の道路です。



⑮トイレ
古いトイレですが、身障者用のトイレが設置されています。



⑯鶴崎駅駐輪場(駅東)
(駐輪台数 498 台)



⑰駅前広場全景

3. 駅前広場の利用状況に関する実態調査

本計画の策定にあたり、JR 鶴崎駅の利用実態を踏まえ、必要となる施設規模や配置を検討することを目的として、歩行者、自転車、自動車の利用状況について、下記のとおり実態調査を実施しました。

調査日時

- 【交通量調査】 ① 2023年11月21日(火) 6:00～ 9:00 [朝]
② 2024年7月9日(火) 16:30～19:30 [夕方]
- 【駐車場調査】 ③ 2024年10月1日(火) 7:00～19:00



図 1.3.1 調査員配置箇所

3-1. 歩行者

JR 鶴崎駅へ出入りする人数を見ると、朝※11 は 1,111 人（入：663 人、出：448 人）、夕方※11 は 1,238 人（入：457 人、出：781 人）となっています。

駅前の東西の通行人数を見てみると、朝は西側が 244 人、東側が 327 人、夕方は西側が 220 人、東側が 301 人となっており、鶴崎市民行政センターや学校が立地している東側での通行が多くなっています。

また、鶴崎駅駐輪場（駅前）への横断歩道では、朝は 238 人、夕方は 208 人となっており、駅利用者の約 2 割が横断しています。車の動線と交錯しているため、交通事故の発生が懸念されます。

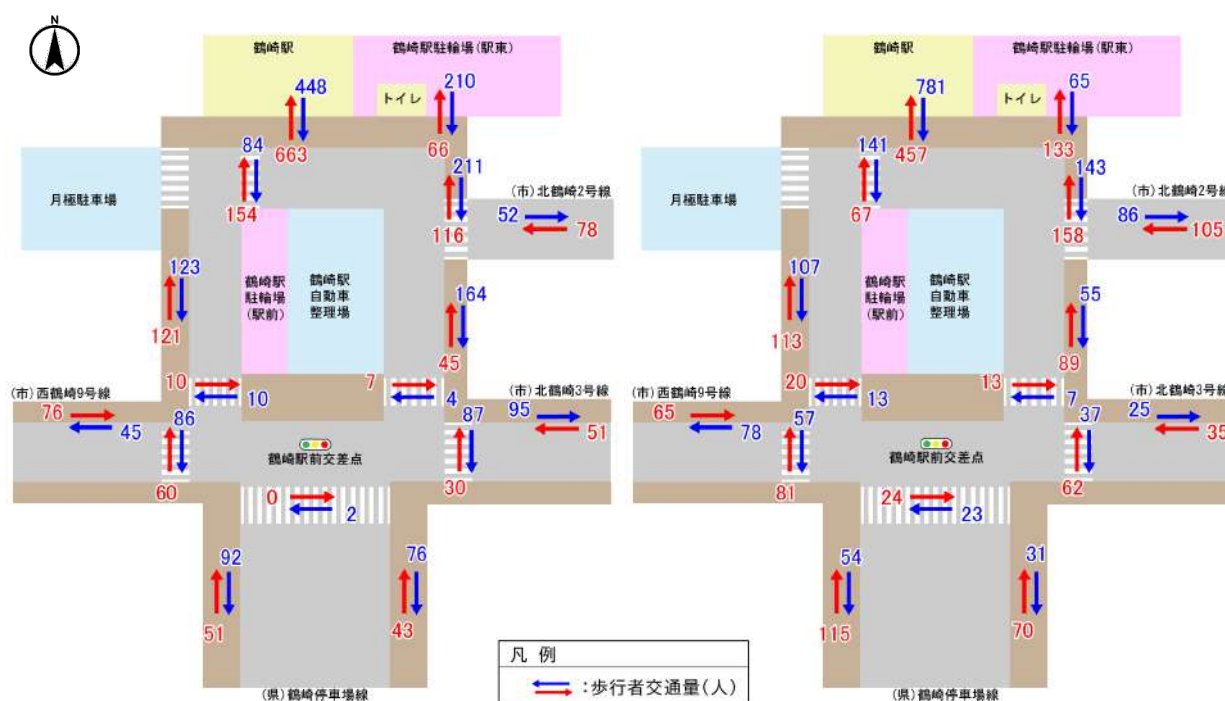


図 1.3.2 歩行者の交通状況（左：朝 右：夕方）



図 1.3.3 歩行者の状況
（左：交差点での滞留状況 右：車道を通行する歩行者）

※11 調査日時

【朝】 2023 年 11 月 21 日(火) 6:00～9:00 (3 時間)

【夕方】 2024 年 7 月 9 日(火) 16:30～19:30 (3 時間)

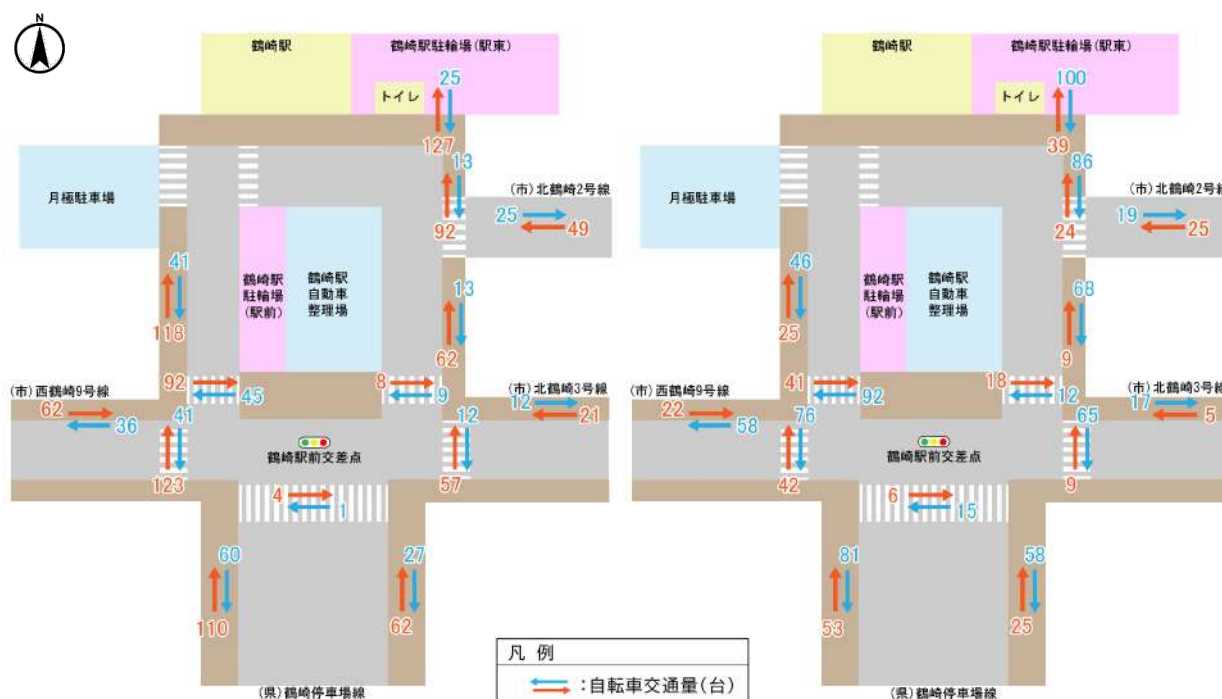
3-2. 自転車

県道鶴崎停車場線の自転車の交通量を見ると、朝^{※11}は西側が170台、東側が89台、夕方^{※11}は西側が134台、東側が83台となっており、東側と比べて西側の交通量が多くなっています。

鶴崎駅駐輪場（駅前）を利用するために、朝は137台、夕方は133台が駅前広場流入部の横断歩道を横断しており、自動車の動線と錯綜している状況です。

また、鶴崎駅駐輪場（駅東）を利用する自転車は、朝が152台、夕方が139台となっており、駅前広場内において歩行者の動線と交錯している状況です。

駐輪場利用台数に関する統計データによると、令和5年度の平均で鶴崎駅駐輪場（駅前）は169台、鶴崎駅駐輪場（駅東）は135台となっており、合計で約300台が利用されています。



（左：交差点を乱横断する状況 右：ロータリーを乱横断する状況）

※11 調査日時

【朝】 2023年11月21日(火) 6:00～9:00 (3時間)

【夕方】 2024年7月9日(火) 16:30～19:30 (3時間)

3-3. 自動車

交差点から駅前広場への流入台数を見てみると、朝※11は342台、夕方※11は278台となっており、県道鶴崎停車場線からの流入台数が最も多くなっています。市道北鶴崎2号線から駅前広場への流入台数は、朝は84台、夕方が247台となっており、夕方の流入台数は朝に対して約3倍となっています。

また、駅前広場から交差点への流出台数を見てみると、直進が最も多く、次いで右折、左折の順となっています。自家用車による送迎については、朝が164人、夕方が151人となっており、駅前広場への流入台数の約半数を占めています。ピーク時には、送迎車両で混雑する状況（最大で10台程度）や駅前広場の流出部において滞留状況が確認されます。

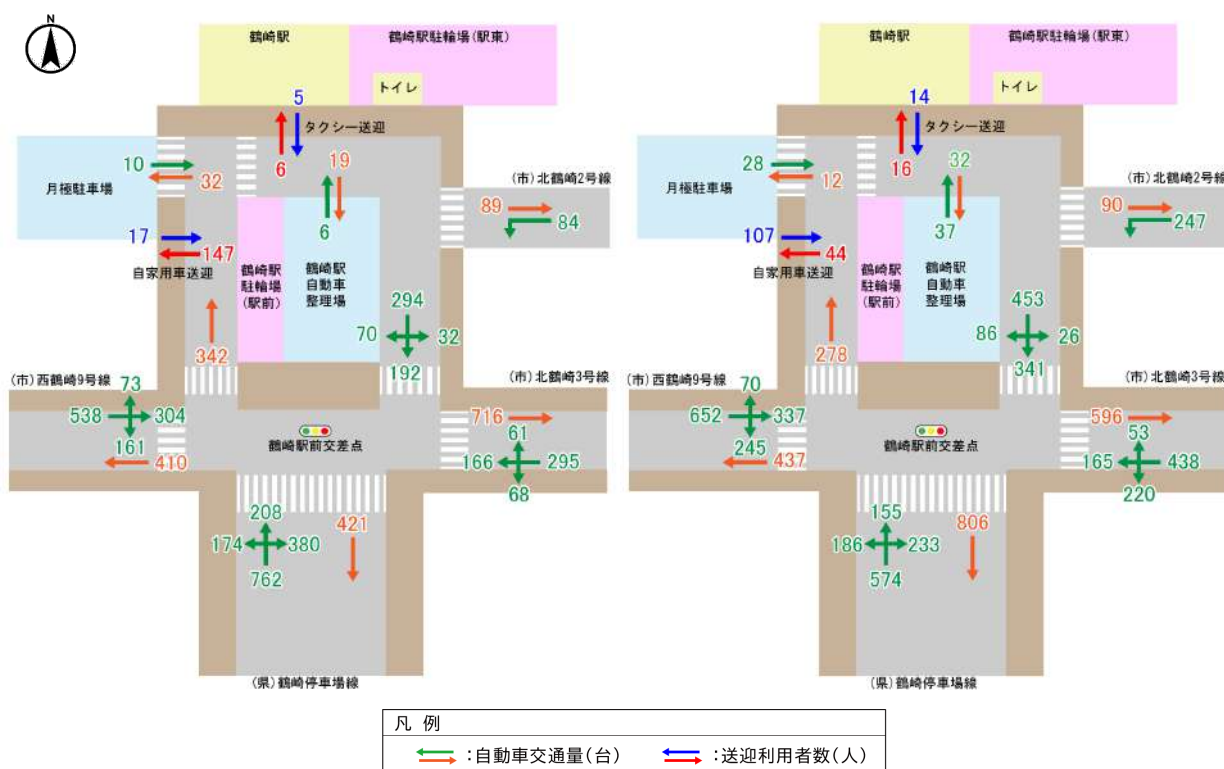


図 1.3.6 自動車の交通状況（左：朝 右：夕方）



図 1.3.7 自動車の状況

（左：送迎車両で混雑する状況 右：駅前広場流出部の滞留状況）

※11 調査日時

【朝】 2023年11月21日(火) 6:00～9:00 (3時間)

【夕方】 2024年7月9日(火) 16:30～19:30 (3時間)

3-4. 自動車整理場

駅前広場内に位置する自動車整理場（自家用車の短時間駐車場※12）の利用実態調査（2024年10月1日(火)の7:00～19:00）では、12時間で57台の利用が確認されました。総利用時間は131時間28分で、稼働率は54.8%となっています。

駐車時間について見ると、短時間（20分以内※13）の利用が25台、長時間（21分以上）の利用が32台となっています。

短時間の利用状況は、「駅利用」が2台、「送迎」が21台、「周辺利用」が2台です。

長時間の利用状況は、「駅利用」が9台、「送迎」が4台、「周辺利用」が19台となっており、長時間の駅利用（パークアンドライド※14）として約半数が占有されている状況です。

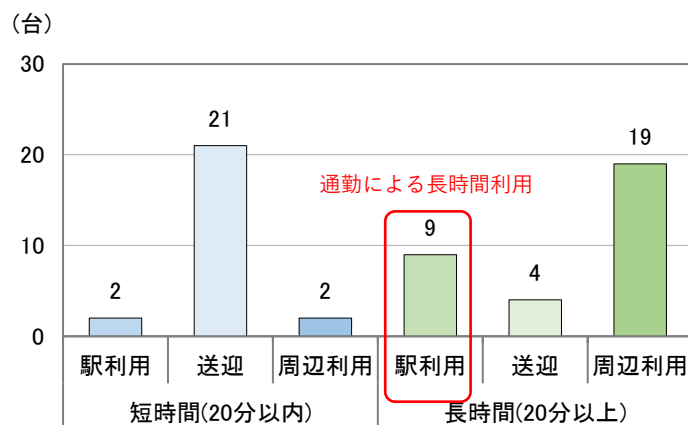


図 1.3.8 利用目的別駐車時間

短時間の利用時間帯について見ると、16:00～19:00の時間帯に17台と多くの利用が見られます。これは、送迎時における電車到着までの待機や「みどりの窓口※15」の利用などが理由と考えられます。

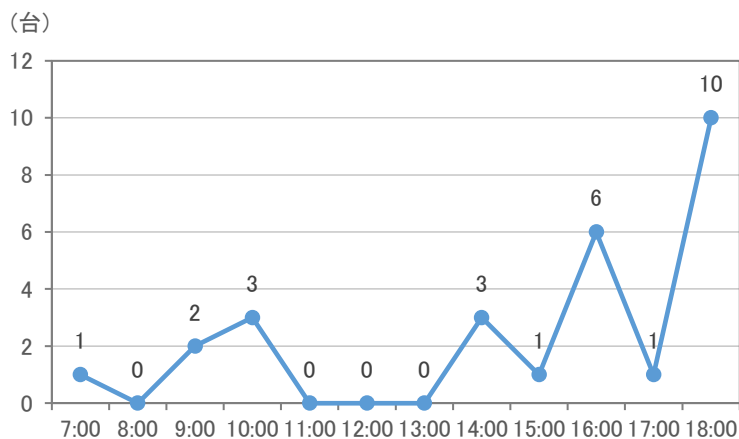


図 1.3.9 短時間利用の時間帯

※12 自家用車の短時間駐車場

駅を利用する方の送迎など、一時的な駐車が必要な場合に設置された駐車場。

※13 20分以内の出庫は無料。

※14 パークアンドライド

自宅から最寄りの駅やバス停の周辺にある駐車場に駐車し、そこから公共交通機関（主に鉄道やバス）に乗り換えて、目的地に向かう方法のこと。

※15 JR 鶴崎駅の「みどりの窓口」の営業時間 16:00～19:00（2024年11月現在）

4. 市民意向の把握

4-1. ワークショップ

本計画の策定にあたり、駅前広場に対する課題やニーズを把握するために、2023 年 12 月から 2024 年 3 月にかけて、地域住民や駅利用者、高校生など幅広い年齢の方が参加するワークショップ※16を行い、多くのご意見をいただきました。

項目	日 時	テーマ
第1回	2023 年 12 月 16 日(土)	まちと駅との関係をつかもう！
第2回	2024 年 1 月 20 日(土)	駅前広場の施設を考えよう！
第3回	2024 年 3 月 2 日(土)	駅前広場のレイアウトを考えよう！

(1) 鶴崎駅前広場に関するワークショップの概要

第1回 「まちと駅との関係をつかもう！」

第1回ワークショップでは、「鶴崎駅周辺整備基本構想」に示された課題や方針を確認した後、まちの魅力的や改善点、さまざまな視点からの問題点を実際に現地で確認するために、地域の方々や鶴崎駅周辺を利用する方々とまち歩きを行いました。

日 時：2023 年 12 月 16 日（土） 14：00～16：30

会 場：鶴崎公民館 2 階 集会室

参加者数：23 名



第2回 「駅前広場の施設を考えよう！」

第2回ワークショップでは、上記のテーマに基づき、鶴崎の歴史や文化を学んだ後、グループごとに「駅前広場をどんな雰囲気にしたいか」や、そのために必要なこと、駅前広場の骨格（ゾーニング）について検討を行いました。

日 時：2024 年 1 月 20 日（土） 14：00～16：00

会 場：鶴崎公民館 2 階 集会室

参加者数：21 名



第3回 「駅前広場のレイアウトを考えよう！」

第3回ワークショップでは、上記のテーマに基づき、これまでの意見を踏まえた3つの案に対して意見を出し合い、導入する施設について考えながら、駅前広場の形状や施設のレイアウトを行いました。

日 時：2024 年 3 月 2 日（土） 14：00～16：00

会 場：鶴崎公民館 2 階 集会室

参加者数：22 名



※16 ワークショップ

まちづくりなどについて、様々な立場の人々が参加し、技術や知恵を寄せ合い、共同作業によって解決案を考えたり、提案を行うこと。

(2) 駅前広場の現状に対する意見

トイレ・駅舎の リニューアル	トイレ	● トイレは利用者が多いため、リニューアルが望ましい。 ● 多目的トイレのすりガラスの窓はプライバシーの観点から好ましくない。 ● おむつ替えにも対応できるよう、現代のニーズに合った再整備が必要である。 ● トイレにドアが必要である。 ● トイレの外観が汚れており清潔感がない。 ● 多目的トイレの入口が狭い。 ● 男子トイレの内部が見えやすく利用しづらい。	
	駅舎	● エレベーターが便利である。 ● 入口の坂は車いす利用者にとって厳しい。 ● 補修が必要である。	● IC改札の設置場所が邪魔に感じる。 ● 階段の位置が分かりにくい。 ● タクシー待機所の再整備が望ましい。
通行空間の バリアフリー化	歩道	● 歩道のデザインが美しい。 ● 歩道が劣化し、タイルが割れている。 ● 自動販売機前に傾斜がある。 ● 電柱によって歩道が狭い場所がある。 ● 歩道に屋根（シェルター）がほしい。	
駐輪場・駐車場の 再整備	駐輪場	● 駐輪台数が不足している。 ● 駐輪場の奥側は不便で、駐輪されていない。 ● 駐輪マナーが悪い。 ● 駐輪場名の看板が通行の妨げになる。 ● 出入口の向きが悪い。 ● 駐輪場が入りづらく、暗く、分かりにくい。 ● 防犯面が心配である。	
	駐車場	● 駐車場の場所が中央部のためもったいないと感じる。	● 駐車場が狭い。
交通の円滑性	ロータリー	● 駐車場や駐輪場を移し、車道幅員を広げることが望ましい。 ● タクシー停車中は車が通りにくい。	
	信号	● 信号待ちが複数回にわたるため面倒に感じる。	● 駅前の信号の変わるタイミングが分かりづらい。
銅像等の活かし方		● 鶴崎の歴史や記念として銅像などが長い間残っているのが良い。 ● 銅像は残しておきたい。 ● 木が生い茂っており、時計が見えにくい。 ● 現在の位置では活かされてない。 ● モニュメントが草に隠れていて分かりづらい。 ● モニュメントは公園内に設置されることで調和がとれる。	
既存施設の リニューアル	案内板	● 案内板は祭りやスポットなど地域の特徴がわかりやすく、今後はサイネージ化も検討すると良い。	
	公衆電話	● 公衆電話の利用者が多い。	● 駅舎周辺に移動したほうが良い。
	植栽	● イチョウがシンボリックで、雰囲気が良い。 ● 緑が豊かである。	● イチョウの葉の掃除が大変である。 ● ギンナンが歩道に落ちており、臭いが気になる。
その他		● 駅の近くに飲食店が少ない。 ● ステージがほしい。 ● ゴミが多く、周辺が汚い。	



※ワークショップでいただいた意見を抜粋して整理しています。

(3) 県道鶴崎停車場線の現状に対する意見

イベントにも利用できる通行空間	● さまざまなイベントが開催できそうである。 ● 車道と歩道が広く、快適である。 ● 鶴崎踊や二十三夜祭など、多目的にイベントを開催できるようにすることが望ましい。	
交通の円滑性	● バスとJRのアクセスが悪い。 ● 歩道が狭すぎて、車が横断してきた際に危険に感じる場面がある。 ● 信号の待ち時間が長く、特に高齢者にとって大変そうである。	
景観に配慮した整備	樹木	● 中央帯のクスノキがおしゃれである。 ● 大きなグリーンベルトと豊かな緑が感じられ、良い印象である。 ● 緑が良い。 ● ホルトノキとケヤキが混在していて良い。 ● やはり、緑や植栽が豊富な方が好ましい。 ● 樹木が枯れており、雰囲気が悪い。 ● 中央帯のクスノキはうっそうとしており、暗く感じる。 ● 鳥のフン害が問題である。
	ベンチ	● ベンチが汚れている。 ● 座りたくなるような魅力的なベンチが欲しい。
	その他	● 街灯が少なく、暗い印象を与える。 ● 柱の先端に鶴崎踊のモニュメントが設置されていて良い。
通行空間のバリアフリー化	● 横断歩道の信号に音声案内があり、親切である。 ● 横断歩道に点字ブロックが設置されているが、歩道内で途切れている箇所がある。 ● 点字ブロックがない箇所が存在する。 ● 段差が多い。 ● マンホールが飛び出ている箇所がある。 ● 石の車止めでっばりが邪魔に感じる。 ● 音の鳴る信号と鳴らない信号が混在している。	
沿道の賑わい	● 若者が入りやすい店や娯楽施設が少ない。 ● 活気のある店が少ない。 ● 店に入りにくいと感じる。 ● 空き地が多く、寂しい印象を与える。 ● コンビニなど店舗が必要である。	
その他	● 災害時用のベンチ（かまどベンチ）の設置が必要である。 ● おむつ替えなどのスペースを設けるべきである。	

※ワークショップでいただいた意見を抜粋して整理しています。

(4) 鶴崎駅周辺の現状に対する意見

駅前広場周辺の賑わい	商店街	● お店は多いが、入りづらいと感じる。 ● お店の駐車場がない。 ● 看板が目立たない。 ● 行ってみたいお店が発見できた。 ● 街に人が集まるという感じが無く、駅も寂しく感じる。
	施設や設備	● さまざまなイベントが開催できそうである。 ● 子ども 110 番の家など、緊急時に逃げ込める場所が少ない。 ● 街灯が少ない。 ● 標識が目立たない。 ● 駐車場がない。 ● 学生が立ち寄れる施設が少ない
通行空間のバリアフリー化	市民センター付近	● 段差が多い。
	(市)北鶴崎 3 号線 (市)中鶴崎 1 号線	● 歩道が狭く歩きづらい。 ● 暗い場所が存在する。 ● 自転車が通りにくい。 ● 歩道の白線が消えかかっている箇所がある。 ● 電柱が邪魔で通りにくい。
	(市)西鶴崎 9 号線	● 歩行空間が狭い。
	その他	● 点字ブロックは駅周辺バス乗り場に活用されているのか疑問である。 ● 全体的に車いす利用者にとって危険だと思う
景観に配慮した整備	(市)中鶴崎 1 号線 トイレ付近	● トイレが汚れており、利用しづらい。 ● 自転車が入りづらく、停める場所もない。 ● 木の実が落ちており、汚れている。
駅北との関係		● 駅北側へのアクセスが遠回りになる。



※ワークショップでいただいた意見を抜粋して整理しています。

(5) 導入する施設・機能の施設

ワークショップを通じ、「駅前広場でしたいこと」、「そのために必要なこと」を踏まえて検討した、「あると良い施設・機能」、「必ず必要な施設・機能」について、希望する順位の高い順に整理します。

① 駅前広場

順位	施設・機能
1	時計
2	ベンチ、屋根付きベンチ
3	バリアフリー対策
4	駐車場(送迎用・短時間用)
5	オープンスペース
6	シェルター(屋根付き通路)
7	多目的イベント広場
8	常設電源(地中等)
9	各種乗降場

順位	施設・機能
10	駐輪場の改善
11	ステージ
12	街灯
13	既存の鶴崎踊り銅像
14	駐輪場の改善
15	ステージ
16	街灯
17	ロータリー
18	シンボルツリー

順位	施設・機能
19	緑(樹木や花)
20	イルミネーション
21	案内サイン
22	モニュメント
23	何らかの聖地
24	キッチンカー
25	全体を覆う屋根

② 県道鶴崎停車場線

順位	施設・機能
1	イベントスペース
2	緑(樹木や花)
3	ベンチ
4	イルミネーション
5	街灯

順位	施設・機能
6	道路や歩道の拡幅
7	歩道の木を残す
8	中央の植栽帯をなくす
9	案内サイン
10	歩道上に屋根(シェルター)

順位	施設・機能
11	イベントに活用可能な道路
12	常設電源(地中等)
13	屋台

③ 駅前広場周辺

順位	施設・機能
1	トイレ
2	カフェ、勉強できる場
3	コンビニ
4	南北連絡通路の整備
5	立体駐車場
6	広い駐輪場
7	ドラッグストア
8	弁当屋、パン屋
9	大分駅のような施設

順位	施設・機能
10	古い看板撤去
11	スタバ・マック等
12	クレープ屋
13	カラオケ
14	駐輪場の改善
15	待合室を広く
16	ベンチ
17	時計
18	駅舎リニューアル

4-2. 鶴崎駅周辺整備推進協議会

本計画の策定にあたり、2023年12月から2024年11月にかけて、地元自治会や関係団体の代表者など25名から構成された推進協議会が開催され、鶴崎駅前広場や県道鶴崎停車場線に必要な施設や機能などについてのご意見をいただきました。

(1) 概要

第1回 鶴崎駅周辺整備推進協議会（第1回鶴崎駅前広場分科会）

議 題： 鶴崎駅前広場に関する要望事項について
日 時： 2023年12月12日（火） 19:00～19:55
会 場： 大分市鶴崎市民行政センター2階大会議室
参加人数： 21名

第2回 鶴崎駅周辺整備推進協議会（第2回鶴崎駅前広場分科会）

議 題： 要望内容の精査について
日 時： 2024年3月7日（木） 19:00～21:10
会 場： 大分市鶴崎市民行政センター2階大会議室
参加人数： 23名

第3回 鶴崎駅周辺整備推進協議会（第3回鶴崎駅前広場分科会）

議 題： 鶴崎駅前広場整備基本計画（素案）について
日 時： 2024年11月26日（火） 19:00～19:30
会 場： 大分市鶴崎市民行政センター2階大会議室
参加人数： 15名



図 1.4.1 推進協議会のようす

下記に、推進協議会より出された要望内容について整理します。

① 駅前広場

利便性の向上	南北自由通路の設置 ➤ 鶴崎駅の跨線橋を北側に延長し、南北市街地をつなぐ自由通路を設置してほしい。その際、北側にも駐輪場、ロータリー及び北側市道からのアクセス道路を設置するとともに、改札を駅のホームに移設するなど、南北市街地を自由に往来できるようにしてほしい。
	レンタサイクルの設置 ➤ 豊かな歴史文化施設や大野川・乙津川の自然環境、商業施設等といった鶴崎の多くの魅力に接する機会がより多く得られるよう、行動範囲が広いうえ駐車場の心配も不要なレンタサイクルを設置してほしい。
バリアフリー化	観光案内板のリニューアル ➤ 鶴崎駅東側にある観光案内板を、駅利用者等の目に留まりやすい位置に移設してほしい。その際、二次元バーコードの掲載を含めた内容の見直し及び音声案内の設置も併せて行ってほしい。
交通の円滑化	交差点改良 ➤ 鶴崎駅前の東側交差点（駅から公道に出る側）の路面標示が分かりにくいいため、右側車線も直進できるようにしてほしい。
通行空間の確保	通行スペースの確保、イチョウの撤去 ➤ 歩行者や車いす利用者、自転車などの通行スペース等を確保するため、鶴崎駅東側にあるイチョウの木を撤去してほしい。
既存施設の改修	トイレの改修 ➤ 鶴崎駅東側にあるトイレを、多くの方が利用する鶴崎地区の玄関である鶴崎駅前に景観上も衛生上もふさわしいものに改修してほしい。その際、外観は鶴崎をイメージできるようなデザインにしてほしい。
	照明等の増設 ➤ 暗い時間帯の利用者も多く、防犯等の観点から街灯を増設してほしい。
	観光案内板のリニューアル

② 県道鶴崎停車場線

バリアフリー化	舗装材の検討 ➤ 駅前の清潔感や景観の魅力向上のため、歩道のレンガの改修を行ってほしい。
通行空間の確保	中央緑地帯の撤去、歩道の拡幅 ➤ にぎわいのスペース確保のため、県道鶴崎停車場線中央の緑地帯を撤去し、上下線の歩道を拡幅してほしい。その際、上下線の歩道の幅員は、国道197号鶴崎駅入口交差点や市道の鶴崎駅前交差点とのバランスを考慮してほしい。
既存施設の改修	照明灯の増設 ➤ 暗い時間帯の利用者も多く、防犯等の観点から街灯を増設してほしい。
	ベンチの改修 ➤ 駅前の清潔感や景観の魅力向上のため、ベンチの改修を行ってほしい。



鶴崎駅前広場の全景（撮影：2023 年 1 月）

第2章 鶴崎駅周辺の課題

1. 問題点とニーズへの対応に向けた視点
2. 鶴崎駅周辺における解決すべき課題

1. 問題点とニーズへの対応に向けた視点

JR 鶴崎駅は、通勤や通学利用者をはじめ、来訪者にとっての玄関口となっており、多くの人々が行き交う場としての役割を担っています。

「第1章 鶴崎駅周辺の概況」では、現地調査やワークショップ、推進協議会などから得られた鶴崎駅周辺に関する意見として、バリアフリー※17の観点からの整備、送迎スペースや駐輪場の整備、交通の円滑化に関する意見、さらには歴史や緑を踏まえた雰囲気づくりやイベント利用に関する意見がありました。

これらを踏まえ、『視点① 利便性・安全性の向上（交通空間※18）』および『視点② 魅力ある施設や雰囲気づくり（環境空間※19）』の2つの視点から、各種問題点・ニーズおよび課題について整理します。

※17 バリアフリー

だれもが社会生活をしていく上で、障壁（バリア）となるものを取り除くこと。

※18 交通空間

交通結節点（複数あるいは異なる交通手段の接続が行われる場所）としての機能を担う空間。

※19 環境空間

都市の広場としての機能を果たすための空間。

2. 鶴崎駅周辺における解決すべき課題

2-1. 駅前広場に関する課題

(1) 「利便性・安全性の向上（交通空間）」について

問題点・ニーズ	課 題
・ 傾斜が急なため、車いすの利用がしづらい。 ・ 自動販売機の前に傾斜がある。 ・ 通行スペースを確保するため、鶴崎駅東側のイチョウを撤去してほしい。 ・ 歩道が劣化し、タイルが割れている。 ・ 歩道が狭くなっている箇所がある。 ・ 屋根（シェルター）を設置してほしい。	駅前広場のバリアフリー化
・ 駅舎から離れた駐輪場の利用が不便である。 ・ 駐輪場が狭く、暗く、利用しづらい。 ・ 駐車場が狭い。 ・ レンタサイクルを設置してほしい。	駐輪場や駐車場の再整備
・ タクシーの停車中は、車両が通行しづらい。 ・ 送迎車両により混雑している。 ・ 鶴崎駅前交差点の路面標示が分かりにくい。 ・ 車両の走行状況を改善してほしい。	ロータリーや道路線形※20の見直し

(2) 「魅力ある施設や雰囲気づくり（環境空間）」について

問題点・ニーズ	課 題
・ 雨天時には歩道にイチョウの葉が落ち、滑りやすくなり危険である。 ・ 歩道に落ちているギンナンが臭う。 ・ イチョウは象徴的であり、雰囲気が良い。 ・ 緑が多く、景観が美しい。	緑の在り方を踏まえた雰囲気づくり
・ 多目的トイレの入口が狭い。 ・ トイレの外観が汚れており清潔感がない。 ・ おむつ替えなどのニーズに対応すること。 ・ プライバシーに配慮された空間の確保。	トイレのリニューアル
・ モニュメントが分かりづらい。 ・ 銅像が活かされていない。 ・ 案内板が老朽化しており、情報も分かりづらい。 ・ 鶴崎駅東側にある案内板を、駅利用者などの目に留まりやすい位置に移設してほしい。 ・ 二次元バーコードの掲載などを含む案内板の内容の見直しを行ってほしい。 ・ 公衆電話を駅の近くに移設してほしい。	既存施設 (案内板、銅像・記念碑など) の利活用
・ イベントを開催できる広場がない。 ・ ステージがほしい。	イベントや災害時など 多目的利用に備えた スペースや施設の検討

※20 道路線形
道路の中心線が3次元空間において立体的に描く形状。

2-2. 県道鶴崎停車場線に関する課題

(1) 「利便性・安全性の向上（交通空間）」について

問題点・ニーズ	課 題
- 点字ブロックが途切れている。 - 段差が多い。 - 歩道が狭い。 - 駅前の清潔感や景観の魅力向上のため、歩道のレンガの改修を行ってほしい。	通行空間のバリアフリー化
- バスとJRのアクセスが悪い。 - 駅の近くにバス停を設置してほしい。	バスのアクセス性の向上

(2) 「魅力ある施設や雰囲気づくり（環境空間）」について

問題点・ニーズ	課 題
- 歩行者や自転車の交通量が多い時間帯に、車が歩道を横断してくる際に危険を感じる場面がある。 - 暗い時間帯の利用者も多く、防犯の観点から街灯を増設してほしい。	余裕のある広い空間の効果的な活用
- クスノキは大きく育ち、枝葉が茂っているため、暗い感じがする。 - 鳥のフンによる被害が大きい。 - 中央帯のクスノキなど、緑が豊かであるため必要である。	緑の在り方を踏まえた雰囲気づくり
- イベントが開催できるスペースがない。 - にぎわいのスペース確保のため、県道鶴崎停車場線中央の緑地帯を撤去し、上下線の歩道を拡幅してほしい。 - 鶴崎踊や二十三夜祭など、さまざまなイベントを開催できるようにしてほしい。 - ベンチが汚れている。 - 座りたくなるようなベンチが欲しい。 - 駅前の清潔感や景観の魅力向上のため、ベンチの改修を行ってほしい。	イベントに対応できる空間づくり
- 空き地が多い。 - 若者が入りやすい店が少ない。 - 娯楽施設が少ない。 - 駅の近くに飲食店が少ない。 - コンビニなどの店舗が必要である。	沿道への魅力ある、人の集まる店舗の誘致

2-3. 鶴崎駅周辺に関する課題

(1) 「利便性・安全性の向上（交通空間）」について

問題点・ニーズ	課題
・ 自転車が通りにくい。 ・ 電柱が支障となり、通行しづらい。 ・ 自転車が安全に走行できる空間が欲しい。	自転車通行空間の確保 (歩行者との分離)
・ 駅の北側へ行くためには、遠回りしなければならない。 ・ 駅の北側への通路が欲しい。 ・ 南北に自由に通行できる通路が欲しい。	駅北との連携方策の検討
・ 周辺店舗の駐車場が少ない。	駐車場の確保

(2) 「魅力ある施設や雰囲気づくり（環境空間）」について

問題点・ニーズ	課題
・ 店舗に入りにくい。 ・ 学生が立ち寄れる施設が少ない。 ・ コンビニやカフェ、学習スペースが欲しい。	若者向けの施設や店舗の誘致
・ 市道中鶴崎1号線のトイレが汚れており、利用しづらい。 ・ 通行空間が狭い。 ・ 電柱が支障となり、歩きづらい。 ・ 車いすでの通行が危険である。 ・ 暗い場所が多い。 ・ 街灯を増やしてほしい。 ・ 防犯や視認性、安全性を考慮した照明灯を設置してほしい。	街灯・電柱・標識・トイレなどの改善・再整備

2-4. 鶴崎駅周辺における解決すべき課題

【鶴崎駅周辺に関する課題】

「利便性・安全性」の向上について

- 自転車通行空間の確保(歩行者との分離)
- 駅北との連携方策の検討
- 駐車場の確保

「魅力ある施設や雰囲気づくり」について

- 若者向けの施設や店舗の誘致
- 街灯、電柱、標識、トイレなどの改善・再整備

【駅前広場に関する課題】

「利便性・安全性」の向上について

- 駅前広場のバリアフリー化
- 駐輪場や駐車場の再整備
- ロータリーや道路線形の見直し

「魅力ある施設や雰囲気づくり」について

- 緑の在り方を踏まえた雰囲気づくり
- トイレのリニューアル
- 既存施設(案内板、銅像・記念碑など)の活用
- イベントや災害時など多目的利用に備えたスペースや施設の検討

【県道鶴崎停車場線に関する課題】

「利便性・安全性」の向上について

- 通行空間のバリアフリー化
- バスのアクセス性の向上

「魅力ある施設や雰囲気づくり」について

- 余裕のある広い空間の効果的な活用
- 緑の在り方を踏まえた雰囲気づくり
- イベントに対応できる空間づくり
- 沿道への魅力ある、人の集まる店舗の誘致



第3章 駅前広場の整備方針

1. 整備方針

1. 整備方針

基本構想における鶴崎駅周辺地区の将来像である「伝統と文化を感じる 多世代のための暮らしの拠点」や、ワークショップおよび推進協議会の意見などを踏まえ、鶴崎駅周辺の基本理念を以下のように定めます。

(1) 基本理念

伝統と文化を育む 交流・交通拠点

駅前広場の主要な機能として安全・円滑・便利な空間を確保した上で、鶴崎の伝統や文化を人々に伝えつつ、賑わいを生み出すような交流拠点を創出します。

(2) 整備方針

駅前広場を構成する「交通空間」と「環境空間」に関連する整備方針として、「第2章 鶴崎駅周辺の課題」で示した二つの視点を柱とします。

■ 利便性・安全性の向上（交通空間）

- ・ 特に混雑する朝夕の現状を踏まえ、安全性と利便性を両立させた空間づくり

■ 魅力ある施設や雰囲気づくり（環境空間）

- ・ イベントにも対応できる賑わいのある空間づくり
- ・ 緑や歴史を活かした雰囲気の良い空間づくり

《豆知識》駅前広場の空間と機能

駅前広場は、鉄道利用者のバスへの乗換えなどのターミナル交通を処理する「交通空間」としての役割をもつ一方、買物客や待合せなどの人々の交流や都市景観を形づくるなどの「環境空間」としての役割を担っています。

駅前広場の機能は、交通の結節点として交通を処理する「交通結節機能※21（交通空間機能）」と「都市の広場機能（環境空間機能）」とに大きく分けることができます。また、環境空間機能は、「市街地拠点機能」「交流機能」「景観機能」「サービス機能」「防災機能」の5つに大別されます。

■駅前広場の空間と機能について

空間	機能		代表的な施設
交通空間	交通結節機能	各種交通を結節・収容する	歩道、車道、（路線）バス乗降場、タクシー乗降場、自家用車乗降場、など
	市街地拠点機能	地区の拠点を形成する	－
環境空間	交流機能	憩い・集い・語らいの中心となる	滞留スペース、広場
	景観機能	地区の顔としての景観を形成する	緑、親水空間、シンボル施設
	サービス機能	公共的サービスや各種情報を提供する	トイレ、ポスト、電話BOX、案内板
	防災機能	防災活動の拠点となる	空間そのものが、防災活動拠点の場となる

資料：駅前広場計画指針

※21 交通結節機能

複数あるいは異種の交通手段の接続が行われる場所。



JR 鶴崎駅の駅舎（撮影：2023 年 1 月）

第4章 駅前広場の整備計画

1. 整備の方向性
2. 基本計画図

1. 整備の方向性

1-1. 駅前広場の交通空間に関する施設計画

交通空間は、交通結節点としての機能を担う空間であり、交通手段相互の乗換えおよび通行が効率的かつスムーズに行えるよう計画します。

交通空間は、歩道、車道、バス乗降スペース、タクシー乗降スペース、駐車スペースなどで構成されます。それぞれの必要面積の算定にあたっては、求められる機能、施設内容を把握するとともに将来の駅前広場利用者数を設定し、これらの交通を十分に処理できる空間を確保します。

(1) JR 鶴崎駅の利用者数

2024（令和 6）年 7 月現在、大分市統計年鑑（令和 5 年度）で公表されている年間乗車人員（人/年）をもとに、1 日当たり 1 往復として駅の利用者数（人/日）を算出しています。

2020（令和 2）年度以降はコロナ禍の影響で利用者数が減少しているため、コロナ禍以前の 2019（令和元）年度の 3,844 人を現在の利用者数として設定します。

年度	年間乗車人員 (人/年)	利用者数（人/日）の算出
2018(平成 30)年度	714,670	$714,670 \times 2 / 365 = 3,916$ 人
2019(令和元)年度	701,530	$701,530 \times 2 / 365 = 3,844$ 人
2020(令和 2)年度	564,290	$564,290 \times 2 / 365 = 3,092$ 人
2021(令和 3)年度	562,100	$562,100 \times 2 / 365 = 3,080$ 人
2022(令和 4)年度	614,295	$614,295 \times 2 / 365 = 3,366$ 人

資料：大分市統計年鑑（令和 5 年度）

図 4.1.1 JR 鶴崎駅の利用者数

(2) 将来の駅前広場利用者数の設定

今後の駅勢圏※22 の人口動向や鶴崎駅周辺のまちづくりの動向を考慮し、現在の駅利用者数を維持することを目標とします。

これに基づき、将来「2045（令和 27）年」の駅前広場利用者数を 3,900（人/日）と設定します。

将来の駅前広場利用者数：3,900 人/日

※22 駅勢圏

駅を利用する需要の存在が期待できる地理的な範囲のこと。

(3) 交通空間に導入する施設

駅前広場の実態調査や大分市内の鉄道駅の事例をもとに、最低限必要な施設規模を以下のとおり設定します。

交通処理機能		現況	計画
バス	乗降スペース	-	1 台
タクシー	乗車スペース	4 台	1 台
	降車スペース		1 台
	待機スペース		3 台
自家用車	乗降スペース	-	2 台
	駐車スペース	21 台	20 台
自転車・バイク	駐輪場 (駅前・駅東)	744 台	744 台

図 4.1.2 導入施設と最低限必要な規模

a) バス乗降スペース

調査の結果を踏まえ、2 台分の乗降スペースが必要とされていますが、現在、鶴崎駅前のロータリーには路線バスが運行していないことや、駅周辺の路線バスの運行状況、さらに観光バスの乗降スペースも考慮し、1 台分の乗降スペースを設けます。

b) タクシー乗車スペース・降車スペース・待機スペース

調査の結果を踏まえ、現状と同じ 4 台分のスペースを設けます。乗車スペースと降車スペースは別々に確保します。

c) 自家用車乗降スペース

調査の結果、最大で 10 台分の自家用車乗降スペースが必要とされています。自動車乗降スペースとして 1 台分と障がい者用乗降スペースを 1 台分設け、不足する 8 台分は自家用車駐車スペースを利用することとします。

d) 自家用車駐車スペース

調査の結果を踏まえ、現況と同規模の収容台数を設けます。なお、不足する自家用車乗降スペースとしての利用を促進するため、JR 九州と連携して周知を図ります。

e) 駐輪場（自転車・バイク）

JR 鶴崎駅の令和 5 年度の利用状況（駅前：169/246 台、駅東：142/498 台）を考慮し、現況と同規模の約 744 台の駐輪場を設けます。なお、駅前の利用台数が多いため、利便性を考慮し、駅前にも現況と同規模の収容台数を備えた駐輪場を検討します。

1-2. 駅前広場の環境空間に関する施設計画

ワークショップや推進協議会の意見を踏まえ、導入施設を以下のとおり設定します。

環境空間	施設・機能
交流機能	広場、ベンチ など
景観機能	樹木、銅像 など
サービス機能	案内板、公衆トイレ ^{※23} 、公衆電話 ^{※24} 、 シェルター、時計、レンタサイクル など
防災機能	オープンスペース ^{※25}

図 4.1.3 導入施設

a) 多目的に使用できるスペース（広場）

多目的に使用できる小規模なスペースを設ける計画とします。舗装の種類は、維持管理を考慮したものとしします。なお、大規模イベント等は、県道鶴崎停車場線の道路空間も有効活用します。

b) 休憩施設（ベンチなど）

日常的に集い、憩うことのできるベンチなど、広場のスペースに応じた規模の休憩施設を設けます。

c) 緑化などによる修景施設（樹木など）

広場やオープンスペースについては、緑化などにより修景^{※26}を図ります。植栽する樹木については、維持管理を含めて樹種を検討します。

また、配置する施設については、鶴崎駅周辺の個性に配慮したデザインとします。特に、既存の樹木やモニュメントについては有効活用を図り、時計については必要に応じて検討します。

d) 案内板・サイン（歴史・地区の案内など）

鶴崎地区の歴史や観光案内などの情報を発信するための案内板をリニューアルします。

e) 公衆トイレ

既存の公衆トイレは、バリアフリー化などにより利用しやすいトイレとなるように JR 九州へ働きかけます。

※23 駐輪場および公衆トイレの再整備や配置は、JR 九州との協議が必要である。

※24 公衆電話については、現在設置されているものを引き続き活用する。

※25 オープンスペース

公園などの公共施設において、建物などによって覆われていない土地の総称。

※26 修景

都市計画や道路計画などで、まち並みとの調和を図り、自然の美しさを損なわないように風景を整備すること。

f) 照明設備

夜間でも安全に通行できるように、適切な照度※27を確保した照明灯を設置します。

g) シェルター

バスやタクシーなどの乗降スペースには、雨天時での利便性向上を図るため、シェルター※28を設置します。

h) レンタサイクル

JR 鶴崎駅を中心とした地区の回遊性を高めるため、レンタサイクルなどのサービス提供について検討します。

その他として導入する施設

a) 自由通路

南北市街地の連携を図るため、自由通路※29の設置を検討します。

※27 照度

光の強さを示す指標で、特定の面における光の明るさを表す。照明計画や安全性の確保において重要な要素。

※28 シェルター

天候等から身を守るための雨風をしのげる場所。

※29 自由通路

既存の停車場内で鉄道と交差し、専ら歩行者、自転車の交通の用に供する道路又は通路等をいう。

1-3. 配置計画

全体配置計画において検討すべき事項としては、周辺街路と広場の関係、広場の形状、交通空間・環境空間の配置などがあります。JR 鶴崎駅の特性や、広場を利用する人々と車両の交通量および利用方法などを考慮し、交通の安全性と円滑性、鶴崎地区の玄関口としての景観形成や環境空間づくりとの調和が図れるように計画します。

(1) 空間配置

交通結節機能を担う交通空間と、都市の広場としての役割を果たす環境空間を、以下のように配置します。



図 4.1.4 空間配置

(2) 歩行者・自転車の動線

歩行者の動線※30は、JR 鶴崎駅と県道鶴崎停車場線をつなぐ主要動線を中心に構成し、東西からのアクセスも考慮します。また、自家用車、バス、タクシーの乗降スペースなどの滞留空間と交差しないように配置します。



図 4.1.5 歩行者・自転車動線

※30 動線

人や物が移動する際の経路や方向のこと。

(3) 自動車の動線計画

自動車の動線は、県道鶴崎停車場線からの流入・流出※31を主要動線とし、駅前広場内は右回りの一方通行のロータリー形状とします。なお、既存道路の自動車動線については、環境空間の利用形態や周辺の住環境を考慮した動線とします。

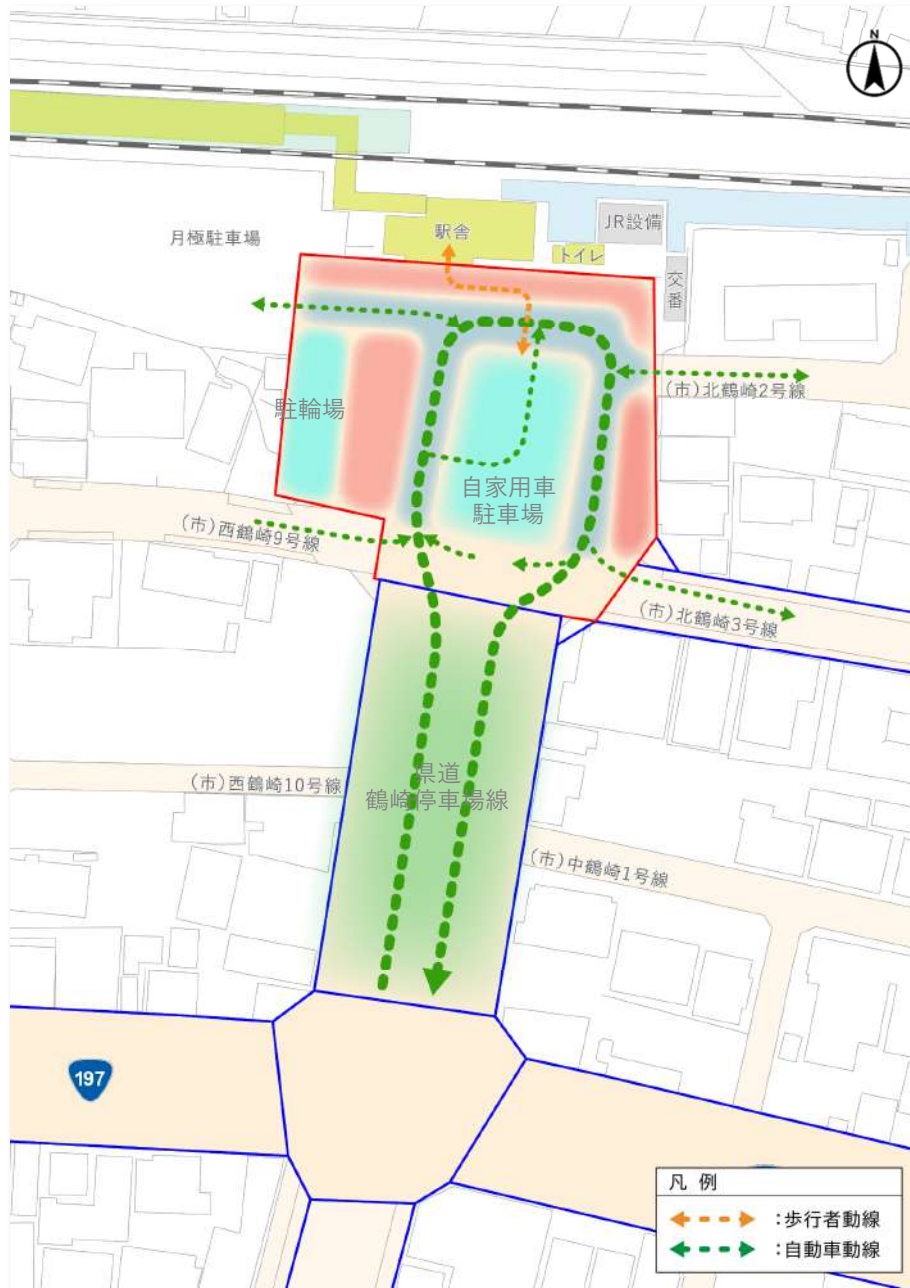


図 4.1.6 自動車動線

※31 流入・流出

人や車両が特定のエリアに入ること及び出ること。

(4) 整備のポイント

駅前広場の施設配置は、交通結節機能や交流機能を考慮した施設を導入し、以下に示す整備ポイントを踏まえて、利用者の利便性を重視した計画とします。

また、県道鶴崎停車場線についても、駅前広場との一体的な空間に配慮し、利用者の利便性を考慮した計画とします。

■駅前広場

交通空間	
バリアフリー化	・ 段差の解消や幅員の確保など、安全で快適な通行空間の整備
駐輪場・駐車場の整備	・ 駐輪場や駐車場は、動線や利便性に配慮した配置 ・ JR 鶴崎駅への送迎車両のための短時間駐車場の整備
乗降スペースの整備	・ 自家用車、タクシー、バスへの乗り換えのための整備 ・ 障がい者用乗降スペースは、駅に近い位置に配置 ・ 駅改札から近く、見通しの良い位置に配置
交差点の改善	・ 鶴崎駅前交差点のくいちがい交差を緩和する
将来を見据えた配置	・ 自由通路の配置に配慮した配置計画
環境空間	
広場空間の確保	・ 日常的な憩いや災害時など、多目的に利用できる空間の確保 ・ ベンチの設置や植樹などによる、憩いのスペースの確保
景観面への配慮	・ 一体的なデザインの統一などによる配慮

■県道鶴崎停車場線

通行空間の確保	・ 歩行者、自転車、自動車の通行空間の分離 ・ 幅員は、歩行者などが安全に通行できる幅員とする
交差点の改善	・ 鶴崎駅前交差点のくいちがい交差を緩和する
植樹帯※32の確保	・ 植樹による景観の改善および延焼防止のための空間の確保
イベント空間の確保	・ イベントなどに利用できる一時的な空間の確保

※32 植樹帯

専ら良好な道路交通環境の整備、沿道における良好な生活環境の確保または都市部の良好な公共空間の形成という目的を持って設置されるもの。

2. 基本計画図

2-1. 平面計画

「1. 整備の方向性」に基づいて検討した基本計画図を下図に示します。

なお、ベンチなどの施設の配置や植栽などの景観施設の具体的な配置については、今後の基本設計で検討します。



図 4.2.1 基本計画図

2-2. 断面計画（県道鶴崎停車場線）

道路構造令に基づき横断面構成を下図に示します。

中央帯※33 の植栽空間を再整備し、一時的なイベントに活用できるスペースを創出するとともに、歩行者と自転車の通行空間を分離することを目指します。

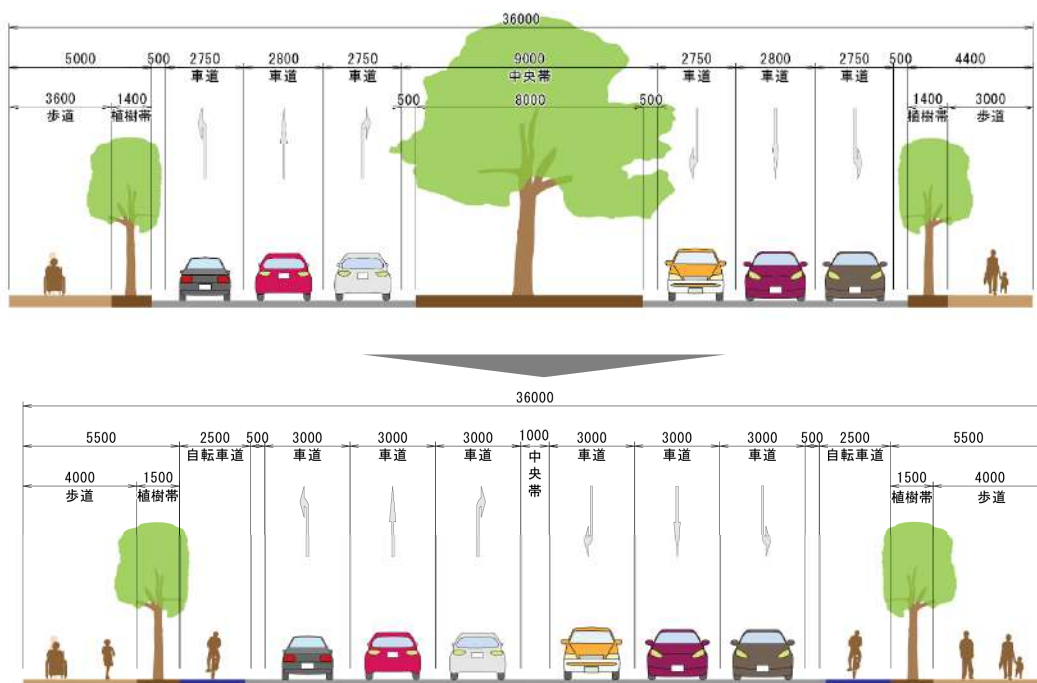


図 4.2.2 標準断面（上：現況 下：計画）

■イベント時の利用イメージ



※本図は、整備のイメージを示したものであり、今後の詳細設計や関係機関との協議により、実際の内容は本イメージと異なる場合があります。

※33 中央帯

道路を往復の方向に分離するために設けられる帯状の道路の部分。



彫刻「鶴崎踊り」（撮影：2023 年 1 月）

第 5 章 計画実現に向けて

1. 空間の確保について
2. 自由通路の検討について
3. 鶴崎駅周辺の各取組の実施時期のイメージ

1. 空間の確保について

本計画を策定するにあたり、駅前広場における通行空間の確保と、県道鶴崎停車場線におけるイベントなどに利用できる一時的な空間の確保が求められています。この中で、駅前広場における植樹帯と県道鶴崎停車場線に位置する中央帯については、ワークショップや推進協議会、地域住民から様々な意見が寄せられています。

これらの意見を踏まえ、今後の検討方針を以下に整理します。

1-1. 駅前広場の植樹帯

現在、駅前広場の北東付近に位置する植樹帯には、樹高約15m、枝張り約12mのイチョウが3本（雄株1本、雌株2本）植えられています。秋になると鮮やかな黄色に染まり、広場を美しく彩ります。

しかし、大量の落葉や銀杏によるおいや汚れが課題となっており、さらに駐輪場やトイレ前の通行空間を圧迫しているため、大木であるが故に様々な問題を抱えています。

今後、地域住民との合意形成^{※34}を図った上で、イチョウを含む植樹帯の再整備を検討します。



図 5.1.1 駅前広場の植樹帯

長所

- ・ 駅のシンボルになっている。
- ・ 夏に木陰ができて涼しい。
- ・ 防風の効果により砂などの飛散を防止している。
- ・ 紅葉を通じて、季節を感じる。
- ・ 風格や歴史を感じる。

短所

- ・ 駐輪場の出入口に植樹されているため、通行しづらい。
- ・ 雨の日、落ち葉で滑って歩きづらい。
- ・ 銀杏が落ちて、異臭がする。

※34 合意形成

皆が納得できるように創意工夫をしながら、多様な意見をまとめること。

1-2. 県道鶴崎停車場線の中央帯

県道鶴崎停車場線の幅員約 8m の中央帯には、樹高約 10m、枝張り約 8m のクスノキが 6 本植えられており、緑豊かな空間を形成しています。しかし、「大分市街路樹景観整備計画」では、これらのクスノキは「撤去検討路線」に位置付けられています。

クスノキは、張り出した枝が建築限界※35 に影響を及ぼす恐れがあるため、定期的な剪定が必要です。また、視認性を阻害する中央帯の草刈りなどの維持管理面の課題があり、鳥の糞害や騒音などの問題もあります。

本計画においては、駅前広場のイベントスペースが限られているため、県道鶴崎停車場線を一時的なイベントスペースとして活用できるよう、フラットな構造が望ましいと考えています。そのため、今後、地域住民との合意形成を図った上で、クスノキを含む中央帯のあり方について検討します。また、歩道の再整備を行うにあたり、既存の歩道に植樹されているケヤキやホルトノキについても併せて検討します。

中央帯を活かした空間を検討する場合には、以下のような横断面構成での整備を検討します。



図 5.1.2 県道鶴崎停車場線の中央帯

長所

- ・ 往復の交通を分離し、対向車線への飛び出し防止による事故を防止する。
- ・ 新緑を通じて、季節を感じる。
- ・ 防風の効果により砂などの飛散を防止している。
- ・ JR 鶴崎駅周辺の景観と調和し、地域全体の美しさを向上させている。

短所

- ・ 落ち葉が発生する。
- ・ 鳥などが発生して困る。
- ・ 剪定により枝を切りすぎている。

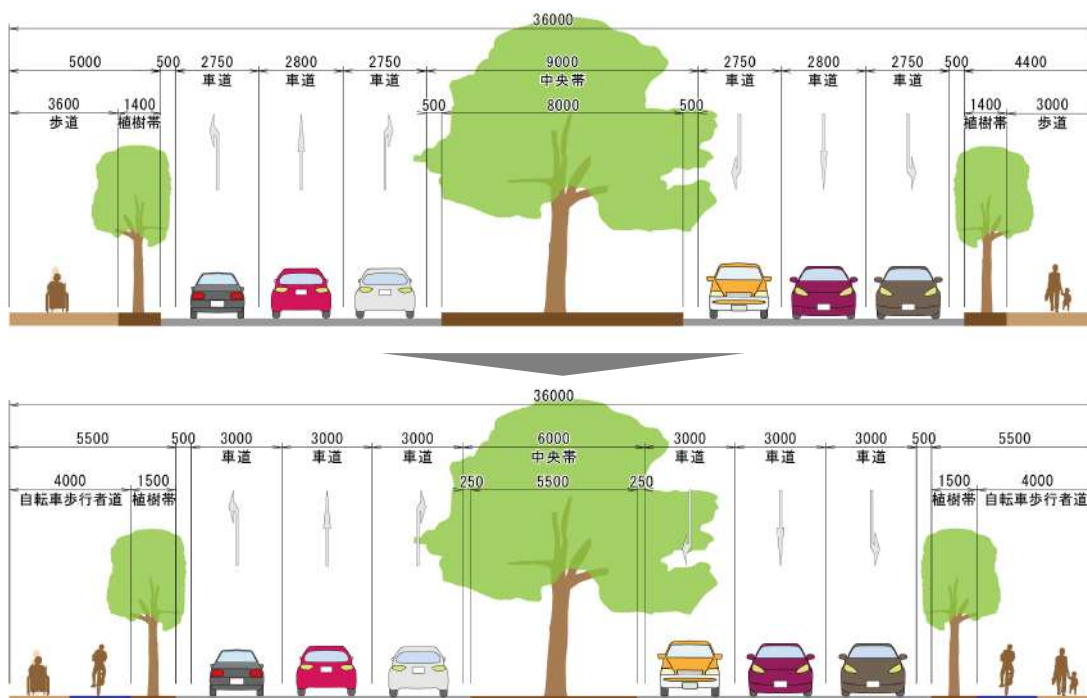


図 5.1.3 中央帯を活かした標準断面（上：現況 下：計画）

※35 建築限界

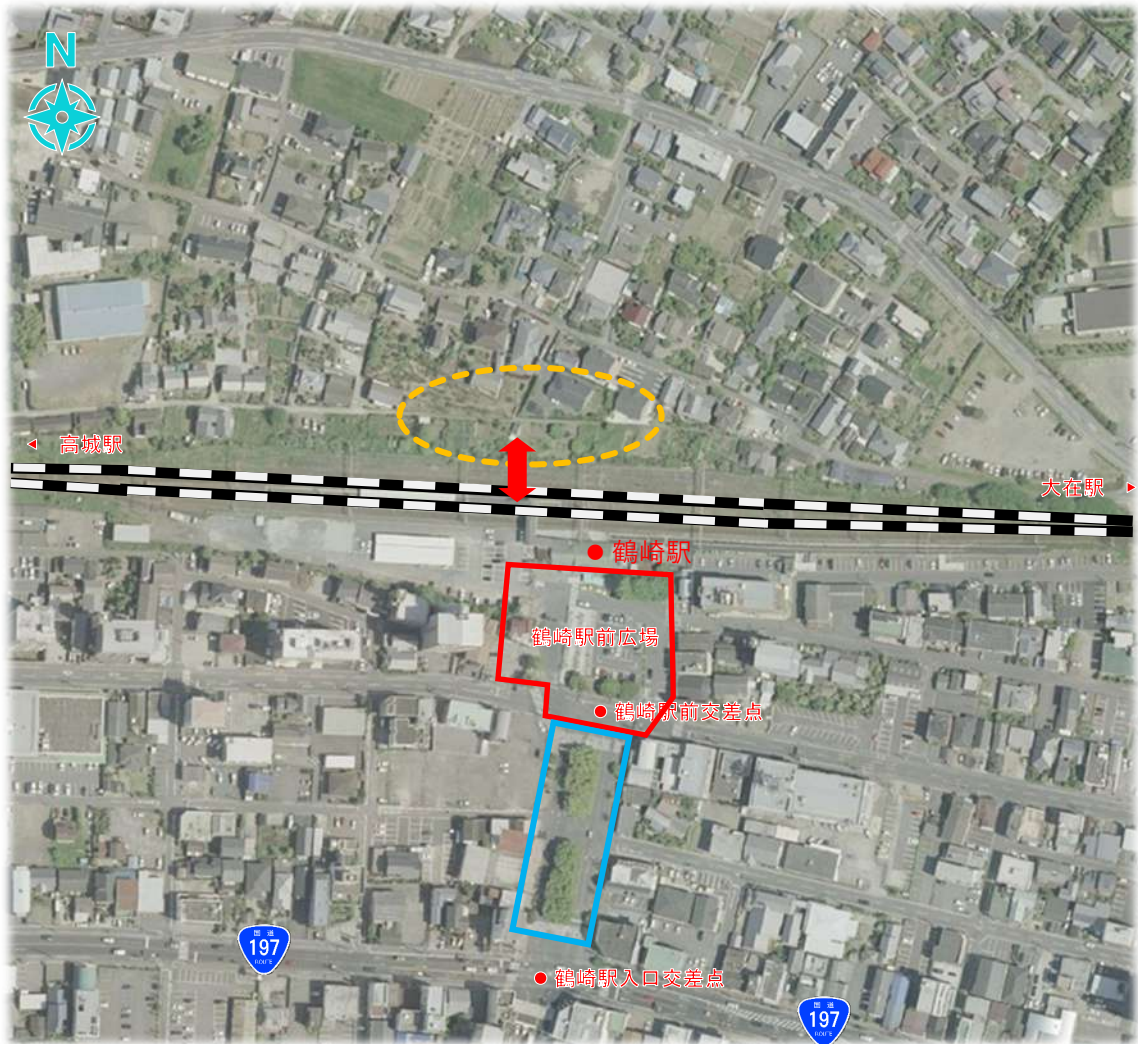
道路上で車両や歩行者の交通の安全を確保するために、ある一定の幅と高さの範囲内には障害となるような物を置いてはいけないという空間確保の限界。

2. 自由通路の検討について

JR 鶴崎駅の南北を結ぶ自由通路については、既存の跨線橋※36 の構造確認や改札機能の位置、通路の接続位置など、以下の課題を検討する必要があります。

- ① 既設の跨線橋の設計基準の確認
- ② 駅北側エリアのアクセス道路などの整備を検討

今後は、利用実態調査など、自由通路の必要性や機能性についての検討を行います。



資料：国土地理院（撮影日：2007 年）

図 5.2.1 JR 鶴崎駅の南北の状況

※36 跨線橋

鉄道線路を超えるためにその上をかけ渡した橋。

3. 鶴崎駅周辺の各取組の実施時期のイメージ

基本構想の将来像である「伝統と文化を感じる多世代のための暮らしの拠点」の実現に向けた取組を下記に示します。鶴崎駅前拠点をはじめ、短期の取組みを先行して実施し、さらに中期・長期的な取組に波及させるよう事業の推進を図ります。

本市は、協働のまちづくりを推進する中で、各取組に必要な支援に努め、地域住民や関係者の意向を最大限に尊重します。また、実現に向けて、市の庁内体制を構築するとともに、関係機関との調整を行います。

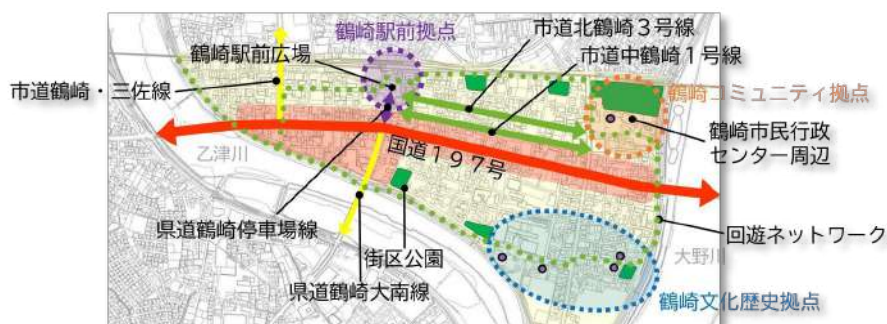


図 5.3.1 取組のイメージ

	取組内容		取組時期		
			短期	中期	長期
鶴崎駅周辺全域 (共通)	鶴崎駅周辺全域	エリアマネジメント、 防災・減災に向けた取組			
鶴崎駅前拠点	鶴崎駅前広場	JR 鶴崎駅駅前広場			
	県道鶴崎停車場線	県道鶴崎停車場線 ((都)鶴崎駅前松岡線)			
鶴崎コミュニティ拠点	鶴崎市民行政センター 周辺	鶴崎市民行政センター、 鶴崎公民館、鶴崎公園			
鶴崎コミュニティ軸	市道北鶴崎 3 号線	市道北鶴崎 3 号線 ((都)船頭町線)			
	市道中鶴崎 1 号線	市道中鶴崎 1 号線			
広域連携軸	国道 197 号	国道 197 号沿線			
地域連携軸	市道鶴崎・三佐線 ((都)寺司三佐線)	市道鶴崎三佐線 ((都)寺司三佐線)			
	県道鶴崎大南線 (別保橋)	県道鶴崎大南線 ((都)鶴崎駅前松岡線)			
鶴崎歴史とみどりの ネットワーク	回遊ネットワーク	市道南鶴崎 6 号線 (空桑思索の道) 乙津川右岸緑地 など			
	街区公園	羽佐間児童公園、新堀公園、 東浦公園、岩丸児童公園、 伴出公園			

資料：鶴崎駅周辺整備基本構想

図 5.3.2 実施時期のイメージ



上空からみた鶴崎駅周辺のようす（撮影：2025 年 3 月）

資 料 編

1. 上位・関連計画の整理
2. ワークショップ
3. 交通量調査結果
4. 鶴崎駅前広場の将来利用者数（目標値）
5. 鶴崎駅前広場整備基本計画の策定経過
6. 策定委員会名簿
7. 用語解説

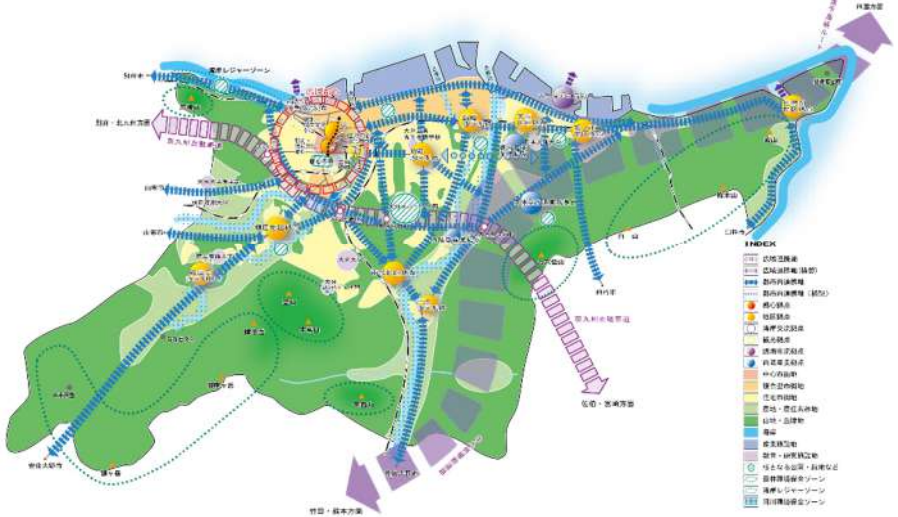
1. 上位・関連計画の整理

(1) 大分市総合計画「未来へつなぐ おおいたビジョン 2034」

策定年月		2025(令和 7)年 4 月
計画の期間		2025(令和 7)年度～2034(令和 16)年度
めざすまちの姿(都市像)		誰もが“幸せ”を実感できるまち OITA
基本的な政策		1 豊かな個性をはぐくみ、ともに成長できるまち 2 共生する社会を実現し、安心して暮らせるまち 3. 新たな価値を創造し、未来に挑戦できるまち
基本計画(各論)	1 豊かな個性をはぐくみ、ともに成長できるまち	第4章 個性豊かな文化・芸術の創造と発信 >>>伝統文化の保存・継承 ●伝統的に地域で受け継がれてきた民俗文化財の保存・継承に努めます。 ●伝統芸能や地域固有の行事などを通じ、地域に対する愛着をはぐくむとともに、市民相互の連携を深めて地域の活性化を図ります。
	3. 新たな価値を創造し、未来に挑戦できるまち	第 7 章 快適な都市構造の形成と機能の充実 第1節 計画的な市街地の形成 >>>風格ある広域都心と暮らしやすい地区拠点の形成 ●地域特性を生かした個性と魅力があふれ、生活サービス機能が集積した暮らしやすい持続可能な地区拠点の形成を目指します。 >>>計画的な土地利用の推進 ●自然・歴史・文化を生かし、商業・工業、住居・田園などのバランスを保った、将来にわたり持続可能な魅力ある都市の形成を目指すため、社会情勢の変化や地域特性を考慮した土地利用の制限や誘導策を検討するとともに住環境の整備や市街地の再開発など、地域の特性に応じた事業の推進を図ります。 ●市街地の整備等に当たっては、低・未利用地の有効活用など、効率的かつ都市の健全な発展に資する土地利用を図るとともに、緑の保全や創造、景観、防災などに配慮し、周囲の環境との調和、宅地等の安全性の確保に努めます。 >>>産業や生活を支える道路体系の確立 ●地域間の連携強化と経済・産業活動の活性化、交通渋滞の緩和などのため、道路・橋梁の改良・改修等を促進します。 >>>人にやさしく、強く美しい都市空間の創造 ●段差の解消や点字ブロックの適正配置、無電柱化の推進などのハード整備とソフト施策である「心のバリアフリー」の両面から、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した都市空間の整備に取り組みます。 ●災害時の延焼遮断帯や避難・輸送路、避難場所など災害に強い都市空間の整備を進めます。 ●質の高い都市景観づくりや地域の特性を生かした個性ある都市空間形成を推進するとともに、魅力的で快適に回遊できる都市を目指します。

	第2節 交通体系の確立 >>>公共交通ネットワークの構築 ●関係機関等と連携して、公共交通ネットワークの維持・利用促進に努め、日豊本線の高速・複線化の促進など、有機的な広域交通体系の確立を進めます。 >>>公共交通の利便性の向上と利用促進 ●高齢者や障がいのある人等の移動制約者や訪日外国人旅行者、来訪者等の公共交通機関を利用した移動の安全性及び利便性の向上を図るため、市民、交通事業者、行政が一体となり、ハード・ソフトの一体的な取組のもと利用環境のユニバーサルデザイン化・バリアフリー化を促進します。 >>>自転車等利用環境の充実 ●国、県等の関係機関と連携し、連続性のある自転車通行空間の整備を進めるなど、自転車を安全・快適に利用できる環境づくりに努めます。 ●駐輪場の整備やシェアサイクル業などの利便性向上に向けた取組を進めます。
--	---

(2) 大分市都市計画マスタープラン

策定年月	2021(令和3)年3月
目標年次	2040(令和22)年(中間年次:2030(令和12)年)
将来都市像	笑顔が輝き 夢と魅力あふれる 未来創造都市
基本理念	1 健やかでいきいきと暮らせるあたたかさあふれるまちづくり 2 豊かな心とたくましく生きる力をはぐむまちづくり 3 安全・安心を身近に実感できるまちづくり 4 にぎわいと活力あふれる豊かなまちづくり 5 将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちづくり 6 自然と共生する潤い豊かなまちづくり
都市づくりの基本方針	1 県都にふさわしい広域都心の形成 2 広域的な交流・連携やまちづくりを支える交通体系の確立 3 ライフスタイルを豊かにする快適で安全な住環境と地区拠点を中心としたコンパクトな都市づくり 4 都市の個性と風格を醸成し集客力を高める都市の魅力創出 5 人と自然とが共生できる豊かな自然環境の保全・活用と身近な緑、水辺の再生 6 自然災害に備える防災機能の向上と危機管理体制の確立 7 産学官民が協働して参画する都市づくりの推進
将来都市構造	■ 鶴崎駅周辺：歴史と伝統の息づく居住型拠点の形成 ・JR 鶴崎駅周辺地区については、商業・業務機能と都市型居住機能の集積による地区拠点の形成を図ります。 

- ・松岡地区の大規模商業施設周辺においては、居住機能と商業機能が融合した利便性の高い市街地形成を図るため、隣接する大分スポーツ公園などと調和し、多くの人を惹きつける魅力ある地区として都市型観光交流拠点の形成を図ります。
- ・国道 197 号南バイパス周辺で先端産業系の工場が立地する地区では、内陸型産業拠点の形成をはたらきかけます。
- ・市街化区域内における既存の大規模な低・未利用地などについては、地域特性を考慮しつつ、道路整備など必要な基盤整備とあわせ計画的な土地利用について検討を行います。

2. 交通施設

- ・国道 197 号の渋滞緩和のため、車線数の不連続区間の解消に向けた取組を進めます。
- ・国道 197 号南バイパスと県道鶴崎大南線との交差点(毛井交差点)の立体化を目指します。
- ・県道鶴崎大南線の拡幅整備を促進し、隣接する地区との連携強化を図ります。
- ・(都)乙津森町線の整備により、大南方面から市北部へ向う交通量を分散し、都市内の交通流動の円滑化を目指します。
- ・生活利便性の向上を図るため、広域幹線道路や都市幹線道路を補完する幹線道路の整備を推進します。
- ・県道松岡日岡線は、地区の南北方向の都市内連携軸としての交通機能の強化を図ります。
- ・国道 197 号などの渋滞緩和や住宅団地の利便性向上を図るため、猪野団地入口と鶴崎スポーツパーク付近を結ぶ(都)松原国宗線の整備を推進します。
- ・JR 鶴崎駅においては、駅前広場の整備など駅利用者の利便性向上に向け、交通結節機能の強化を図ります。
- ・新たな交通システムの導入検討や東九州自動車道の活用など、大分スポーツ公園周辺へのアクセス強化の在り方について検討を進めます。
- ・歩道などのバリアフリー化を推進します。
- ・公共交通の充実に向けて関係機関にはたらきかけます。

3. 環境・景観

- ・大分スポーツ公園のさらなる利活用・整備方針の検討等を推進し、大分県民のスポーツ拠点の形成を図ります。
- ・鶴崎スポーツパークを地区の核となる公園として位置付け、乙津川の親水空間を有する水辺の楽校(がっこう)などの活用を推進します。
- ・大野川や乙津川の水質保全と河畔林の整備、また、河川空間を生かした水辺空間の整備、自転車道の整備を図ります。
- ・九六位山を中心とする山地・丘陵地の自然環境の保全を図るとともに、森林に親しめる環境の整備を推進します。
- ・高尾山を中心とした自然環境の保全と活用を図ります。
- ・大野川や乙津川沿いに広がる優良農地と田園環境の保全を図ります。
- ・高田輪中地区においては、河川の恩恵や災害に抗する生活の知恵の中で形づくられた輪中の伝統を踏まえた景観の形成・保全を推進します。
- ・横尾地区に残る国指定史跡横尾貝塚等の歴史資源を生かした公園整備を推進します。

・東九州自動車道松岡パーキングを生かした大分スポーツ公園へのアクセスを検討するとともに、その周辺地区における地域の特色を生かした活動の維持・増進、にぎわいの創出に向けた取組を支援します。

4. その他

・河川の堤防の強化などのインフラの整備により、地域全体の防災面の強化を図ります。

・空き家や空き地を生かした地域コミュニティ活動の推進を図ります。

・森地区について、計画的な雨水排水ポンプ場の建設や雨水管きよの整備を推進します。

・汚水処理の未普及対策として、人口密度の高い地域や住民意向調査による早期接続に見込める地区を優先的に整備します。あわせて官民連携による設計・施工一括発注方式(DB)による雨水管きよ整備を実施します。

(3) 大分市立地適正化計画

策定年月	2024(令和6)年3月
目標年次	2040(令和22)年
都市づくりの基本理念	元気・安心・快適な暮らしを支える 将来にわたって持続可能な『多極ネットワーク型集約都市』の形成
都市づくりの基本方針	1 県都にふさわしい風格とにぎわいのある大分都心拠点づくり 2 地域特性を生かした個性と魅力あふれる地区拠点づくり 3 だれもが安心して暮らし続けることができる居住環境づくり 4 交流とつながりをはぐむ公共交通ネットワークづくり
目指すべき 将来都市構造イメージ	
誘導区域及び 誘導施設	■居住推奨区域 ■誘導施設(都市機能誘導区域内において、立地を誘導すべき都市機能増進施設) ・都市機能誘導区域及び誘導施設の位置付けなし

(4) 大分都市圏総合都市交通計画

策定年月	2021(令和 3)年 3 月									
目標年次	2035(令和 17)年									
都市圏における交通体系の将来像	将来にわたって安心して利用でき、 地域の活力と都市圏の発展を支える交通体系									
基本方針	1 他都市圏との活発な交流・連携を支援する広域交通体系 2 拠点集約型まちづくりを支援する持続可能な交通体系 3 安全・安心な移動により生活を支える交通体系									
県都・大分市の将来交通体系	■大分市における道路ネットワーク									
	 凡 例 - 短期での供用を目指す路線 - 中期での供用を目指す路線 - 長期での供用を目指す路線 - 幹線道路として都市計画決定されている道路 ※供用は部分供用を含む 注)短期:概ね 5 年程度、中期:概ね 10 年程度、長期:概ね 10～20 年程度									
大分市における地区毎の主な公共交通施策 (鶴崎地区)	■大分市における道路ネットワークに関する整備候補路線									
	<table><tr><th>No</th><th>路線名</th><th>区間</th><th>供用を目指す時期</th></tr><tr><td>9</td><td>(国道 197 号) 駄ノ原細線</td><td>乙津町～大字志村 【乙津交差点～志村交差点】</td><td>中期</td></tr></table>			No	路線名	区間	供用を目指す時期	9	(国道 197 号) 駄ノ原細線	乙津町～大字志村 【乙津交差点～志村交差点】
No	路線名	区間	供用を目指す時期							
9	(国道 197 号) 駄ノ原細線	乙津町～大字志村 【乙津交差点～志村交差点】	中期							

(5) 大分市地域公共交通計画

策定年月	2022(令和 4)年 3 月															
計画期間	2022(令和 4)年 4 月～2027(令和 9)年 9 月															
地域公共交通の 基本理念	市民・交通事業者・行政が連携し、だれもが快適に 移動できる公共交通ネットワークの構築を目指す。															
地域公共交通の 基本方針	1 すべての人が住み慣れた場所で安心して生活できる公共交通の維持・活性化 2 風格とにぎわいのある都市拠点や地域の特性を活かした個性的で魅力ある地区拠点の形成を 支える公共交通ネットワークの構築 3 利用者のニーズに合った効果的な公共交通ネットワークの構築 4 市民や来街者、だれもが分かりやすく利用しやすい公共交通の環境整備															
目標を達成するため に行う取組の全体像	<table><tr><th>基本方針</th><th>目 標</th><th>取組の全体像</th></tr><tr><td>（1）すべての人 が住み慣れた場所 で安心して生活で きる公共交通の維 持・活性化</td><td>だれもが安心し て生活できる生 活交通の確保</td><td> ◆ 生活交通の確保・維持（鉄道・バス路線）、 地域公共交通ネットワークのあり方検討 ◆ 乗合タクシー（ふれあい交通）の利用促進及び 見直しの検討 ◆ 地域内の移動手段の調査・検討 ◆ 路線バス代替交通の運行及び見直しの検討 ◆ 新たなモビリティサービスの調査・検討 （その他） ◆ 公共交通以外の輸送資源の可能性検討 ◆ 長寿応援バス事業の実施・継続・見直し </td></tr><tr><td>（2）風格とにぎ わいのある都市拠 点や地域の特性を 活かした個性的で 魅力ある地区拠点 の形成を支える公 共交通ネットワー クの構築</td><td>都市拠点と地区 拠点のにぎわい 創出</td><td> ◆ 中心市街地循環バス「大分きゅんバス」の運行 ◆ 中心市街地公有地利活用の調査・検討 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討 （グリーンスローモビリティ） ◆ 海上アクセスに関連する取組（MaaS等） ◆ パークアンドライドやサイクルアンドバスラ イド等の取組の促進 ◆ 新駅設置の可能性・役割の検討 </td></tr><tr><td>（3）利用者のニ ーズに合った効果 的な公共交通ネット ワークの構築</td><td>公共交通利用者 の維持・確保</td><td> ◆ 移動需要に応じた運行の見直し （地域旅客サービス継続事業の検討） ◆ 公共交通の連携可能性調査 （地域公共交通利便増進事業の検討） ◆ 県都大分市交通円滑化検討（BRTの検討） ◆ 公共交通の利用促進に向けた取組 （モビリティ・マネジメント） ◆ 広域圏の公共交通との連携強化 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討 （自動運転） </td></tr><tr><td>（4）市民や来街 者、だれもが分か りやすく利用しや すい公共交通の環 境整備</td><td>だれもが利用し やすい公共交通</td><td> ◆ バスロケ及びデジタルサイネージの運用 ◆ 低床バス、UD タクシーの導入促進等 ◆ 公共交通の情報発信の取組強化 ◆ 市民・来訪者の受入環境整備 （観光戦略プランとの整合） ◆ バス停上屋、接続バス停の待合環境整備 </td></tr></table>	基本方針	目 標	取組の全体像	（1）すべての人 が住み慣れた場所 で安心して生活で きる公共交通の維 持・活性化	だれもが安心し て生活できる生 活交通の確保	◆ 生活交通の確保・維持（鉄道・バス路線）、 地域公共交通ネットワークのあり方検討 ◆ 乗合タクシー（ふれあい交通）の利用促進及び 見直しの検討 ◆ 地域内の移動手段の調査・検討 ◆ 路線バス代替交通の運行及び見直しの検討 ◆ 新たなモビリティサービスの調査・検討 （その他） ◆ 公共交通以外の輸送資源の可能性検討 ◆ 長寿応援バス事業の実施・継続・見直し	（2）風格とにぎ わいのある都市拠 点や地域の特性を 活かした個性的で 魅力ある地区拠点 の形成を支える公 共交通ネットワー クの構築	都市拠点と地区 拠点のにぎわい 創出	◆ 中心市街地循環バス「大分きゅんバス」の運行 ◆ 中心市街地公有地利活用の調査・検討 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討 （グリーンスローモビリティ） ◆ 海上アクセスに関連する取組（MaaS等） ◆ パークアンドライドやサイクルアンドバスラ イド等の取組の促進 ◆ 新駅設置の可能性・役割の検討	（3）利用者のニ ーズに合った効果 的な公共交通ネット ワークの構築	公共交通利用者 の維持・確保	◆ 移動需要に応じた運行の見直し （地域旅客サービス継続事業の検討） ◆ 公共交通の連携可能性調査 （地域公共交通利便増進事業の検討） ◆ 県都大分市交通円滑化検討（BRTの検討） ◆ 公共交通の利用促進に向けた取組 （モビリティ・マネジメント） ◆ 広域圏の公共交通との連携強化 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討 （自動運転）	（4）市民や来街 者、だれもが分か りやすく利用しや すい公共交通の環 境整備	だれもが利用し やすい公共交通	◆ バスロケ及びデジタルサイネージの運用 ◆ 低床バス、UD タクシーの導入促進等 ◆ 公共交通の情報発信の取組強化 ◆ 市民・来訪者の受入環境整備 （観光戦略プランとの整合） ◆ バス停上屋、接続バス停の待合環境整備
基本方針	目 標	取組の全体像														
（1）すべての人 が住み慣れた場所 で安心して生活で きる公共交通の維 持・活性化	だれもが安心し て生活できる生 活交通の確保	◆ 生活交通の確保・維持（鉄道・バス路線）、 地域公共交通ネットワークのあり方検討 ◆ 乗合タクシー（ふれあい交通）の利用促進及び 見直しの検討 ◆ 地域内の移動手段の調査・検討 ◆ 路線バス代替交通の運行及び見直しの検討 ◆ 新たなモビリティサービスの調査・検討 （その他） ◆ 公共交通以外の輸送資源の可能性検討 ◆ 長寿応援バス事業の実施・継続・見直し														
（2）風格とにぎ わいのある都市拠 点や地域の特性を 活かした個性的で 魅力ある地区拠点 の形成を支える公 共交通ネットワー クの構築	都市拠点と地区 拠点のにぎわい 創出	◆ 中心市街地循環バス「大分きゅんバス」の運行 ◆ 中心市街地公有地利活用の調査・検討 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討 （グリーンスローモビリティ） ◆ 海上アクセスに関連する取組（MaaS等） ◆ パークアンドライドやサイクルアンドバスラ イド等の取組の促進 ◆ 新駅設置の可能性・役割の検討														
（3）利用者のニ ーズに合った効果 的な公共交通ネット ワークの構築	公共交通利用者 の維持・確保	◆ 移動需要に応じた運行の見直し （地域旅客サービス継続事業の検討） ◆ 公共交通の連携可能性調査 （地域公共交通利便増進事業の検討） ◆ 県都大分市交通円滑化検討（BRTの検討） ◆ 公共交通の利用促進に向けた取組 （モビリティ・マネジメント） ◆ 広域圏の公共交通との連携強化 ◆ 新たなモビリティサービスの実施及び検討 （自動運転）														
（4）市民や来街 者、だれもが分か りやすく利用しや すい公共交通の環 境整備	だれもが利用し やすい公共交通	◆ バスロケ及びデジタルサイネージの運用 ◆ 低床バス、UD タクシーの導入促進等 ◆ 公共交通の情報発信の取組強化 ◆ 市民・来訪者の受入環境整備 （観光戦略プランとの整合） ◆ バス停上屋、接続バス停の待合環境整備														

(6) 大分市バリアフリーマスタープラン

策定年月	2025(令和7)年4月
計画期間	2025(令和7)年度～2034(令和16)年度
基本理念	だれもが自由にどこへでも豊かさあふれる大分市
基本方針	1 バリアフリー・ユニバーサルデザインを基本としたまちづくりの市全域への拡大 2 誰もが円滑に移動できるバリアフリー環境の持続的な形成と強化 3 心のバリアフリーの推進と強化 4 市民・事業者・行政の協働による住民参加の取組 5 継続的なバリアフリー化の進行管理を検証 6 計画立案から周知へ、バリアフリーの普及・啓発活動の推進
移動等円滑化促進地区 (重点整備地区候補) について	
整備の方向性	①現状 ・鶴崎駅周辺地区は、重点整備地区にも位置付けられており、バリアフリー整備を進めています。しかし、国道197号の拡幅事業など、主要な道路事業が完了していません。 ・鶴崎駅は「移動等円滑化の促進に関する基本方針」に基づく鉄道駅のバリアフリー化については、2018(平成30)年度に実施されています。 ②ヒアリング調査 ・2023(令和5)年に障がい者団体を対象に実施したヒアリング調査において、鶴崎駅周辺地区の整備方針に関する6つの整備事業(公共交通、道路、公園、建築物・駐車場、交通安全、教育啓発)について、必要とされている事業の傾向を整理します。 ・以下、図に示すように「道路」に関する事業への投票が40%と最も多く、次いで、「公共交通」に関する事業が29%、「交通安全」に関する事業が13%となっています。最も投票が少なかったのは、「建築物・駐車場」「教育啓発(心のバリアフリー)」に関する事業で4%となっています。 ・鶴崎駅周辺地区では、「道路」や「公共交通」に関する事業が求められる傾向にあります。 ③現地調査・まち歩き点検 ・現地調査では、エスコートゾーンや視覚障がい者誘導用ブロックの未設置などが課題とされています。 ・障がいのある人や高齢者及び行政機関等の参加のもと2024(令和6)年度に実施したまち歩き点検において、鶴崎駅周辺地区の道路について、段差の解消や区画線の修繕、交通安全施設の設置などバリアフリー化が課題として挙げられています。 ・まち歩き点検後の意見交換会では、「道路」や「心のバリアフリー」に関する取組方策が求められる傾向にあります。

④整備の方向性

- ・鶴崎駅周辺地区においては、国道197号の拡幅事業など各種特定事業を実施し、高齢者や障がいのある人などの方が円滑に移動できるバリアフリー環境の整備を推進します。
- ・マスタープランの基本方針に基づき、心のバリアフリーに関する取組を、市民や公共交通事業者等との協働により推進するとともに、ソフト対策に関する特定事業として、心のバリアフリー教育の実施や各種施設の適正利用に関する広報、啓発活動の充実など、意識の向上を図るための施策を推進します。

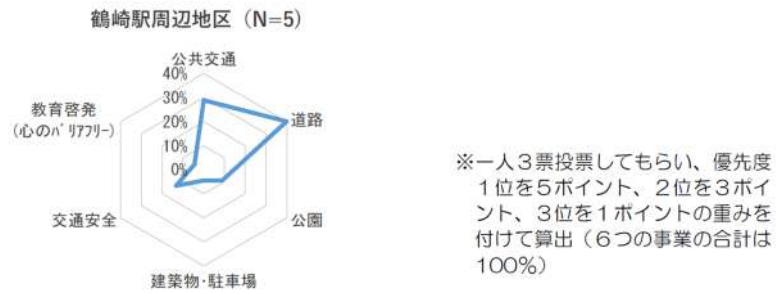
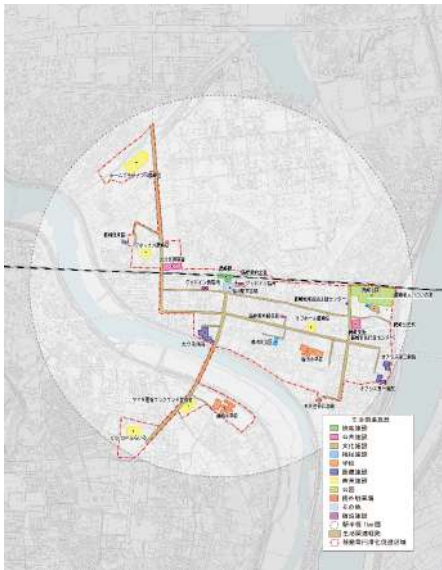
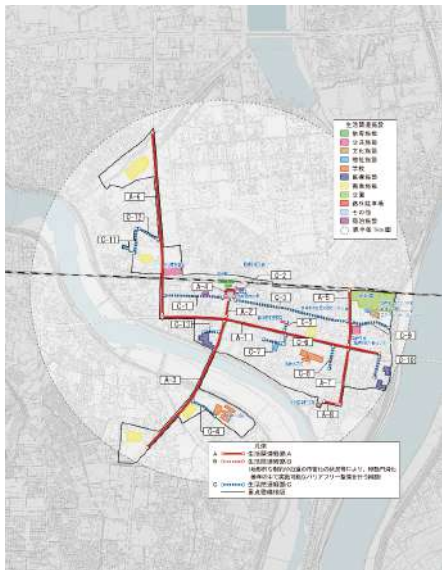
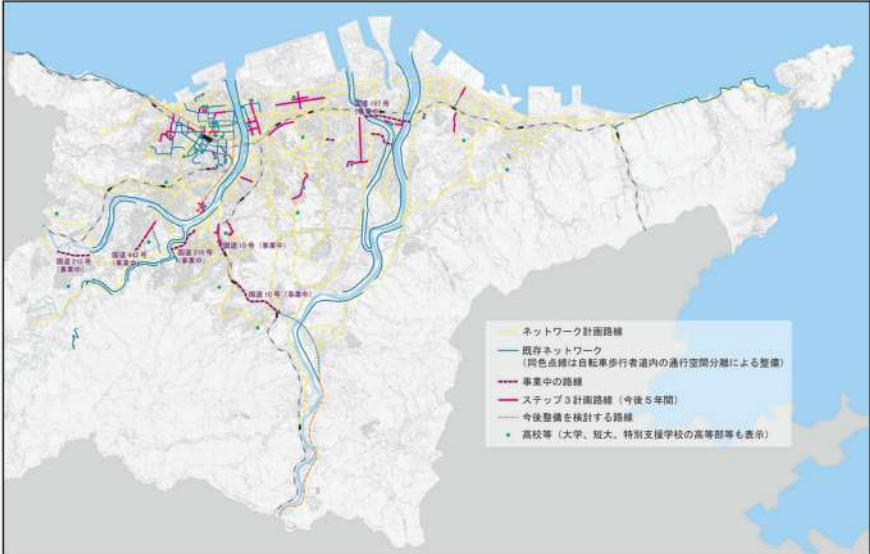


図 - 整備の傾向把握（鶴崎駅周辺地区）

(7) 大分市バリアフリー基本構想【鶴崎駅周辺地区】

策定年月	2025(令和7)年4月
計画期間	2025(令和7)年度～2029(令和11)年度
基本理念	だれもが自由にどこへでも豊かさあふれる大分市
基本方針	1 バリアフリー・ユニバーサルデザインを基本としたまちづくりの市全域への拡大 2 誰もが円滑に移動できるバリアフリー環境の持続的な形成と強化 3 心のバリアフリーの推進と強化 4 市民・事業者・行政の協働による住民参加の取組 5 継続的なバリアフリー化の進行管理を検証 6 計画立案から周知へ、バリアフリーの普及・啓発活動の推進
重点整備地区の区域 (生活関連施設・生活関連経路) について	  ■生活関連施設 ■生活関連経路
重点整備地区における バリアフリーに関する 取組方針	○公共交通機関について ・一般参加者による重みづけの結果が34%となっており、最も高い結果となっています。 ・鶴崎駅に整備された多機能トイレやエレベーターは一定の評価があるものの、高齢者や障がいのある人などにとって移動手段である公共交通については、JR やバス、タクシーなどの各種交通機関の連携により移動環境を確保など、バリアフリー化が必要です。 ・また、音声案内や掲示板の設置などの案内の充実により、はじめての利用者にも分かりやすい整備が求められています。 ○道路について ・一般参加者による重みづけの結果が26%となっており、二番目に高い結果となっています。行政参加者も含めた全体の集計結果では、34%と最も高くなっています。 ・鶴崎駅周辺地区では、国道197号の拡幅事業や、鶴崎駅周辺整備基本構想に基づくまちづくりの展開などとあわせてバリアフリー化を推進する必要があります。 ・まち歩き点検を行った市道中鶴崎1号線をはじめ、生活関連経路には歩道がない経路が多いため、安全な通行空間を確保が求められています。 ○公園について ・鶴崎市民行政センター周辺整備により、鶴崎公園の整備が進んでいます。 ・鶴崎駅周辺整備基本構想に基づくまちづくりの展開などとあわせてバリアフリー化の検討が必要です。

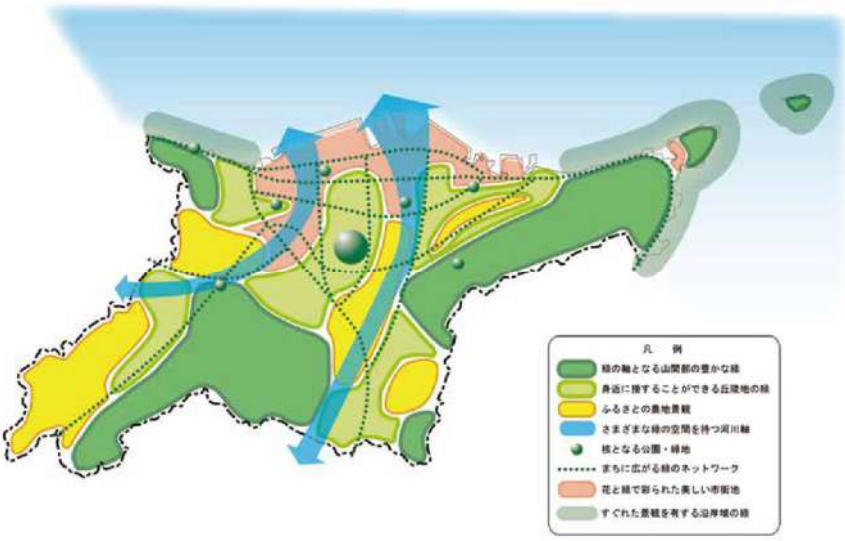
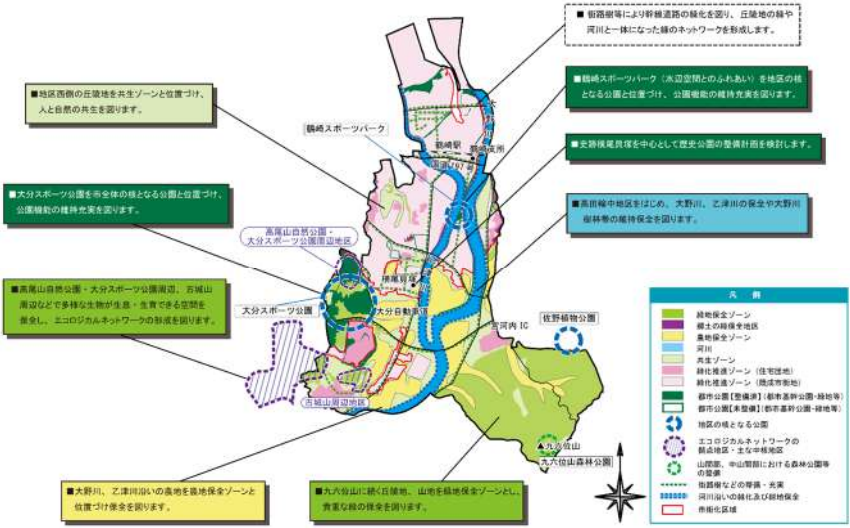
(8) 第2次大分市自転車活用推進計画

策定年月	2025(令和 7)年 3 月															
計画期間	2025(令和 7)年度～2029(令和 11)年度															
基本方針	だれもが安全・快適に自転車を利用できるまちの実現															
施策の体系	<table><tr><th>分野</th><th>目 標</th><th>施 策</th></tr><tr><td> 都市環境 </td><td>都市の自転車利用環境の向上を図ることにより、便利で快適、きれいなまちをつくります。</td><td> 1. 安全で快適な自転車通行空間づくり 2. 便利で適切に利用される駐輪環境づくり 3. 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり </td></tr><tr><td> 健康 </td><td>自転車の利用を促進することにより、市民の心と体が元気になるまちをつくります。</td><td> 4. 情報発信等による自転車利用の促進 5. サイクルスポーツの普及促進 </td></tr><tr><td> 観光 </td><td>観光振興や地域振興に自転車を活用し、にぎわいと活力あふれるまちをつくります。</td><td> 6. サイクルツーリズムの推進 </td></tr><tr><td> 思いやり <安全・安心> </td><td>思いやりの心を醸成し、自転車にみんなが正しく乗れる安全・安心なまちをつくります。</td><td> 7. 自転車の安全利用 8. 災害時の自転車活用方策の検討 </td></tr></table>	分野	目 標	施 策	都市環境	都市の自転車利用環境の向上を図ることにより、便利で快適、きれいなまちをつくります。	1. 安全で快適な自転車通行空間づくり 2. 便利で適切に利用される駐輪環境づくり 3. 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり	健康	自転車の利用を促進することにより、市民の心と体が元気になるまちをつくります。	4. 情報発信等による自転車利用の促進 5. サイクルスポーツの普及促進	観光	観光振興や地域振興に自転車を活用し、にぎわいと活力あふれるまちをつくります。	6. サイクルツーリズムの推進	思いやり <安全・安心>	思いやりの心を醸成し、自転車にみんなが正しく乗れる安全・安心なまちをつくります。	7. 自転車の安全利用 8. 災害時の自転車活用方策の検討
分野	目 標	施 策														
都市環境	都市の自転車利用環境の向上を図ることにより、便利で快適、きれいなまちをつくります。	1. 安全で快適な自転車通行空間づくり 2. 便利で適切に利用される駐輪環境づくり 3. 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり														
健康	自転車の利用を促進することにより、市民の心と体が元気になるまちをつくります。	4. 情報発信等による自転車利用の促進 5. サイクルスポーツの普及促進														
観光	観光振興や地域振興に自転車を活用し、にぎわいと活力あふれるまちをつくります。	6. サイクルツーリズムの推進														
思いやり <安全・安心>	思いやりの心を醸成し、自転車にみんなが正しく乗れる安全・安心なまちをつくります。	7. 自転車の安全利用 8. 災害時の自転車活用方策の検討														
具体的な取組	(1)「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」の推進 ■ネットワーク路線 1 安全で快適な自転車通行空間づくり 															

(9) 大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画

策定年月	2021(令和3)年3月
計画期間	2021(令和3)年度～2025(令和7)年度
基本方針	ハード施策の基本方針 「安全で快適な自転車通行空間づくり」 ソフト施策の基本方針 「安全な自転車等の普及促進」 「自転車ルール・マナーの啓発」
施策の体系	■ハード施策とソフト施策の基本的な考え方 ハード施策の基本的な考え方 ＜ネットワークの早期実現＞ ○新規整備を行う道路については、自転車通行空間整備の検討を行う。 既存道路への自転車ネットワーク整備は課題が多く、時間がかかるのはやむを得ないが、新規整備を行う道路において自転車通行空間の確保を積極的に推進することで、自転車ネットワークの早期実現を目指す。 ＜整備形態の選定＞ ○自転車は車道の左側を通行するという原則に沿った自転車通行空間の整備を行う。 車両である自転車は車道の左側を走るという原則に沿った、自転車道、自転車通行帯、車道混在の3つの整備形態を基本として自転車通行空間の整備を推進する。やむを得ず自転車歩行者道内での歩行者と自転車の分離を行う場合は、自転車ネットワークの暫定的な整備形態と位置付ける。 ソフト施策の基本的な考え方 ＜ルール・マナーの実践＞ ○自転車は車道の左側を通行するという原則に沿った道路利用を促す。 自転車通行空間を整備するだけでは、すべての人が正しく利用するとは限らず、逆走などが発生して危険な場合があることから、様々なソフト施策の推進により、車両である自転車は車道の左側を走るという原則や歩道走行時のルール等を市民に広く認知させるとともに、実践につなげることを目指す。 ＜お互いに配慮する市民意識（思いやり）の醸成＞ ○すべての道路利用者がお互いに配慮する意識づくりを目指す。 自転車通行空間が未整備の道路においても、歩行者、自転車、自動車のすべての道路空間利用者が自転車のルール・マナーについて理解し、お互いに配慮する市民意識（思いやり）を持つことを目指す。
ネットワーク計画	■ネットワーク計画図 ネットワーク計画路線 既存ネットワーク (同色点線は自転車歩行者道内の通行空間分離による整備) 事業中の路線 ステップ3計画路線（今後5年間） 今後整備を検討する路線 ● 高校等（大学、短大、特別支援学校の高等部等も表示）

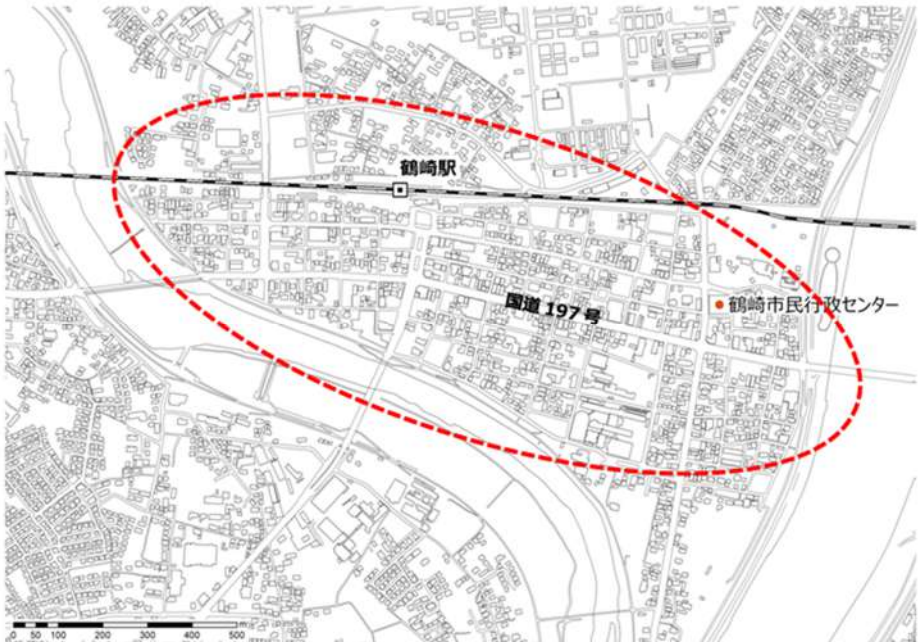
(10) 大分市緑の基本計画

策定年月	2019(平成 31)年 3 月
目標年次	2038(令和 20)年度
基本理念	1 大分らしさを活かした緑づくり 2 人と自然が共生する地域づくり 3 環境にやさしいまちづくり 4 ゆとりとうるおいのある生活空間づくり 5 安全・安心のまちづくり 6 市民参加の緑づくり
緑の将来像	■緑の将来像図  凡 例 - 緑の軸となる山間部の豊かな緑 - 身近に接することができる近郊地の緑 - ふるさとの景観を継ぐ - さまざまな緑の空間を持つ河川緑 - 核となる公園・緑地 - まちに広がる緑のネットワーク - 花と緑で彩られた美しい市街地 - すぐれた景観を有する沿岸部の緑
地区別の緑の配置方針	■鶴崎地区  凡 例 - 緑地保全ゾーン - 緑地の緑化ゾーン - 景観保全ゾーン - 河川 - 共生ゾーン - 緑化推進ゾーン(住宅団地) - 緑化推進ゾーン(商業・工業) - 都市公園(整備済) (都市基幹公園・緑地等) - 都市公園(未整備) (都市基幹公園・緑地等) - 地域の緑となる公園 - エコロジカルネットワークの拠点地区・主要な緑地 - 山間部、中山間部における森林公園等の整備 - 河川沿いの緑化及び緑地保全 - 市街地緑化 鶴崎地区は、緑化推進ゾーン(既成市街地)に該当している。 ※緑化推進ゾーンとは、「既成市街地や住宅団地において、市民、企業、行政が協力しながら、地区の個性を活かしたまちの緑化を進めていくゾーンです。」

(11) 鶴崎地域まちづくりビジョン

策定年月	2018(平成 30)年 7 月		
鶴崎地域の将来像	みんなが住みたくなる 伝統と文化のある街		
市長への提言	提言1 鶴崎の伝統・文化を「まもり」「つなげる」「いかす」 提言2 豊かな川の恵みをみつめなおす 提言3 鶴崎駅や鶴崎市民行政センター周辺を核とした街のにぎわいづくり 提言4 将来住みたくなる街づくりに向けた取組を推進		
提言に基づく提案事業 (本地区に関わる 提言を抜粋)	■将来像の実現に向けた取組(事業案)一覧		
	提言	事業名	概要
	1	豊かな歴史と伝統文化の継承	・「鶴崎踊」「三佐の山車」「けんか祭り」などの伝統や文化を継承する ・伝統文化継承の拠点となる鶴崎公民館を整備する ・地域の子どもが伝統文化とふれあう取組を行う
		史実の顕彰による観光連携の強化	・歴史を活かした観光交流の推進を行う(鶴崎にゆかりのある偉人と関係する地域との観光協定など)新たな観光施設を整備する
		地域イベントの拡大事業	・外部から新たに地域イベントをプロデュースできる方を招いて地域イベント(お祭りなど)を活性化させる
		鶴崎地域の農業の振興	・地域の名産品であるニラ、水耕セリ、ミツバ、大葉の生産振興につなげる
	2	大野川、乙津川の河川敷を利用したスポーツ施設整備とマラソン大会の実施	・スポーツで鶴崎を盛り上げ、地域の活性化へつなげる(乙津川の河川敷沿いにマラソンコースを作りアスリートの方に利用してもらう、大野川でボート競技の練習ができるようにする、一流選手と地域住民との交流を行うなど)
		川を活かしたまちづくり事業	・豊かな川がもたらす水の恩恵を子どもたちの郷土愛をはぐくむ教育へと生かす(大野川の歴史を継承する資料館の整備など) ・大野川沿いの幹線道路を整備する(戸次→高田→鶴崎) ・川がもたらす資源を守り、育んで有効活用する
		防災と豊かな川を活かした街づくり	・水辺の楽校を活用し、学習施設と避難施設を兼ねた防災複合施設を整備する

(12) 鶴崎駅周辺整備基本構想

策定年月	2023(令和 5)年 3 月
鶴崎駅周辺地区の将来像	伝統と文化を感じる 多世代のための暮らしの拠点
基本構想の目的 及び対象区域	「鶴崎駅周辺整備基本構想」は、市民や利用者のニーズに的確に対応し、本地区の拠点整備の方向性や方針等を市民、行政、まちづくりの専門家等で共有し、市民が主役となる都市づくりを官民協働で整備の推進を図っていくことを目的として策定するものです。 
課題	【JR 鶴崎駅周辺に関する課題】 課題①：交通結節機能の改善 課題②：駅周辺の環境改善 [鶴崎支所周辺に関する課題] 課題①：鶴崎支所周辺の環境改善 [交通ネットワークに関する課題] 課題①：自動車の渋滞緩和 課題②：自転車の利用環境の改善 [歴史文化・自然環境に関する課題] 課題①：現状のニーズにあった公園施設の更新 課題②：乙津川や大野川等の河川敷の有効活用 課題③：鶴崎地区の歴史文化資源の有効活用 課題④：歴史文化資源や街区公園等をつなぐ回遊環境の充実 [防災まちづくりに関する課題] 洪水・津波等の災害への対応

方針実現に向けた 取組	【鶴崎駅周辺全域（共通）】 ・エリアの価値が維持向上するエリアマネジメントが必要です。 ・防災・減災に向けた継続的な取り組みが必要です。 【鶴崎駅前広場】 ・自家用車、バス、タクシー、自転車等の交通を安全かつ円滑にするとともに、日常の憩いやイベント等への活用を視野に入れた再整備を検討します。 【県道鶴崎停車場線】 ・駅前広場との一体的な利活用に向けた連携へ取り組みます。 【鶴崎市民行政センター周辺】 ・鶴崎公民館、鶴崎公園の再整備により、「行政と教育・文化・福祉の拠点施設」としてのリニューアルや修景整備を推進します。 ・周辺施設への回遊性の向上を図ります。 【市道北鶴崎3号線】 ・鶴崎コミュニティ軸として歩行者と自動車が安全で快適に往来できる道路空間の形成に取り組みます。 【市道中鶴崎1号線】 ・鶴崎コミュニティ軸として、安全で居心地の良い道路空間となるよう修景・美装化を図ります。 【国道197号】 ・国道197号鶴崎拡幅事業の推進をはたらきかけます。 ・国道197号の拡幅に伴った市街地形成について、民間事業者や県と連携した手法を検討します。 【市道鶴崎・三佐線（（都）寺司三佐線）】 ・JR日豊本線で分断されている市街地南北間の交通動線を円滑にするために、道路のアンダーパス化に向けた取組を推進します。 【県道鶴崎大南線（別保橋）】 ・ピーク時間における渋滞の緩和に向けた検討を行います。 【回遊ネットワーク】 ・神社、毛利空桑記念館など地域の歴史文化資源や公園緑地をネットワークする歩行者動線の形成を図ります。 ・ネットワーク上の河川空間の活用を検討します。 【街区公園】 ・地区内の複数の街区公園について、周辺環境や利用者特性に応じた機能の再編に取り組みます。
-------------------------------	---

		取組内容	取組時期		
			短期	中期	長期
各取組の実施時期 のイメージ	鶴崎駅周辺全域(共通)	鶴崎駅周辺全域	エリアマネジメント、 防災・減災に向けた取り組み		
	鶴崎駅前拠点	鶴崎駅前広場	JR 鶴崎駅駅前広場		
		県道鶴崎停車場線 ((都) 鶴崎駅前松岡線)			
	鶴崎コミュニティ拠点	鶴崎市民行政センター周辺	鶴崎市民行政センター、 鶴崎公民館、鶴崎公園		
	鶴崎コミュニティ軸	市道北鶴崎3号線	市道北鶴崎3号線 ((都) 船頭町線)		
		市道中鶴崎1号線	市道中鶴崎1号線		
	広域連携軸	国道197号	国道197号沿線		
	地域連携軸	市道鶴崎・三佐線 ((都) 寺司三佐線)	市道鶴崎三佐線 ((都) 寺司三佐線)		
		県道鶴崎大南線 (別保橋)	県道鶴崎大南線 ((都) 鶴崎駅前松岡線)		
	鶴崎歴史と みどりのネットワーク	回遊ネットワーク (空桑思索の道) 乙津川右岸緑地 など			
		街区公園	羽佐間児童公園、新堀公園、東 浦公園、岩丸児童公園、 伴出公園		

2. ワークショップ

本計画の策定にあたり、駅前広場に対する課題やニーズを把握するために、2023（令和5）年12月から2024（令和6）年3月にかけて、地域住民や駅利用者、高校生など幅広い年齢の方が参加するワークショップを行い、多くのご意見をいただきました。

(1) 第1回ワークショップニュース

鶴崎駅前広場に関するワークショップ ワークショップ通信①

【お問い合わせ】
大分市役所 都市計画部
まちなみ企画課

所在地: 〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
メール: matikikaku@city.oita.oita.jp

電話: 097-574-6628
担当: 信原、和間

第1回 テーマ「まちと駅との関係をつかもう！」

日時: 令和5年12月16日14時～ 会場: 鶴崎公民館2階 集会室 参加人数: 23名

ワークショップが
はじまりました！

はじめに

大分市まちなみ企画課では、鶴崎駅周辺整備基本構想（令和5年3月策定）に基づき、鶴崎駅前広場基本計画に向けた取組みのひとつとして「鶴崎駅前広場に関するワークショップ」を行っています。

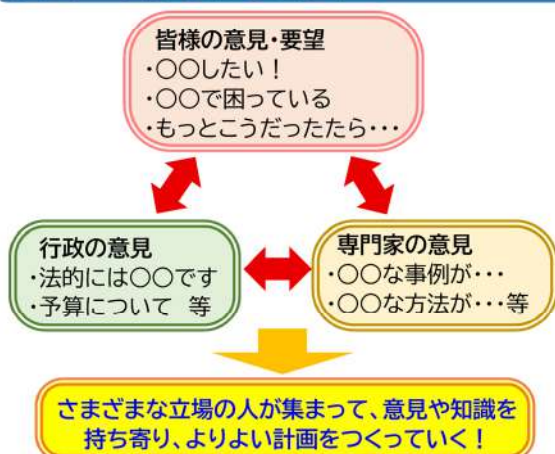
第1回ワークショップでは、「まちと駅との関係をつかもう！」と題し、「鶴崎駅周辺整備基本構想」に示された課題や方針を確認した後、まちの魅力的なところや改善したいところ、いろいろな視点からの問題点などを実際に現地で確認するために、地域の方や駅周辺を利用する方々とまち歩きを行いました。

当日は23名の方々に参加いただき、4グループに分かれてまち歩きを行いました。意見や感想を出し合った後、グループごとにまち歩きマップを作成し、現況の把握や課題抽出を行いました！

ワークショップとは？

会議の進め方の一つの方法です。立場の違う人が集まり、共同作業を通して、それぞれの意見や経験を出し合いながら、合意形成を行っていきます。

なぜワークショップなのか？



～第1回ワークショップのスケジュール～

- 14:00～ 開会
- 14:05～ はじめに
 - ・ワークショップの目的やルール等
 - ・鶴崎駅周辺整備基本構想について
- 14:20～ **グループワーク①「まち歩き」**
 - ・自己紹介
 - ・現地を歩く、写真を撮る
- 15:25～ **グループワーク②「マップの整理」**
 - ・まち歩きの現状や課題をマップに整理する
 - ・各グループ発表
- 16:10～ まとめ
- 16:15～ 閉会

グループワーク①「まち歩き」

カメラ撮影の担当を決めた後、会場の鶴崎公民館から鶴崎駅前へ向かいました。寒い中でしたが、まちの現状と課題について、たくさんのポイントをカメラに撮ったり手持ちのマップに書き留めたりしました。

■まち歩きの様子



グループワーク②「マップの整理」

まちを歩いて、「鶴崎駅前広場」「県道鶴崎停車場線」「駅の周辺」の現況について、「良いと思うところ」「問題だと思うところ」「その他」をふせん紙に書き出し、マップの整理を行いました！



現況ライン、
都市計画決定ライン
の説明を行いました。

▼現況写真



鶴崎駅前広場

【良いと思うところ】

- ・イチヨウがシンボリックで雰囲気が良い
- ・緑がある
- ・トイレは利用者が多いためリニューアルすると良い
- ・エレベーターが便利で良い
- ・案内板は祭り・スポットなど地域の特徴がわかって良い(今後はサインージ化も良い)
- ・鶴崎の歴史や記念として作られた銅像等が長い間残っている
- ・銅像を残したい
- ・公衆電話の利用者多い
- ・歩道のデザインがきれい

【その他】

〈銅像付近〉

- ・銅像付近の再整備(広場として活用等)
- ・両側の歩道は1つ減らす

〈駅北との連携〉

- ・駅北にロータリーをつくり、企業巡回バスがあったらよいと思う
- ・南北通路がほしい

〈駐車場〉

- ・駐車場・駐輪場をまとめて再整備

〈自転車通行空間〉

- ・自転車と歩道の分離
- ・駐輪場と歩道に屋根がほしい

〈その他〉

- ・ステージがほしい
- ・駅舎を道の駅にして、ロータリーを全て駐車場にしてイベント広場と連動させる
- ・バスロータリーがあったらよいと思う
- ・近代的な道の駅としてリニューアルし、様々な店舗の提案を導入し、防災も強化
- ・立体駐車場とテナント等の一体型の建物を建設し、駅北と連絡させるとよい
- ・人が集まるお店がほしい(ネコカフェ等)
- ・屋根付きのベンチがあってもよいと思う

【問題だと思うところ】

〈トイレ〉

- ・多目的トイレのすりガラスの窓はプライバシー的に良くない
- ・多目的トイレの入口が狭い
- ・おむつ替えにも対応できる等、現代のニーズに合うよう再整備する
- ・トイレにドアがほしい
- ・トイレの外観が汚いので使いづらい
- ・男子トイレがまる見えで汚い
- ・トイレのドアのたてつけが悪く中に入りにくい

〈駅舎〉

- ・補修した方がよい
- ・タクシー待機所の再整備
- ・入口の坂は車いすにはきつい
- ・IC改札が邪魔に感じる
- ・階段が分かりにくい

〈歩道〉

- ・歩道が劣化している(タイル割れ等)
- ・自販機前に傾斜がある
- ・電柱で歩道が狭くなっている所がある
- ・歩道に屋根(シェルター)が欲しい

〈銅像付近〉

- ・木で時計が見えない 目立たない
- ・モニュメントが草で隠れていて分かりづらい
- ・モニュメントは公園の中に設置されてこそ調和がとれる。像が活かされていない。

〈駐輪場〉

- ・駐輪台数が不足している
- ・駐輪場の奥は不便(駐輪されていない)
- ・駐輪マナーが悪い
- ・駐輪場名の看板が自転車の通行に邪魔
- ・出入口の向きが悪い
- ・入りづらい、狭い、暗い、分かりにくい

〈駐輪場〉

- ・細長い形状のため、使用されていない箇所がある
- ・防犯が心配

〈駐車場〉

- ・駐車場の場所としてはもったいない
- ・駐輪場が狭い

〈ロータリー〉

- ・タクシー停車中は車が通りにくい
- ・駐車場・駐輪場を移して車道幅員を広げる

〈案内サイン〉

- ・老朽化しており、情報も分かりにくい

〈公衆電話〉

- ・駅舎周辺に移動した方がよい

〈信号〉

- ・信号をいちいち渡らないといけないからめんどくさい
- ・駅前の信号の変わるタイミングが分かりづらい

〈飲食店〉

- ・駅の近くに飲食店が少ない
- ・駅カフェの場所をもっと便利なものにする

〈その他〉

- ・ゴミが多く汚い
- ・イチヨウの葉の掃除が大変そう
- ・ギンナンが歩道に落ちて、臭う
- ・同じホテルが駅周辺にある
- ・屋根付きのベンチがあってもよいと思う

～当日の様子～

それぞれの意見を
ふせん紙に書き、大
きな模造紙に貼っ
ていきました！



県道鶴崎停車場線

【良いと思うところ】

〈車道と歩道〉

- ・色々なイベントが出来そう
- ・車道と歩道が広い
- 〈鶴崎駅入口交差点〉
- ・柱の先端に鶴崎踊りの飾り有
- ・横断歩道の信号に音声案内がある

〈緑〉

- ・中央帯のクスノキがおしゃれ
- ・大きなグリーンベルトと緑は豊かな感じがしてよい
- ・緑が良い！（ケヤキがきれい）
- ・ホルトノキとケヤキが混じってほしい
- ・やっぱり緑や植栽が豊富な方がよい

【その他】

〈イベント広場〉

- ・鶴崎おどりや二十三夜祭などをはじめ、多目的にイベントを開催できるようにする
- ・防災用のベンチ設置（かまどベンチ）
- ・授乳、おむつ替えのスペース

〈その他〉

- ・カラオケほしい
- ・コンビニなどお店がほしい
- ・音の鳴る信号と鳴らない信号がある
- ・鶴崎駅を高架化して駐車場駐輪場を高架下に設ける

【問題だと思うところ】

〈周辺の店舗や敷地〉

- ・若者が入りやすい店や娯楽施設が少ない
- ・活気のある店が少ない
- ・店に入りにくい
- ・空き地が多い

〈交通〉

- ・バスとJRのアクセスが悪い
- ・歩道が狭すぎる（車が来たら危ない）
- ・信号が長いので老人の方が大変そう

〈緑〉

- ・ホルトノキなどの植物が枯れたり、雰囲気が悪い
- ・中央帯のクスノキはうっそうとして暗く感じる
- ・鳥のフン害で大変

〈バリアフリー等〉

- ・横断歩道に点字ブロックがあっても歩道でとざれている箇所がある
- ・点字ブロックがない箇所がある
- ・段差が多い

〈ベンチ〉

- ・ベンチが汚い
- ・座りたくなるようなベンチがほしい

〈その他〉

- ・マンホールが飛び出ているところがある
- ・街灯が少ない
- ・何かわからない（歩道のモニュメント）
- ・石の車止めのどっぴりが邪魔に感じる

駅の周辺

【良いと思うところ】

- ・飲食店（カフェ・居酒屋）がたくさんある

【その他】

- ・老人ホームが建設中
- ・行ってみたいお店が発見できた
- ・街に人が集まるという感じが無く、駅も淋しく感じる

【問題だと思うところ】

〈施設・設備等〉

- ・子ども 110 番の家等、緊急時に逃げ込める場所が少ない
- ・街灯が少ない
- ・標識が目立たない
- ・駐車場がない
- ・学生が立ち寄れる施設が少ない

〈市民センター付近〉

- ・段差が多い

〈駅北との関係〉

- ・駅北側の方は遠回りになる

〈北鶴崎 3 号線、中鶴崎 1 号線〉

- ・歩道が問題（歩道が無い、狭い、歩きづらい等）
- ・暗い場所がある
- ・自転車が通りにくい
- ・歩道の白線が消えかかっているところがある
- ・電柱が邪魔で通りにくい

〈中鶴崎 1 号線のトイレ付近〉

- ・トイレが汚く使いづらい
- ・自転車が入りづらく停める場所もない
- ・木の实が少しきたくない

〈西鶴崎 9 号線〉

- ・狭い

〈商店街〉

- ・お店は多いけど入りづらい
- ・お店の駐車場がない
- ・飲食店に看板が無い
- ・看板が目立たない

〈その他〉

- ・点字ブロックは駅周辺バス乗り場に活用されてる？
- ・全体的に車いすの方は危険だと思う



ご参加いただき
ありがとう
ございました

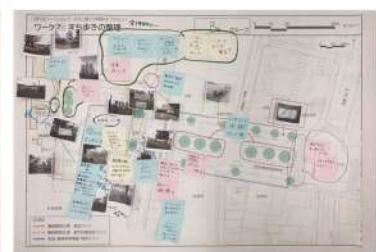
グループワーク②「成果発表」

最後に、それぞれ出し合った意見をまとめ、グループごとに発表していただきました！課題や共通性、新たな発見など多くの意見が挙げられました！

チームのぶはら グループ



Be グループ



わっしょい グループ



鶴崎ラブ♡ グループ



おわりに

様々な視点から意見をいただき、各施設の良いと思うところ、問題だと思うところ、子育てや防犯、安全安心、賑わいの観点から多くの共通性が見られました！ **たくさんのご意見ありがとうございました！**

鶴崎駅前広場に関するワークショップ 全3回のスケジュールは・・・

第1回



「町と駅の関係をつかもう！」

第2回(次回)

「駅前広場の施設を考えよう！」

第3回

「駅前広場のレイアウトを考えよう！」

次回の内容は・・・鶴崎地区の歴史を学び、第1回ワークショップの意見を踏まえ、鶴崎駅前広場で実際にしたいことを考え、整備に向けた「テーマ」を決める。そして、いよいよ駅前広場に必要機能や施設を考えていきます！

(2) 第2回ワークショップニュース



鶴崎駅前広場に関するワークショップ ワークショップ通信②

【お問合わせ】
大分市役所 都市計画部 所在地: 〒870-8504 大分市荷揚町 2 番 31 号 電話: 097-574-6628
まちなみ企画課 メール: matikikaku@city.oita.oita.jp 担当: 信原、和間



第2回 テーマ「駅前広場の施設を考えよう！」

日時: 令和 6 年 1 月 20 日 14 時～ 会場: 鶴崎公民館2階 集会室 参加人数: 21 名

はじめに

より良いまちをつくる
ため、ワークショップに
取り組んでいます！

大分市まちなみ企画課では、鶴崎駅周辺整備基本構想(令和5年3月策定)に基づき、鶴崎駅前広場基本計画に向けた取組みのひとつとして「鶴崎駅前広場に関するワークショップ」を行っています。

令和5年12月16日(土)に開催しました第1回では、まち歩きを行い、駅前広場の現状や課題について様々な意見を頂きました。

今回(第2回)は、「駅前広場の施設を考えよう！」と題し、鶴崎の歴史・文化を学んだ後、グループごとに「駅前広場をどんな雰囲気にしたいか」やそのために必要なこと、駅前広場の骨格(ゾーニング)などについて検討を行いました！当日は21名の方々に参加いただき、4グループに分かれて検討を行いました。

ワークショップとは？

会議の進め方の一つの方法です。

立場の違う人が集まり、共同作業を通して、それぞれの意見や経験を出し合いながら、合意形成を行っていきます。



～第2回ワークショップのスケジュール～

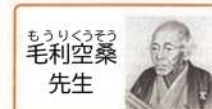
- 14:00～ 開会
- 14:05～ はじめに
 - ・ワークショップの目的やルール等
 - ・前回の振り返り
- 14:15～ **グループワーク①「鶴崎の歴史・文化を知る」**
講師: NPO 法人 鶴崎文化研究会
藤澤 政則 氏
- 14:40～ **グループワーク②「雰囲気(顔)づくり」**
・鶴崎地区の玄関口としての雰囲気づくり
・発表
- 15:20～ **グループワーク③「駅前広場の骨格を考えよう」**
・したいことや必要施設、ゾーニング等
・発表
- 15:50～ まとめ、閉会

グループワーク①「鶴崎の歴史・文化を知る」

講師として NPO 法人 鶴崎文化研究会の藤澤政則氏をお迎えし、ご講演いただきました。

限られた時間ではありましたが、鶴崎にまつわる興味深いお話をしていただきました。

鶴崎の三賢人



■講演の主な内容

- 鶴崎地区は1600年以前、大友家の所領だった。
有名な吉岡妙林は吉岡宗欽の長男の妻で、島津軍と戦って鶴崎を守った人と言われている。
- 鶴崎踊りは、大友宗麟の家老である戸次道雪(別名:立花道雪、立花宗茂の父)が京都から白拍子(しらびょうし、踊り子)を呼んで躍らせたのが最初だと言われ、原形は「左衛門」である。('猿丸太夫'はお伊勢参りと関連している)
- 江戸時代の中で加藤清正の時代(32年間)にできた商人、船頭、鉄砲のまち等の区割りが鶴崎の原形であり、法心寺の二十三夜のお祭りもこの頃に原点がある。
- 江戸末期頃、熊本藩は佐幕(幕府側)だったが鶴崎には勤皇の志士がおり、毛利空桑は長州藩や中川藩と交流していた。高田源兵衛(別名:河上彦斎)は「るろうに剣心」(マンガ)の主人公のモデルで、毛利空桑と有終館(兵学校、鶴崎橋付近に石碑あり)をつくった。
- 異なる価値観を受容する鶴崎の地域性が、様々な歴史の中で培われたと考えられる。

人名で検索すると、
いろんな物語が見つかって
面白いです！

グループワーク②「雰田気(顔)づくり」

駅前広場やその周辺でしたいこと、歴史を活かす方策、歩道を魅力的にする方策、沿道や駅周辺に望むこと、開催を希望するイベント等について、ふせん紙に書き出し整理しました！



▼現況写真



■意見の内容

【駅前広場でしたいこと 等】

- 【A グループ】
 - ・ゆっくり過ごせる飲食できる場所(ご飯を食べたい)
 - ・電車を利用しなくてもほっこりできるような場所づくり
- 【B グループ】
 - ・勉強したい(自習室とカフェを合体したような)
 - ・待ち合わせがゆっくりできる場所(ベンチやカフェ)
 - ・電車の待ち時間に立ち寄れるところ
 - ・自家用車を駐車場に置いて電車で遠出をしたい
 - ・人が集まれる場所にしたい
- 【C グループ】
 - ・送迎のための駐車場がほしい
 - ・友達と写真を撮りたい
 - ・鶴崎駅前で待ち合わせしたい
 - ・イルミネーション
- 【D グループ】
 - ・イルミネーション
 - ・ゆっくりくつろげる場所

【そのために必要なこと 等】

- 【A グループ】
 - ・ロータリー周辺に座りやすいベンチ
 - ・電車の待ち時間に過ごせるオープンスペース
- 【B グループ】
 - ・飲食店マップ
 - ・歴史スタンプラリー
 - ・食べ歩きをできる区間を作る
 - ・安価なワンデー駐車場
 - ・朝夕、送迎車が多い。混雑を改善したい。
 - ・勉強できるカフェ施設を作る
 - ・人と待ち合わせができる広場
- 【C グループ】
 - ・イルミネーション
 - ・きれいなベンチ
- 【D グループ】
 - ・駐車場を広げる
 - ・ベンチ、屋根

【歴史を活かす方策 等】

- 【A グループ】
 - ・〈資料館〉鶴崎歴史ミュージアム 鶴崎の文化
 - ・歴史等がわかる場所(案内所)
 - ・鶴崎おどり 銅像を活かしたい
 - ・銅像周辺を待ち合わせ場所にしたい
- 【B グループ】
 - ・今あるモニュメントは残す、新しいものは要らない、駅で歴史の説明は不要
 - ・駅前で加藤清正や毛利空桑を知れるようなイベントや施設を作る
 - ・観光案内所
- 【C グループ】
 - ・歴史を伝えるための看板を多く配置する

【そのために必要なこと 等】

- 【A グループ】
 - ・駐輪場の再配置
 - ・銅像の再配置
- 【B グループ】
 - ・駅舎が2階建て以上になった時、商工会・公民館 イベントスペース・歴史資料スペースをまとめる。
 - ・現在残っている鶴崎の歴史を紹介しているものをきれいにする。
 - ・鶴崎偉人ステッカー、キーホルダーなどのグッズを作る。
- 【C グループ】
 - ・看板
 - ・顔出し看板などの写真が映えるスポット

交通量調査結果の報告

令和5年11月21日(火)の朝の通勤・通学の時間帯に交通量調査を行いました。最も交通量が多かった7:10~8:10のピーク1時間の交通状況について説明を行いました。

- 鶴崎駅の出入りは927人。
- 自家用車の送迎の合計は134人。
- 駅前広場に流入する車や流出する車で非常に混雑している状況である。
- 駐輪場の位置の問題があり、自転車の通行で危険な状況も見られる。



危険



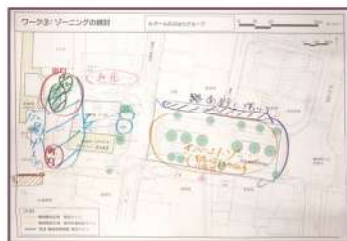
ワークショップの様子



グループワーク③「駅前広場の骨格を考えよう」(ゾーニング)

グループワーク②でまとめたことについて、具体的にどのあたりで実現したいか等を検討しました。グループ毎に個性や様々なアイデアがあり、色々な創造がふくらむ楽しい時間でした！

チームのぶはら グループ (Aグループ)



- ・駅前のスペースを大きな広場ゾーンにする。
- ・銅像やモニュメントを広場ゾーンに移動させて街灯や花壇を置く。
- ・駅の西側あたりに北側に抜ける通路を作る。
- ・オレンジの部分(県道鶴崎停車場線)を臨時のイベントゾーンとし、鶴崎地区の祭り等を行う。
- ・駅前通りは、路面店やお店が並び、にぎわいを創出する。

等の意見が出ました。

Be グループ (Bグループ)



- ・駅舎周辺・西側(水色の部分)は、イチョウを撤去または減らし、駐輪場や駐車場、歩道空間を広くする。
- ・勉強スペース等の学生に優しい環境をつくる。
- ・ロータリーから R197 交差点の空間を一体的に考えたゾーニングをする。
- ・東側は商店ゾーンにする。

等の意見が出ました。

わっしょい グループ (Cグループ)



- ・クスノキ等の既存樹を活用して景観をよりよく整備し、写真を撮りたい雰囲気を出す。
- ・イチョウの木にイルミネーションする。
- ・駅前にカフェ等の軽食店があると良い。
- ・駅の西側は駐車場、駅前はイベントスペースを配置できるように都市計画決定ライン外で検討する。
- ・歩道の拡幅をする。

等の意見が出ました。

鶴崎ラブ♡ グループ (Dグループ)



- ・イベントスペースを中心とした駅前広場とする。現在の駐車場付近を大きなイベントスペースとする。
- ・ロータリーを含めて屋根で覆い、交通渋滞の緩和ができるようなスペースを確保する。
- ・利用されていない駐輪場部については、トイレを移動して駐輪場を利用しやすくする。

等の意見が出ました。

おわりに

鶴崎の歴史・文化や、将来この場所で何をしたいか等を踏まえつつ、それぞれの場所の活用方法やゾーニング案についての方向性がいくつか示されました！ **たくさんのご意見やアイデア、本当にありがとうございました！**

鶴崎駅前広場に関するワークショップ 全3回のスケジュールは・・・

第1回



「町と駅の関係をつかもう！」

第2回



「駅前広場の施設を考えよう！」

いよいよ
最終回！

第3回(次回)

「駅前広場のレイアウトを考えよう！」

次回の内容は・・・駅前広場の形について複数の案を比較して、その特徴を考えながら、グループ毎に選んだ案を発展させていきます！いよいよ最終回の大詰めとなりますので、是非、思いをすべてぶつけてください！

(3) 第3回ワークショップニュース



鶴崎駅前広場に関するワークショップ

ワークショップ通信③

【お問い合わせ】
大分市役所 都市計画部
まちなみ企画課

所在地: 〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
メール: matikikaku@city.oita.oita.jp

電話: 097-574-6628
担当: 信原、和間



第3回 テーマ「駅前広場のレイアウトを考えよう！」

日時: 令和6年3月2日(土)14時～ 会場: 鶴崎公民館2階 集会室 参加人数: 22名

より良いまちをつくる
ため、ワークショップに
取り組んでいます！

はじめに

大分市まちなみ企画課では、鶴崎駅周辺整備基本構想(令和5年3月策定)に基づき、鶴崎駅前広場基本計画に向けた取組みのひとつとして「鶴崎駅前広場に関するワークショップ」を行っています。

第1回(令和5年12月)では、まち歩きや駅前広場の現状と課題の抽出、第2回(令和6年1月)では鶴崎の歴史・文化の学習、駅前広場の雰囲気づくり、駅前広場の骨格(ゾーニング)等について検討しました。

今回で最終回となる第3回は、「駅前広場のレイアウトを考えよう！」と題し、これまでの意見を踏まえた3つの案へ意見を出し、導入する施設について考えながら、駅前広場の形状や施設をレイアウトしました。

当日は22名の方々に参加いただき、これまでと同様に4グループに分かれて検討を行いました。

第3回ワークショップ参加者集合写真

合計3回実施した「鶴崎駅前広場に関するワークショップ」では、立場の違う方々が集まり、共同作業を通して、アイデアをまとめていきました。



～第3回ワークショップのスケジュール～

- 14:00～ 開会
- 14:10～ はじめに
 - ・ワークショップの目的やルール等
 - ・前回の振り返り
- 14:30～ **グループワーク①「イメージ図へ意見を出そう！」**
 - ・3つの案(イメージ図)の検討とベース案選定
 - ・発表
- 15:00～ **グループワーク②「導入する施設について考えよう！」**
 - ・前回意見を踏まえた施設リストの確認
 - ・施設や機能の分類
- 15:15～ **グループワーク③「駅前広場のレイアウトを考えよう」**
 - ・歩道形状の検討、駅前広場施設のレイアウト
 - ・発表
- 16:00～ まとめ、閉会

グループワーク①「イメージ図へ意見を出そう！」

前回の意見を踏まえて作成した3つの案(イメージ図)を検討しました。

案1:機能再配置案 …現状に近い形状の中で機能を再配置した、交通結節機能に優れた案

案2:機能折衷案 …現状より歩道空間を広く確保し、県道鶴崎停車場線と駅前広場の動線を円滑化した案

案3:広場機能重視案 …駅舎前の歩道を最大限広く確保し、イベント等に活用しやすい案
それぞれの特徴等について意見を出し合いました！

イメージ図は裏面へ



■3つの案(イメージ図)

【案1】機能再配置案	【案2】機能折衷案	【案3】広場機能重視案
		
現状を活かし、交通結節機能や広場機能を整理し再配置する案 (歩道空間:○ 広場空間:○ 交通結節機能:◎)	歩行空間を広げ、交通結節機能と広場機能を組み合わせた案 (歩道空間:◎ 広場空間:○ 交通結節機能:○)	駅舎前の広場空間を広げた、広場機能を重視した案 (歩道空間:◎ 広場空間:◎ 交通結節機能:△)

■意見の内容

【案1】機能再配置案	【案2】機能折衷案	【案3】広場機能重視案
【A グループ】 ・駐輪場をロータリーの外に整備したほうが良い(通学時間帯に危険な状態であるため) ・イベント等の利用には便利な形状と思う ・駅前広場の東西側の歩道は広くした方がよい ・イチョウは残したい ・クスノキに鳥が集まる(糞害の懸念) ・クスノキは樹形が悪い ・クスノキは緑が多いので良い ・交通に特化した案で良い 【B グループ】 ・送迎車両やタクシー待機所を駅西側に整理する ・現況と変わらないので、駅前で大型イベントは行えなさそう ・路線バスを駅舎に横付けして一般車両を減らす ・駐車場は駅前から移動してほしい(景観重視) ・朝夕の通勤通学時間帯、自転車と歩行者で歩道が混雑しそう(東側の歩道) ・交差点部等の死角になる樹木は撤去したほうが良い(事故防止のため) ・駅前ロータリーの幅と県道幅員を合わせる ・(案1～3共通)事故防止として、クスノキを撤去し、両側の歩道を広げる(県道部) 【C グループ】 ・現況とあまり変わらないのではないかな ・今よりよくなってほしい ・葉っぱが落ちない木があればいいと思う ・樹木の管理が大変そう ・ロータリーの取付道路(駅側)について案3に比べ駅前をまっすぐに抜けられる 【D グループ】 〈広場〉 ・交通結節機能は良い方がいいと思う ・バスの需要があまり感じられない ・変化がなければ何も得られない	【A グループ】 ・イチョウは残したい ・イチョウが植わっている部分の歩道を広げる(2mくらい) ・待機車両のスペースが必要 ・複雑な信号の処理を解決してほしい ・送迎車両の待機スペースが必要 ・駐車場、駐輪場を確保しつつ歩道空間も広げたい 【B グループ】 ・中央の広場に渡る横断歩道があるため、駐車、停車場としては使いづらいと思う ・中央の広場は使い勝手が悪い ・樹木は最小限に整理すると明るくなる ・樹木はシンボルのみで良いと思う ・樹木を撤去すると、歩道を歩く人の安全性が向上する(県道部) ・電線の中地化 ・県道部(197号に向かう道路)について、イベント時に歩行者天国として、道路の横断を容易にしたい(樹木を撤去した場合) 【C グループ】 ・樹木を残した方がよい(クスノキ・イチョウ) ・樹木があればイルミネーションができる ・大在駅のようにイルミネーションがあれば良い ・大きな樹木が支障となるのであれば、小さな樹木を置けないか ・直線の道は駅前をまっすぐ抜けられる ・駐輪場の歩道ができることで車側からしたら、歩行者に注意しないといけないポイントが増えて大変 ・歩道空間が広がるよう道路を広げてほしい ・緑は必要と思う 【D グループ】 〈広場〉 ・すべての機能のバランスがとれている ・駅前スペースが広い方が利用しやすい ・特に歩道に不便を感じていない(県道) ・歩道の樹木は残したほうが良い ・樹木を全てなくすのはよくないと思う 【案2】の樹木の配置が良いと思う	【A グループ】 ・日常的に使う時は便利な案 ・広場の中に駐輪場のスペースが必要 ・駐輪場は必要 ・バスや大型車両はロータリーに進入しないほうがよい(安全のため) ・クスノキは「神聖な縁起の良い木」と言われる樹木なので全部撤去しないでほしい ・シンボリックな樹木は残した方がよい 【B グループ】 ・なるべく段差や樹木をなくす ・タクシー乗場、バス停が駅舎前にあるのが理想 ・朝夕の時間帯、車道(ロータリー)が混雑するため少し不便だと思う ・大型バス等が進入できないならばロータリーにする意味が無さそう ・交通量が多い中、広場機能を重視すると交通機能が悪化してしまうので良くないと思った ・イベントは行いやすいが、イベント以外の利用者が使いづらい ・広場でイベントした際、イベント参加者や駅の利用者で混雑がおきそう ・土日はイベントとして活用し、平日は混雑しないように歩道として使用でき良い案と思う ・駐車場が少し使用しづらいと思う ・イベント重視なら【案3】が良いと思う ・道路中央の樹木はなくしてほしい ・駅舎前に屋根があればさらに良い(例:大分駅) 【C グループ】 ・バスがロータリーに入れないので不便 ・広場空間を少し狭めてバスを通行可能にしてほしい ・駐輪場の台数が確保できない ・広場が広すぎると思う ・キッチンカー、テーブルなどを置きカフェテリアがつくれそう ・カフェなどの広場空間も欲しいけれど…車の通りやすさも大切 ・一部の機能に特化しすぎると、その他の機能が悪くなる 【D グループ】 〈広場〉 ・一番集客性がある駅前でイベントが行われている方が興味を誘い、人の関心を集める ・今までの駅前とはかなり変化しワクワクする ・変化がなければ何も変わらないから ・立体駐車場等の検討を行い、駐車台数を増やす ・バスの需要がない(県道) ・樹木をなくすことで人が集まるとは思えない(樹木は必要と思う)

ワークショップの様子



グループワーク②「導入する施設について考えよう！」

前回の意見を踏まえリストアップされた施設や機能等について、「駅前広場」、「県道鶴崎停車場線」、「JR 敷地、対象エリア周辺」において、「あると良い施設・機能」、「必ず必要な施設・機能」を抽出しました。
各グループにおいて抽出された施設・機能等はさまざまですが、自家用車乗降場やベンチ、時計など共通した項目が多く見られました！

■意見の内容

駅前広場		県道鶴崎停車場線		JR 敷地、対象エリア周辺	
【あると良い施設・機能】		【あると良い施設・機能】		【あると良い施設・機能】	
【A グループ】 ・シェルター+雨除け ・バリアフリー+ユニバーサル化 ・街灯 ・歩行者用道路(事故防止) ・ベンチ ・適切な管理(景観保護) ・コンセント ・駐車場(送迎用) ・緑が欲しい ・オープンスペースが欲しい ・駐輪場の改善 ・鶴崎おどりの銅像 ・時計 ・シンボルツリー ・キッチンカー		【A グループ】 ・道路の拡張(歩行者の安全の為) ・ベンチ ・屋台 【B グループ】 ・県道を拡張して目抜き通りにする ・イベント時に歩行者天国にする ・イベント用に地中から電源が取れるといい ・駅近くの歩道拡張はイベント以外でも便利である ・季節限定になるが、イルミネーションなどの機能 【C グループ】 ・緑(樹木や花) ・街灯 ・ベンチ ・イベントができるスペース 【D グループ】 ・歩道部分に屋根(駅前付近での車の乗り降りを防ぐため) ・緑		【A グループ】 ・南北連絡通路 ・カフェ ・勉強できる場所 ・コンビニ ・ドラッグストア 【B グループ】 ・駅舎前にベンチ(たくさん) ・空き店舗にカフェなどが集まりやすい店 ・待合室を広くしてほしい ・時計(駅舎にデジタルをつける) ・話しながら勉強できる場 ・コンビニ ・完全無人化による駅舎のリニューアル 【C グループ】 ・コンビニ ・勉強施設 ・カフェ 【D グループ】 ・立体駐車場 ・広い駐輪場・駐車場 ・クレープ屋さん ・カフェ ・カラオケ	
【B グループ】 ・バス停(利用促進のため) ・バス、タクシー、送迎車が進入できるロータリー ・屋根付きの待機所(日よけ・雨よけ) ・雨天時、自家用車から降りたときに濡れるので、屋根のようなものがあつたらいいと思う ・バリアフリー対策として音のなる信号機が欲しい ・常設電源 ・時計 【C グループ】 ・点字ブロック ・何らかの聖地(恋人、勉強) ・銅像を移設し、駐輪場を拡大する(景観) ・点在している案内板を整理する ・イベントができるスペース 【D グループ】 ・歩行者動線に屋根(全体を大きく覆う) ・トイレ(改修) ・広場 ・ステージ ・ベンチ ・待ち合わせ場所として目立つような毛利空桑の像を建設(移設)する(モニュメント)		【B グループ】 ・バス停 ・トイレ(改修) ・タクシー乗り場(4台ぐらい) ・自家用車の乗降場(最低3台) ・時計 ・街灯 ・バスの乗降場 【D グループ】 ・屋根つき広場やステージ ・トイレ ・ベンチ ・シンボリックなオブジェや時計(待ち合わせの時などに利用)		【必ず必要な施設・機能】 【A グループ】 ・ベンチ ・樹木(数本) ・街灯 【B グループ】 ・イベントスペースとしてフラット化 ・まち案内図はフリーペーパーみたいにして固定しない(案内板は錆びて汚くなるから) 【C グループ】 ・イルミネーション 【D グループ】 ・歩道部分の木を残す ・植栽帯(中央部)をなくす	
				【必ず必要な施設・機能】 【A グループ】 ・南北の連絡通路 ・カフェ ・勉強出来る場 ・大分駅のような施設 ・コンビニ ・ドラッグストア 【B グループ】 ・古い看板は必ず撤去してほしい ・お弁当やパンが買えるお店(ランチ難民を救え！) 【C グループ】 ・街路樹を活かした歩道空間 ・ベンチ(街路樹の周り) ・管理しやすい樹木 ・街灯 【D グループ】 ・トイレ改修 ・広い駐輪場・駐車場	



グループワーク③「レイアウトを考えよう！」

グループワーク①で採用したベース案に、グループワーク②で抽出した施設等を配置し、レイアウトを考えました！

(A グループ)
チームのぶはら
グループ



<採用案>【広場:案2、県道:案3】



- ・全体的にバリアフリーの整備を行い、ベンチや花壇、街灯等を設置する
- ・樹木を適切に管理し明るいまちにしたい
- ・待ち合わせ場所として、鶴崎おどりの銅像や時計などを設置したい(時計設置場所:駅舎の軒)
- ・自家用車の乗降場を安全にする。駐輪場を改善する。南北の連絡通路を確保する
- ・きれいなトイレ、勉強スペース、カフェ、駅周辺にコンビニやドラッグストアが欲しい

等の意見が出ました。

(B グループ)
Be
グループ



<採用案>【広場:案2、県道:案3】



- ・エリア全体の段差をなくし、歩道を広げ、安全に通行しやすくする。併せて、イベント時に活用したい(歩行者天国として利用したい)
- ・トイレをきれいにしてほしい
- ・タクシースペースを移動して、駅舎前にシェルターや送迎スペースを設置してほしい
- ・駐輪場は線路側にまとめ、自転車通行空間を確保

等の意見が出ました。

(C グループ)
わっしょい
グループ



<採用案>【広場:案2、県道:案1】



- ・何らかの聖地をつくれれば人が集まりにぎわいが生まれる
- ・トイレは必ず改修してほしい
- ・勉強できる場所、オープンスペースが欲しい
- ・県道は街路樹を活かした歩道空間にしたい
- ・イルミネーションや管理しやすい樹木に変える
- ・街路樹の間や将来できるカフェの前などにベンチがほしい

等の意見が出ました。

(D グループ)
鶴崎ラブ
グループ



<採用案>【広場:案3、県道:案2】



- ・にぎわい創出を優先し、駅前の広場スペースを活用する
- ・県道は朝夕の渋滞緩和を目的に案2を採用した
- ・県道中央の植樹帯をなくし、歩道を広げる
- ・歩道と広場にシェルターと屋根を設け、雨の日の交通渋滞軽減や人が集まるようにする

等の意見が出ました。

おわりに



鶴崎駅前広場整備基本計画策定委員会 委員長 亀野辰三 氏(大分高専名誉教授)より講評をいただきました。一部、ご紹介いたします！

ワークショップでは、**意欲的に参加する・よく考える・過程を楽しむ**ことが大切であり、またその姿勢がより良いまちづくりにつながります。今回のワークショップは、若い世代を交えたグループワークの中で、一生懸命に考え、アイデアを出し合う姿が見られました。策定委員会では、“みんなでつくった”と誇りに思えるような鶴崎駅前広場の計画を考えてまいります。

【今後の動きについて】

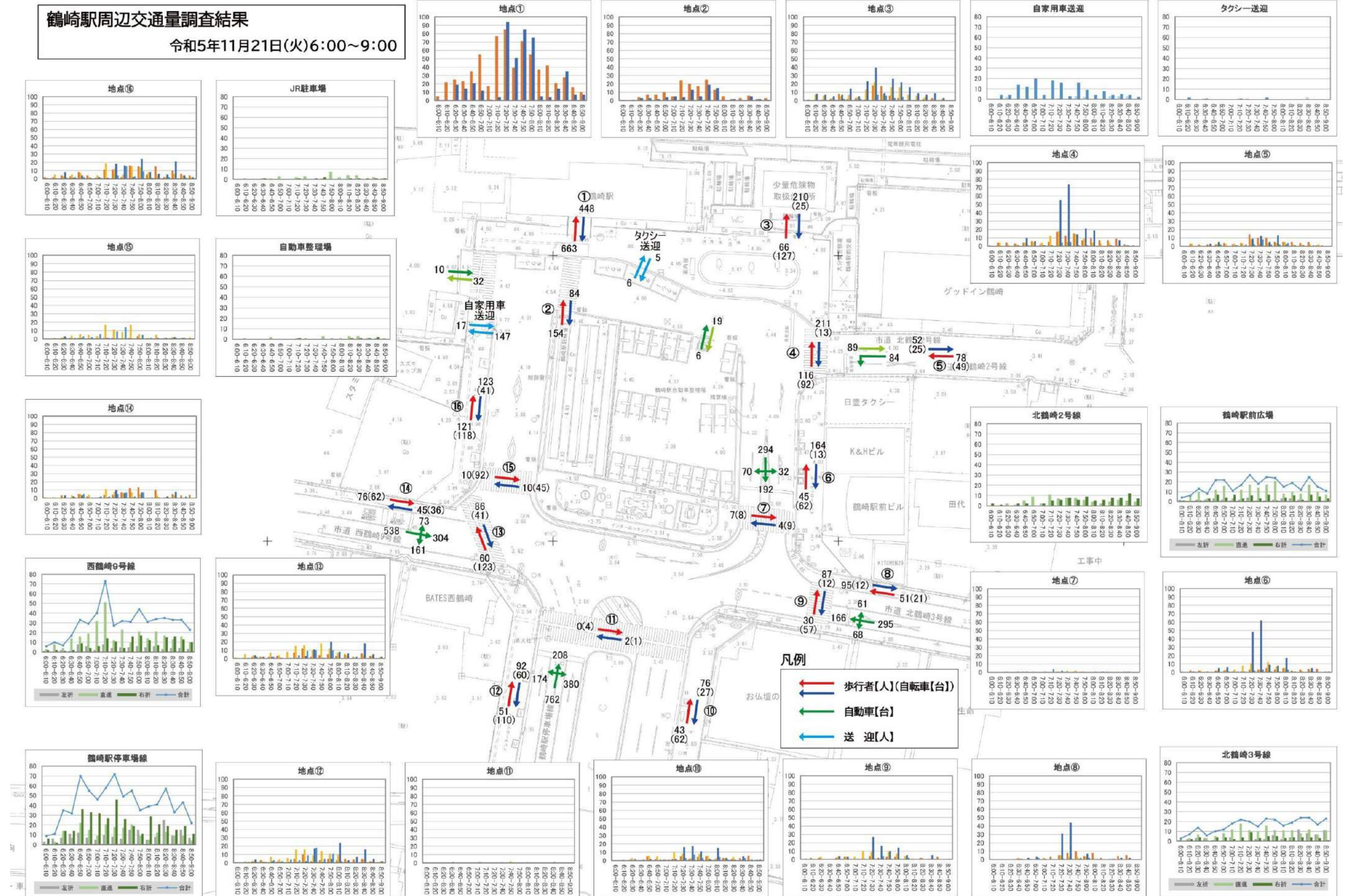
「鶴崎駅前広場整備基本計画策定」に向けて、**ワークショップの意見**と**推進協議会(事務局:鶴崎支所)の意見**を策定委員会に図り検討を行っていきます。

これまでワークショップにご参加、ご協力いただき本当にありがとうございました。
より良い計画となるように今後も取り組んでまいります。

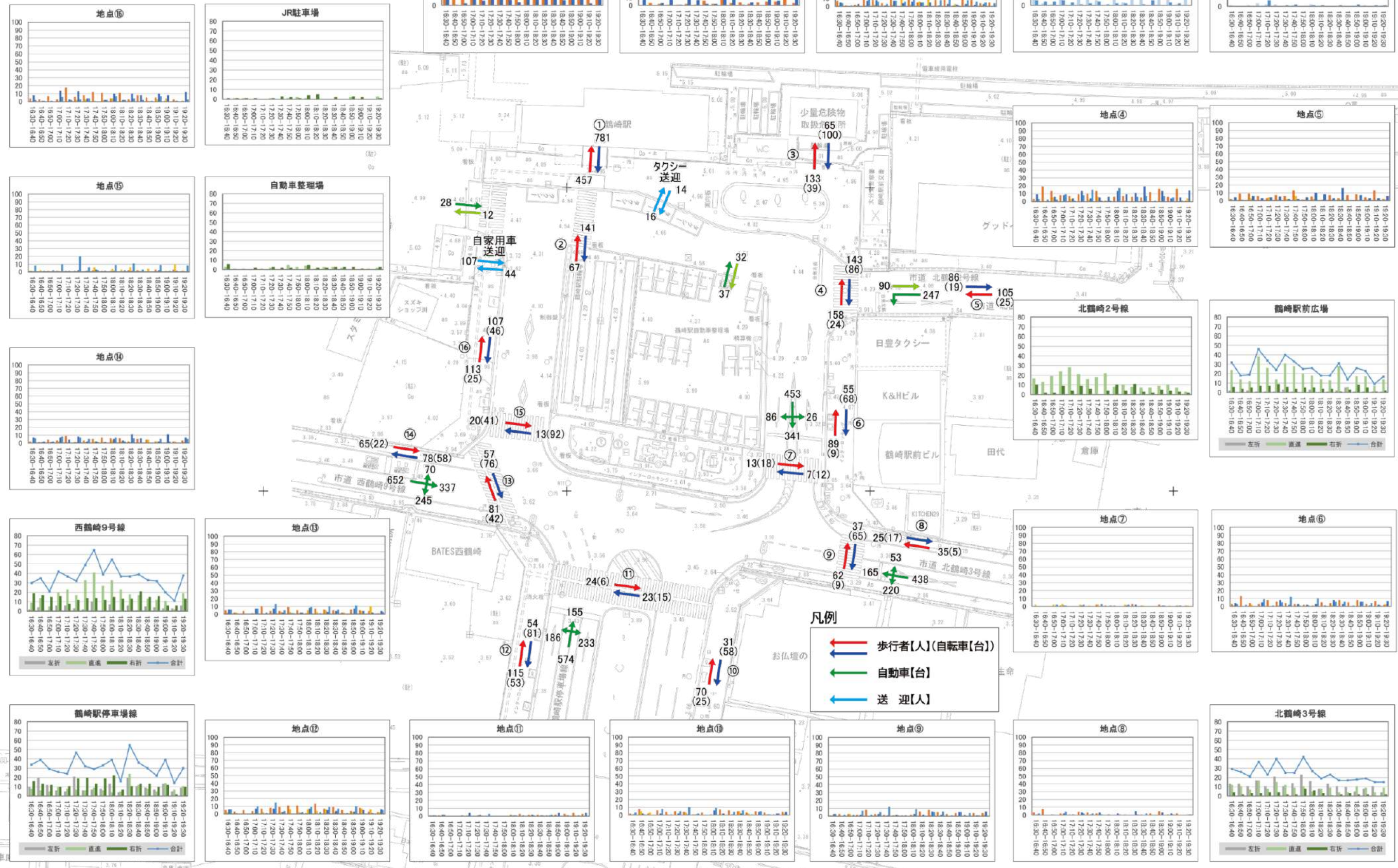
(事務局より)

3. 交通量調査結果

本計画の策定にあたり、JR 鶴崎駅の利用実態を踏まえ、必要となる施設規模や配置を検討することを目的として、歩行者、自転車、自動車の利用状況について、下記のとおり実態調査を実施しました。



鶴崎駅周辺交通量調査結果
令和6年7月9日(火)16:30~19:30



4. 鶴崎駅前広場の将来利用者数（目標値）

(1) JR 鶴崎駅の利用者数

令和 6 年 7 月現在、大分市統計年鑑（令和 5 年度）で公表されている年間乗車人員（人/年）をもとに、1 日当り 1 往復として駅の利用者数（人/日）を算出しています。

令和 2 年度以降はコロナ禍の影響で利用者数が減少しているため、コロナ禍以前となる令和元年度の 3,844 人を現在の利用者数として設定します。

年度	年間乗車人員 （人/年）	利用者数（人/日）の算出
平成 30 年度	714,670	$714,670 \times 2 / 365 = 3,916$ 人
令和元年度	701,530	$701,530 \times 2 / 365 = 3,844$ 人
令和 2 年度	564,290	$564,290 \times 2 / 365 = 3,092$ 人
令和 3 年度	562,100	$562,100 \times 2 / 365 = 3,080$ 人
令和 4 年度	614,295	$614,295 \times 2 / 365 = 3,366$ 人

資料：大分市統計年鑑（令和 5 年度）

図 JR 鶴崎駅の利用者数

(2) 将来の駅前広場利用者数の設定

「(1) JR 鶴崎駅の利用者数」で示した駅利用者数（3,844 人）を踏まえ、駅勢圏の人口動向および鶴崎駅周辺のまちづくりの動向を考慮し、将来の駅前広場利用者数を設定します。

① 駅勢圏の設定

JR 鶴崎駅の駅勢圏については、以下の周辺状況を踏まえて、鶴崎中学校区を駅勢圏として設定します。

- ・ JR 鶴崎駅の東西には約 3.0km 間隔で JR 高城駅と JR 大在駅が位置しており、両駅の間となる 1.5 km 程度の範囲を含みます。
- ・ 北側は乙津川と大野川に挟まれた範囲とします。
- ・ 南側は大分鶴崎工業高校を目安とします。

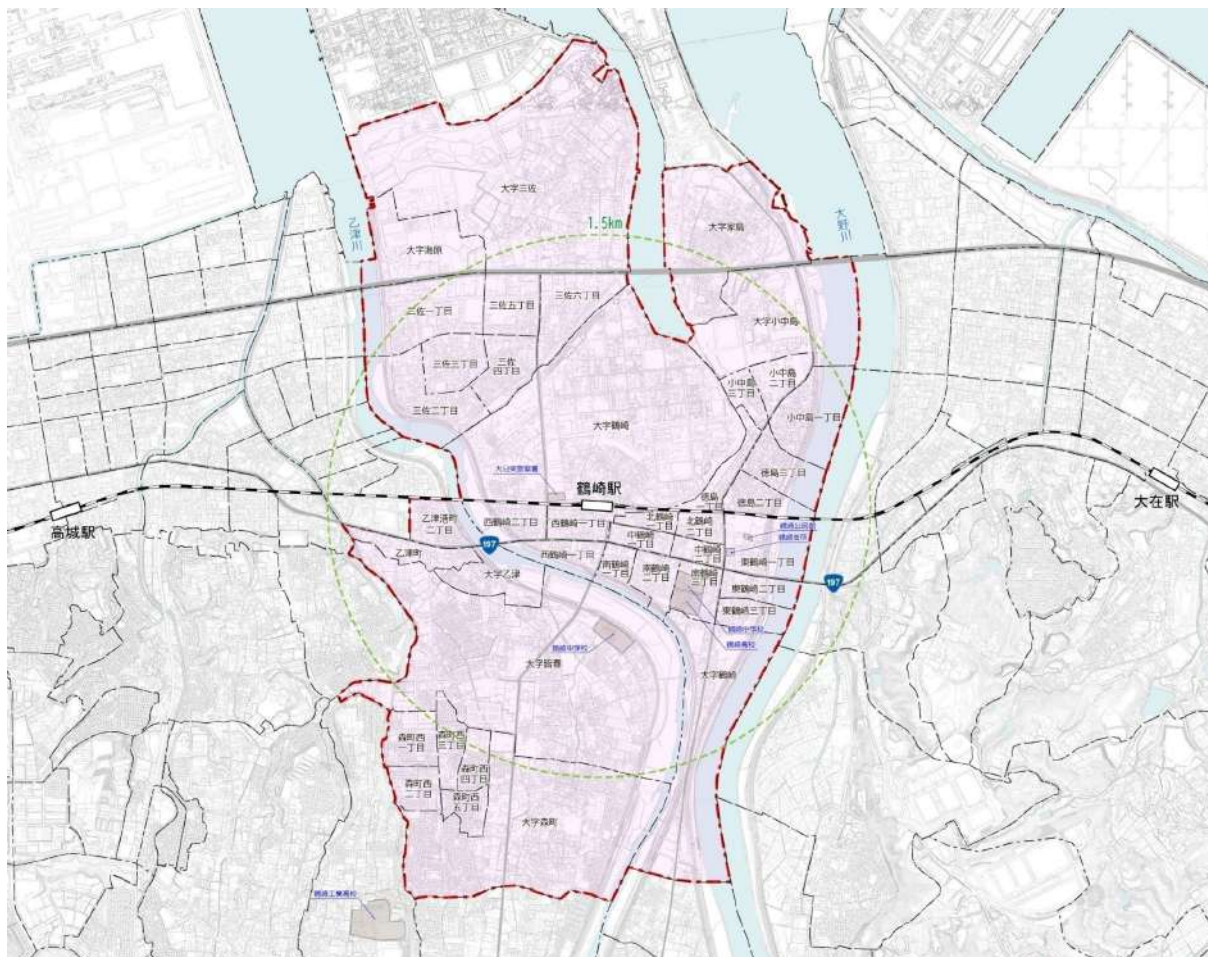


図 JR 鶴崎駅の駅勢圏

② 目標値の設定

駅勢圏内の鶴崎校区の人口は近年減少傾向（図 1.1.2）にあり、少子高齢化が進んでいますが、鶴崎地域の将来人口は増加する見込み（図 1.1.1）です。

今後の駅勢圏の人口動向や鶴崎駅周辺のまちづくりの動向を考慮し、現在の駅利用者数を維持することを目標とします。

これに基づき、将来(令和 27 年)の駅前広場利用者数を 3,900（人/日）と設定します。

将来の駅前広場利用者数：3,900 人/日

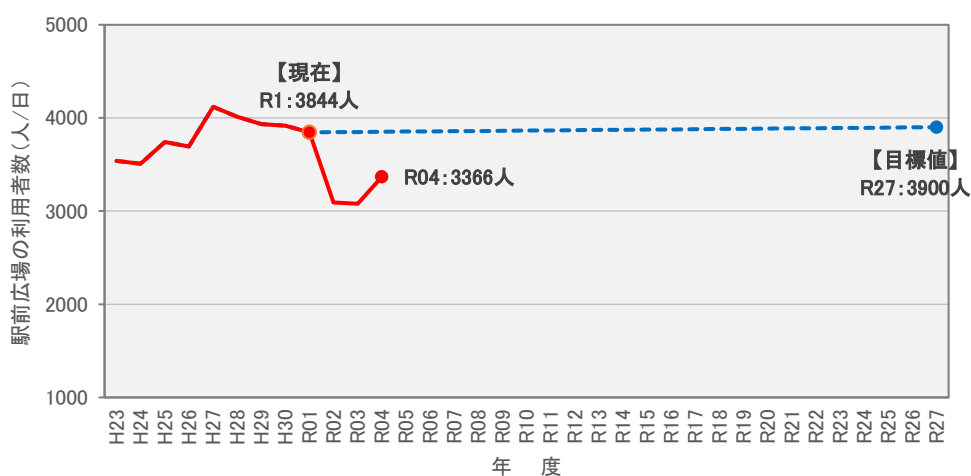


図 駅前広場の目標値

5. 鶴崎駅前広場整備基本計画の策定経過

2023（令和5）年度		
2023（令和5）年	11月6日	第1回 鶴崎駅前広場整備基本計画策定委員会 ・ 鶴崎駅前広場整備基本計画の検討体制について ・ 鶴崎駅前広場整備基本構想について ・ 鶴崎駅前広場の現況について ・ 鶴崎駅前広場の課題整理と今後の取組みについて
	12月12日	第1回 鶴崎駅周辺整備推進協議会（第1回 鶴崎駅前広場分科会） ・ 鶴崎駅周辺整備基本構想及び鶴崎駅前広場整備基本計画について ・ 鶴崎駅前広場整備に関する要望事項について
	12月16日	第1回 鶴崎駅前広場に関するワークショップ ・ 現状把握（まち歩き） ・ 課題整理
2024（令和6）年	1月20日	第2回 鶴崎駅前広場に関するワークショップ ・ 鶴崎の歴史・文化について ・ ゾーニング
	3月2日	第3回 鶴崎駅前広場に関するワークショップ ・ 導入する施設について ・ 駅前広場のレイアウトについて
	3月7日	第2回 鶴崎駅周辺整備推進協議会（第2回 鶴崎駅前広場分科会） ・ 鶴崎駅前広場に関する説明 ・ 鶴崎駅前広場整備に関する要望事項について
	3月29日	第2回 鶴崎駅前広場整備基本計画策定委員会 ・ 駅前広場の交通量調査結果について ・ ワークショップについて ・ 第1回～第3回ワークショップの成果について ・ ワークショップから得られた整備の方向性について

2024（令和6）年度		
2024（令和6）年	11月26日	第3回 鶴崎駅周辺整備推進協議会（第3回 鶴崎駅前整備分科会） ・ 鶴崎駅前広場整備基本計画について ・ 街路樹の役割および同意書について
	12月20日	第3回 鶴崎駅前広場整備基本計画策定委員会 ・ 鶴崎駅前広場基本計画（素案）について
2025（令和7）年	2月28日	第4回 鶴崎駅前広場整備基本計画策定委員会 ・ 第3回策定委員会等からの主な意見について ・ 鶴崎駅前広場整備基本計画への反映箇所 ・ 今後の進め方
2025（令和7）年度		
2025（令和7）年	4月	鶴崎駅前広場整備基本計画の策定

6. 策定委員会名簿

氏 名	所属団体・役職	備 考
亀野 辰三	独立行政法人 国立高等専門学校機構 大分工業高等専門学校 名誉教授	委員長
小野 治子	公立大学法人 大分県立看護科学大学 講師	
吉村 充功	学校法人 文理学園 日本文理大学 教授	
渡邊 博子	国立大学法人 大分大学 教授	

7. 用語解説

見出し	語 句	解 説
あ行	アクセス	接近、近づくための交通手段。
	駅勢圏	駅を利用する需要の存在が期待できる地理的な範囲のこと。
	オープンスペース	公園などの公共施設において、建物などによって覆われていない土地の総称。
か行	環境空間	都市の広場としての機能を果たすための空間。
	建築限界	道路上で車両や歩行者の交通の安全を確保するために、ある一定の幅、ある一定の高さの範囲内には障害となるような物を置いてはいけないという空間確保の限界。
	交通空間	交通結節点としての機能を担う空間。
	交通結節点	複数あるいは異種の交通手段の接続が行われる場所。
	合意形成	皆が納得できるように創意工夫をしながら、多様な意見をまとめること。
	跨線橋	鉄道線路を超えるためにその上にかけ渡した橋。
	混雑度	交通容量に対する交通量の比。主に該当路線の混雑状況を示す指標として使用される。
さ行	シェルター	天候等から身を守るための雨風をしのげる場所。
	修景	都市計画や道路計画などで、まち並みとの調和を図り、自然の美しさを損なわないように風景を整備すること。
	自由通路	既存の駐車場で鉄道と交差し、専ら歩行者、自転車の交通の用に供する道路又は通路等をいう。
	照度	光の強さを示す指標で、特定の面における光の明るさを表す。照明計画や安全性の確保において重要な要素。
	植樹帯	専ら良好な道路交通環境の整備、沿道における良好な生活環境の確保または都市部の良好な公共空間の形成という目的を持って設置されるもの。
	全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）	全国の道路と道路利用の実態を捉え、将来の道路整備の方向を明らかにするため、全国の道路状況、交通量、旅行速度、自動車運行の出発地・目的地、運行目的等を調査するもの。（最新実施年度：令和3年度）
た行	中央帯	道路を往復の方向に分離するために設けられる帯状の道路の部分。
	低・未利用地	利用されていない土地や、利用が低い土地を指す。
	都市計画決定	都市計画法に基づき、土地利用（土地の用途など）、都市施設（道路、公園、上下水道など）、計画的な市街地形成などについて計画を定めること。
	動線	人や物が移動する際の経路や方向のこと。
	道路線形	線形とは、道路の中心線が3次元空間において立体的に描く形状のこと。本計画では、主に平面的に見た道路の中心線の形状（平面線形）をいう。

見出し	語句	解説
は行	パークアンドライド	自宅から最寄りの駅やバス停の周辺にある駐車場に駐車し、そこから公共交通機関（主に鉄道やバス）に乗り換えて、目的地に向かう方法のこと。
	バリアフリー	だれもが社会生活をしていく上で、障壁（バリア）となるものを取り除くこと。
	ふれあい交通	時刻表に従い、公共交通の利用が不便な地域から、最寄りの路線バスの停留所までを結ぶ登録制・予約制の乗合タクシーのこと。
や行	ユニバーサルデザイン	障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすい都市や生活環境をデザインする考え方。
ら行	流入・流出	人や車両が特定のエリアに入ること及び出ること。
わ行	ワークショップ	まちづくりなどについて、様々な立場の人々が参加し、技術や知恵を寄せ合い、共同作業によって解決案を考えたり、提案を行うこと。

※公的機関等の資料をもとに作成しています。



鶴崎駅前広場整備基本計画

大分市 都市計画部 まちなみ企画課

2025（令和 7）年 4 月 策定